

田川市文化財調査報告書第20集

田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書（3）

令和2～4年度の各種開発に伴う試掘・確認・発掘調査報告

2024

田川市教育委員会

序

福岡県の東北部に位置する田川市は、旧石器時代から近代に至るまで、先人たちの足跡である文化財が多く存在し、歴史や文化を解明するためにかけがえのない財産でもあります。

本書は、令和2年度から令和4年度に実施した市内遺跡の試掘・確認調査および発掘調査の報告書です。これらの成果は、本市の歴史的景観を復元するにあたり、欠くことのできない貴重な資料と言えるでしょう。市民の皆様の地域理解の一助として、また学術的な研究資料として広く活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、試掘・確認調査および発掘調査、本書の作成にあたり、ご指導とご助言、ご協力をいただきました多くの関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和6（2024）年3月

田川市教育委員会
教育長 小林 清

例　　言

1. 本書は、令和2～令和4年度に実施した各種開発事業に伴う田川市内の試掘・確認・発掘調査に関する調査報告書である。
2. 試掘・確認・発掘調査、整理作業・報告書作成は、田川市教育委員会生涯学習課が実施した。
3. 遺構全体図に用いた国土座標は、世界測地系（測地成果2000）で表示した。また、遺構平面図に付す方位針は磁北である。
4. 第III章第4節のうち1～3次は住宅建設工事に伴い、事業者の負担を受け、田川市教育委員会が実施した。
5. 空中写真撮影は令和2・3年度が株式会社測技、令和4年度が株式会社九州航空株式会社へ委託した。
6. 本書で使用した遺構・遺物の実測及び製図、写真撮影を是石明日香の協力のもと、調査担当者がおこなった。
7. 土層断面図及び出土土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2003年度版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
8. 木製品の保存処理は、小林啓氏（九州歴史資料館）、木林俊英氏（別府大学大学院）に依頼した。
9. 本書の執筆は、第IV章を株式会社古環境研究所、第VI章第2節を九州大学田渕朱莉氏・米元史織氏・舟橋京子氏、その他の執筆と編集を調査担当者がおこなった。
10. 出土遺物、図面、写真等の記録類は、田川市教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 本書に掲載される遺構の性格を表記する記号は、以下のとおりである。
SB：建物跡、SD：溝跡、SI：竪穴建物跡、SK：土坑跡・貯蔵穴跡、SN：水田跡、SP：柱穴跡
2. 試掘・確認調査の調査区配置に示した「T」は、調査区を表わす。
3. 本書で用いる時期・分類は、以下の文献に記載されている。
弥生土器 武末 純一他 2006「二 弥生土器の編年と地域間交流」『行橋市史 資料編 原始・古代』行橋市
古式土師器 久住 猛雄 1991「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究 XIX』庄内式土器研究会
松浦 宇哲他 2017「筑豊の古式土師器」『九州島における古式土師器』第19回九州前方後円墳研究会
輸入陶磁器 太宰府市教育委員会 2000『太宰府市条坊跡 XV』太宰府市の文化財第49集
木 製 品 奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所史料第27冊
奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録 近畿原始編（解説）』奈良国立文化財研究所史料第36冊
4. 次の挿図の出典は、以下のとおりである。
第1～4図：田川市建設経済部都市計画課（国土地理院『承認番号 平成22九公第28号』）
5. 試掘・確認調査位置図のスケールは5,000分の1、調査区配置図や発掘調査の実測図は、必要に応じたスケール、出土遺物実測図のスケールは3分の1、4分の1とした。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 地理的・歴史的環境	1
第Ⅱ章 試掘・確認調査の記録	10
第1節 令和2年度試掘・確認調査の概要	10
第2節 令和3年度試掘・確認調査の概要	16
第3節 令和4年度試掘・確認調査の概要	23
第4節 試掘・確認調査・工事立会出土遺物	36
第Ⅲ章 市内遺跡発掘調査の記録	37
第1節 鎮西遺跡の調査	37
第2節 猫迫1号墳3・4次の調査	42
第3節 大黒町遺跡の調査	44
第4節 弓削田条里跡1～4次の調査	47
第5節 上の原遺跡群6次の調査	52
第6節 弓削田条里跡5次の調査	55
第Ⅳ章 自然科学分析	56
第1節 猫迫1号墳4次自然科学分析	56
第Ⅴ章 まとめ	57
第VI章 附編	59
第1節 上の原遺跡群1次出土遺物	59
第2節 蛍ヶ丘横穴群出土人骨について	59

挿図目次

第1図 市内遺跡等分布図	第19図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
第2図 令和2・3年度試掘・確認調査地位置図	第20図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第3図 令和4年度試掘・確認調査地位置図	第21図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第4図 上伊田条里跡位置図、調査区配置図	第22図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第5図 上伊田条里跡位置図、調査区配置図	第23図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
第6図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図	第24図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第7図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第25図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
第8図 下位登遺跡位置図、調査区配置図	第26図 セストドノ古墳位置図、調査区配置図
第9図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第27図 大黒町遺跡位置図、調査区配置図
第10図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図	第28図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第11図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第29図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第12図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第30図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第13図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図	第31図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第14図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第32図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第15図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第33図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
第16図 桐ヶ丘遺跡位置図、調査区配置図	第34図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
第17図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図	第35図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
第18図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図	第36図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図

- 第37図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第38図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図
 第39図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図
 第40図 上の原遺跡群位置図、調査区配置図
 第41図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第42図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第43図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第44図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第45図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第46図 番町遺跡位置図、調査区配置図
 第47図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第48図 弓削田原A遺跡位置図、調査区配置図
 第49図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図
 第50図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第51図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第52図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図
 第53図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図
 第54図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第55図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第56図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第57図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第58図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第59図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第60図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第61図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第62図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第63図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第64図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図
 第65図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図
 第66図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第67図 下伊田条里跡位置図、調査区配置図
 第68図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第69図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第70図 弓削田原C遺跡位置図、調査区配置図
 第71図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図
 第72図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図
 第73図 試掘・確認調査等出土遺物実測図
 第74図 鎮西遺跡遺構配置図、土層実測図
 第75図 遺構実測図
 第76図 出土遺物実測図①
 第77図 出土遺物実測図②
 第78図 猫迫1号墳遺構配置図
 第79図 3次遺構・出土遺物実測図
 第80図 4次遺構実測図
 第81図 大黒町遺跡調査位置図
 第82図 遺構配置図
 第83図 遺構・出土遺物実測図
 第84図 弓削田条里跡1～4次調査位置図
 第85図 1・2次遺構実測図
 第86図 3・4次遺構・出土遺物実測図
 第87図 上の原遺跡群6次遺構配置図
 第88図 遺構実測図
 第89図 出土遺物実測図
 第90図 弓削田条里跡5次調査位置図
 第91図 遺構実測図

附編挿図目次

- | | |
|-------------|-------------|
| 図1 出土遺物実測図 | 図4 3号人骨遺存状態 |
| 図2 1号人骨遺存状態 | 図5 4号人骨遺存状態 |
| 図3 2号人骨遺存状態 | 図6 主成分分析結果 |

表目次

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 表1 令和2～4年度 埋蔵文化財保護調整一覧(件) | 表6 令和4年度試掘・確認調査一覧 |
| 表2 令和2年度試掘・確認調査一覧 | 表7 令和4年度工事立会等一覧 |
| 表3 令和2年度工事立会等一覧 | 表8 遺物観察 |
| 表4 令和3年度試掘・確認調査一覧 | 表9 遺構台帳 |
| 表5 令和3年度工事立会等一覧 | |

附編表目次

表1 頭蓋骨計測値

表2 頭蓋骨計測値7項目の固有ベクトルと各成分
の固有値及び寄与率

図版目次

図版1

- | | |
|------------|-----------|
| ① 上伊田条里跡 | ⑤ 下位登遺跡T3 |
| ② 上伊田条里跡 | ⑥ 包蔵地外 |
| ③ 弓削田条里跡T2 | ⑦ 弓削田条里跡 |
| ④ 包蔵地外T1 | ⑧ 包蔵地外 |

図版2

- | | |
|----------|-----------|
| ① 包蔵地外T1 | ⑤ 弓削田原B遺跡 |
| ② 包蔵地外T2 | ⑥ 桐ヶ丘遺跡 |
| ③ 包蔵地外T3 | ⑦ 包蔵地外T1 |
| ④ 包蔵地外T5 | ⑧ 包蔵地外T2 |

図版3

- | | |
|----------|-----------|
| ① 包蔵地外T3 | ⑤ 包蔵地外T7 |
| ② 包蔵地外T4 | ⑥ 包蔵地外T8 |
| ③ 包蔵地外T5 | ⑦ 包蔵地外T9 |
| ④ 包蔵地外T6 | ⑧ 包蔵地外T10 |

図版4

- | | |
|------------|------------|
| ① 弓削田条里跡 | ⑤ 弓削田条里跡 |
| ② 弓削田条里跡T1 | ⑥ 包蔵地外 |
| ③ 弓削田条里跡T6 | ⑦ 弓削田条里跡 |
| ④ 包蔵地外T2 | ⑧ セスドノ古墳T1 |

図版5

- | | |
|------------|----------|
| ① セスドノ古墳T2 | ⑤ 包蔵地外 |
| ② 大黒町遺跡 | ⑥ 包蔵地外T1 |
| ③ 包蔵地外T2 | ⑦ 包蔵地外T1 |
| ④ 包蔵地外 | ⑧ 包蔵地外T1 |

図版6

- | | |
|----------|----------|
| ① 包蔵地外T2 | ⑤ 包蔵地外T6 |
| ② 包蔵地外T3 | ⑥ 包蔵地外T8 |
| ③ 包蔵地外T4 | ⑦ 包蔵地外 |
| ④ 包蔵地外T5 | ⑧ 包蔵地外 |

図版7

- | | |
|------------|------------|
| ① 弓削田条里跡T2 | ⑤ 猫迫1号墳T2 |
| ② 弓削田条里跡 | ⑥ 猫迫1号墳T1 |
| ③ 包蔵地外T1 | ⑦ 猫迫1号墳T2 |
| ④ 包蔵地外 | ⑧ 上の原遺跡群T1 |

図版8

- | | |
|------------|----------|
| ① 上の原遺跡群T2 | ⑤ 包蔵地外 |
| ② 上の原遺跡群T3 | ⑥ 包蔵地外T1 |
| ③ 上の原遺跡群T4 | ⑦ 包蔵地外T2 |
| ④ 弓削田条里跡 | ⑧ 包蔵地外 |

図版9

- | | |
|------------|-----------|
| ① 弓削田条里跡T2 | ⑤ 猫迫1号墳T1 |
| ② 番町遺跡 | ⑥ 猫迫1号墳T2 |
| ③ 弓削田条里跡T1 | ⑦ 包蔵地外 |
| ④ 弓削田原A遺跡 | ⑧ 包蔵地外 |

図版10

- | | |
|-----------|----------|
| ① 猫迫1号墳T1 | ⑤ 包蔵地外T1 |
| ② 猫迫1号墳 | ⑥ 包蔵地外 |
| ③ 包蔵地外T1 | ⑦ 包蔵地外 |
| ④ 包蔵地外 | ⑧ 包蔵地外 |

図版11

- | | |
|-----------|------------|
| ① 弓削田条里跡 | ⑤ 下伊田条里跡T1 |
| ② 弓削田条里跡 | ⑥ 包蔵地外 |
| ③ 弓削田条里跡 | ⑦ 包蔵地外 |
| ④ 弓削田原B遺跡 | ⑧ 弓削田原C遺跡 |

図版12

- | | |
|-------------|--------------|
| ① 弓削田原B遺跡T1 | ⑤ 試掘調査出土遺物 |
| ② 弓削田原B遺跡T2 | (木製品) |
| ③ 弓削田原B遺跡T3 | ⑥ 鎮西遺跡SD3堆積 |
| ④ 試掘・確認調査、 | 状況 |
| 工事立会出土遺物 | ⑦ SD3完掘状況 |
| | ⑧ SK5・10完掘状況 |

図版13

- | | |
|-------------|---------|
| ① SK6～8完掘状況 | ④ 出土遺物1 |
| ② 調査区北壁堆積状況 | ⑤ 空中写真 |
| ③ 調査区南壁堆積状況 | |

図版14

- | | |
|-------------|-----------|
| ① 出土遺物2 | ⑤ SI1完掘状況 |
| ② 出土遺物3 | ⑥ SK2堆積状況 |
| ③ 猫迫1号墳SI1検 | ⑦ SK2完掘状況 |
| 出状況 | ⑧ SK3完掘状況 |
| ④ SI1堆積状況 | |

図版 15

- ① SI 2 炉跡堆積状況
- ② SI 2 完掘状況
- ③ SI 3 炉跡堆積状況
- ④ SI 3 完掘状況 1
- ⑤ SI 3 完掘状況 2
- ⑥ 出土遺物
- ⑦ 大黒町遺跡 SD 5 検出
- ⑧ SN 3・SD 5 完掘状況

図版 16

- ① 柱跡完掘状況
- ② SN 6 堆積状況
- ③ SD 8 堆積状況
- ④ 出土遺物
- ⑤ 空中写真

図版 17

- ① 弓削田条里跡 1 次
- ② 1 次堆積状況
- ③ 2 次堆積状況北側
- ④ 2 次堆積状況南側
- ⑤ 3 次東堆積状況
- ⑥ 3 次西堆積状況
- ⑦ 3 次西堆積状況西壁
- ⑧ 木製品出土状況

図版 18

- ① 出土遺物（土器）
- ② 出土遺物（木製品）
- ③ 4 次堆積状況
- ④ 4 次検出状況
- ⑤ 木製品出土状況 1
- ⑥ 木製品出土状況 2
- ⑦ 上の原遺跡群 6 次
- SI150 検出状況
- SI150 完掘状況

図版 19

- ① SI210 堆積状況
- ② SI210 完掘状況
- ③ SK205 堆積状況
- ④ SK205 炭化物検出
- ⑤ SK205 完掘状況
- ⑥ SK215 完掘状況
- ⑦ 出土遺物 1
- ⑧ 出土遺物 2

図版 20

- ① 出土遺物 3
- ② 出土遺物 4
- ③ 空中写真
- ④ 弓削田条里跡 5 次南側堆積状況
- ⑤ 完掘状況

自然科学分析・附編図版 目次

自然科学分析・附編図版 1

- 図版 1 炭化材
- 1 号人骨上面観
- 1 号人骨正面観
- 1 号人骨側面観
- 1 号人骨上顎
- 2 号人骨上面観
- 2 号人骨正面観
- 2 号人骨側面観
- 2 号人骨下顎

附編図版 3

- 3 号人骨上面観
- 3 号人骨正面観
- 3 号人骨側面観
- 3 号人骨下肢
- 4 号人骨頭蓋骨
- 帰属不明腰椎

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯（表1）

令和2（2020）～令和4（2022）年度の田川市における試掘・確認調査件数及び法93条届出・94条通知件数は、令和3（2021）年度まで増加し、その後減少傾向である。この要因として、市立中学校の統廃合と新校舎建設等を受けて、土地市場が活発となり、宅地造成と個人住宅建設が進んだ結果と考えられる。併せて、試掘調査の件数も増加した結果、新規の周知化を図った包蔵地も増加している。この他に県公共事業等の試掘・確認調査に対応しつつ、発掘調査・整理作業を進めている。

表1 令和2～4年度 埋蔵文化財保護調整一覧（件）

年度	照会受付票		計	至試掘調査	至確認調査	93条届出・94条通知	調査内容				周知化	
	民間	行政					慎重工事	工事立会	記録保存	至本調査		
令和2	320	10	330	8	9	15	11	2	3	3	2	大黒町遺跡、弓削田原D遺跡
令和3	343	8	351	13	10	49	18	23	5	5	2	川宮遺跡、鎮西公園側遺跡
令和4	327	10	337	14	14	45	27	16	2	3	1	丸山町遺跡

第2節 調査組織

令和2～令和4年度の発掘調査等、令和5年度の整理作業等に係る関係者は下記のとおりである。

田川市教育委員会

令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
教育長	吉柳 啓二	吉柳 啓二	吉柳 啓二	吉柳 啓二	吉柳 啓二	吉柳 啓二(令和5年6月12日まで)	
教育部長	賤津 嘉久	賤津 嘉久	賤津 嘉久	賤津 嘉久	賤津 嘉久	小林 清(令和5年7月11日から)	盛坪 達人(令和5年6月1日から)
文化生涯学習課							
課長	立田 昌子	立田 昌子	森田 竜治	森田 竜治	森田 竜治	森田 竜治	
課長補佐	進村 順次(令和3年1月22日まで)	進村 順次	進村 順次	進村 順次	進村 順次	進村 順次	
課長補佐兼文化係長	進村 順次(令和3年1月22日から)						
文化係長	奥 慎一(令和3年1月22日まで)	中田 浩史	河端 友美	河端 友美(令和5年8月1日まで)	河端 友美(令和5年8月1日まで)	中村 太郎(令和5年8月1日から)	
事務主査	原 俊英	廣井 康司	福本 寛	福本 寛	福本 寛	福本 寛	
	福本 寛	福本 寛					
主任	森本 弘行(再任用)	森本 弘行(再任用)					
学芸員	朝鳥 和美	朝鳥 和美	朝鳥 和美	朝鳥 和美	朝鳥 和美	朝鳥 和美	
	中村 麻里	中村 麻里	中村 麻里	中村 麻里	中村 麻里	中村 麻里	
	江上 正高(調査担当)	江上 正高(調査担当)	江上 正高(調査担当)	江上 正高(調査担当)	江上 正高(整理担当)	江上 正高(整理担当)	
会計年度任用職員	古賀 彩音	古賀 彩音	田野崎隆雄	田野崎隆雄	是石明日香	是石明日香	

試掘・確認調査、発掘調査の期間中、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の対策を講じたうえ、作業を進めた。また、試掘・確認調査、発掘調査、整理・報告書作成については、多くの方々からご指導ご協力をいただきました。ここに謝意を表します。

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課 福岡県田川県土整備事務所 筑豊文化財行政連絡協議会
飯塚市歴史資料館長 嶋田光一 福智町教育委員会文化財保護指導員 小池 史哲

第3節 地理的・歴史的環境（第1図）

(1) 地理的環境

福岡県の北東部に位置する田川市は、南北最長約14km、東西最長約9km、総面積約55km²、標高約

20～約 60 mに及ぶ。地形は東側から北側を貫山地や福智山地、西側を金国山地、南側を英彦山地の三方を山地に囲まれた盆地を呈する。河川は盆地の東側を福智山系に沿って彦山川、西側を金国山地に沿って中元寺川が北流し、福智町で合流するが、彦山川には金辺川や御祓川、中元寺川には猪位金川や泌川の支流が合流する。この両河川により谷底平野を形成、中央は田川中央丘陵（大峯丘陵）と呼ばれ、添田町中元寺より川崎町大峯を経て本市を東西に二分し、両河川の合流点まで続く。

本市の地質は、北側の福智山地に石灰岩が分布し、カルスト地形が発達している。市北東部の岩屋地区には鍾乳洞が点在し、そのうち第一が岩屋鍾乳洞として県指定天然記念物に指定されている。市中央部の田川中央丘陵は、古第三紀層を基盤としており、層中に豊富な石炭を埋蔵し、筑豊炭田の一部を形成する。古第三紀層の上層には更新世末期の阿蘇山の噴火による火山灰が堆積し、灰石台地が形成される。寺の上遺跡・上の原遺跡群が展開する台地裾部の切通しには、今から約 9 万年前の aso-4 火碎流堆積層が確認されている。市西部は古生代の堆積岩や変成岩から構成され、関の山から船尾山は石灰岩から成る。市南西部の摺鉢山（帝王山）は、市内で唯一の火山岩から成る山体である。周辺地域とは古来より北東側を仲哀峠、西側を鳥尾峠、南西側を猪膝峠と、両河川の水系を経た交通が営まれた。

【参考文献】田川市自然環境調査研究会 2008『田川市の自然環境』田川市福祉部環境対策課

(2) 歴史的環境（第1図）

本市では旧石器時代の遺構は確認されていないが、寺の上遺跡でナイフ形石器、猫迫1号墳墳丘土から翼状剥片、上本町遺跡で落とし穴状遺構、上の原遺跡群で縄文時代の剥片石器が確認されている。

弥生時代になると、前期後半頃から田川中央丘陵の低丘陵地に上の原遺跡群、倉ヶ原遺跡、長谷池遺跡、鎮西公園内遺跡で集落跡が確認できる。墓制は中期後半頃から、箱式石棺・石蓋土壙墓・土壙墓が構築される。寺の上遺跡は箱式石棺内出土の中細銅劍が副葬品として確認されている。この他に、同遺跡から銅劍 2 本の出土が伝わる。夫婦塚遺跡は一辺約 30 m の区画を設け、三辺を自然石の列石をめぐらす。弥生時代終末頃から古墳時代の特定個人墓へ変遷が捉えられる。

古墳時代前期は、中元寺川流域で前方後円墳とされる位登古墳が築かれる。現存長約 52 m、後円部径は約 28 m を測る。彦山川流域では長谷池遺跡群、経塚遺跡、桐ヶ丘遺跡で箱式石棺墓が築かれる。集落は上の原遺跡群や猫迫1号墳で堅穴建物跡が確認されている。中期は猫迫1号墳（5世紀前半頃）、セスドノ古墳（5世紀後半頃）が挙げられる。猫迫1号墳は墳丘径約 27 m、墳形が造り出しと周溝をもつ帆立貝式古墳と推定され、埋葬施設は堅穴系横口式石室を備える。セスドノ古墳（県指定史跡）は直径約 35 m、高さ約 6 m の大型円墳で埋葬施設は堅穴系横口式石室を備え、未盗掘の古墳と捉えられる。後・終末期の石室墳は、夏吉地区に 40 数基で構成される夏吉古墳群が挙げられ、6世紀前半頃の9号墳から築造が開始され、7世紀代まで脈々と続く。石室墳と葬送施設の相違が見られる横穴墓は、古第三紀層を穿って築造されているが、中元寺川流域より彦山川流域に多く分布する。

古代から近世の遺跡数は限られる。本市は田河郡に属し、天台寺跡（上伊田廃寺・市指定史跡）が築かれる。創建時は金堂と講堂が中軸線を合わせた伽藍配置、その後、塔・金堂・講堂が揃う伽藍配置へ変化する。出土した瓦は新羅系・百濟系・高句麗系であり、創建時が7世紀後半、廃絶期が9世紀後半と考えられる。天台寺瓦窯跡は2基築かれ、階段式登り窯で、天台寺創建時の瓦である鎧瓦や軒平瓦を生産する。倉ヶ原遺跡は、推定大宰府—豊前路の田河道の南側に位置する。桁行 12 間 × 梁行 2 間の主軸方位が南北を向く掘立柱建物跡や、この建物跡南北両端に東西を向く掘立柱建物跡も推定され、8世紀前半頃と報告されている。

中世は大穴遺跡や夏吉21号墳の再葬墓、上の原遺跡群周辺で輸入陶磁器や土師器が確認される。

近世の田河郡は小倉藩領となるが、各地域の支配単位として六手永に分けられる。また、小倉藩から筑前秋月藩まで結ぶ秋月街道が整備される。近代は近世後期より始まった石炭産業により、本市の隆盛と衰退の関係が深くなる。石炭産業の遺構として、旧三井田川鉱業所伊田堅坑櫓・同第一・第二煙突（国登録有形文化財）が聳えたつ石炭記念公園一帯は、三井田川鉱業所伊田坑（斜坑・堅坑）と

して隆盛を極めた。しかしながら、1964(昭和39)年に閉山を迎える。2018(平成30年)10月15日に飯塚市・直方市とともに、筑豊炭田遺跡群三井田川鉱業所伊田坑跡として国指定史跡となる。本市の近代を支えた石炭産業は、関連する構造物や風習が現在も残る。本市の戦争関連遺跡は限られ、太平洋戦争中の防空壕等を確認している。

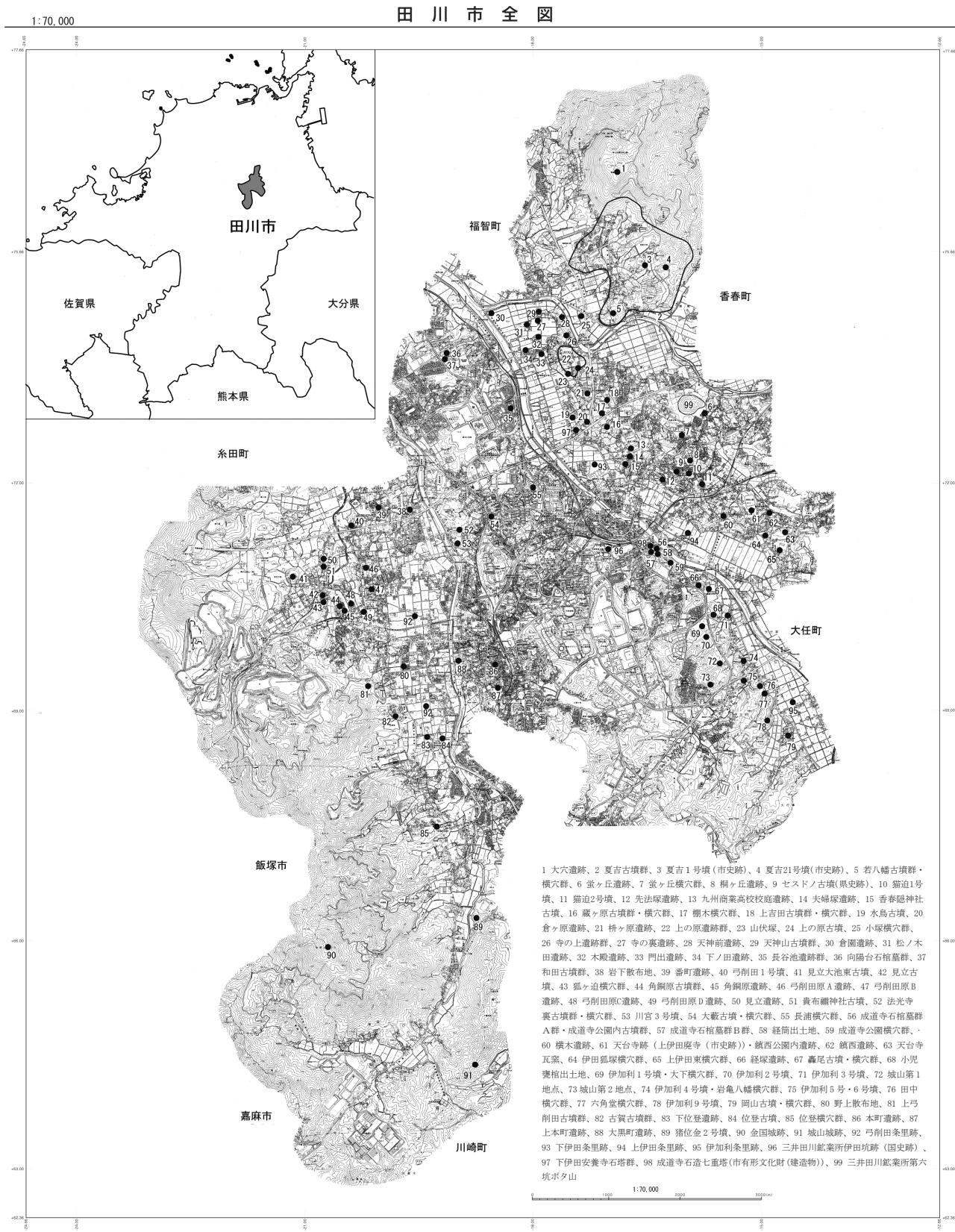


表2 令和2年度試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	調査日	調査結果	調査後処置	備考
1	上伊田条里跡	大字伊田1852-1外30筆	宅地造成	6月4日	遺構無・遺物無	慎重工事	都市計画法第32条協議,宅地造成
2	上伊田条里跡	大字伊田1818-1	個人住宅	6月4日	遺構無・遺物無	慎重工事	
3	弓削田条里跡	大字奈良18-1	宅地造成	6月4日	遺構無・遺物無	慎重工事	
4	包蔵地外	大字舩1900	その他建物	5月27日	遺構無・遺物無	工事着工	学校施設
5	下位登遺跡	大字位登1760-1	宅地造成	7月2日	遺構無・遺物無	慎重工事	都市計画法第32条協議,宅地造成
6	包蔵地外	大字伊加利1625-1	その他建物	7月2日	遺構無・遺物無	工事着工	駐在所
7	弓削田条里跡	大字川宮340-4・5	住宅	7月2日	遺構無・遺物無	慎重工事	
8	包蔵地外	大字伊田1201-1, 1202-1	個人住宅	7月9日	遺構無・遺物無	工事着工	
9	包蔵地外	大黒町11-69	その他開発	8月14日	遺構有・遺物有	包蔵地カードの追補、記録保存の発掘調査	新中学校建設に伴う解体工事, 大黒町遺跡として追補
10	弓削田原B遺跡	大字弓削田1283-4	住宅	9月15日	遺構無・遺物無	慎重工事	
11	包蔵地外	大字舩2362	住宅	9月15日	遺構無・遺物無	工事着工	
12	包蔵地外	大字伊田1200-1	住宅	9月15日	遺構無・遺物無	工事着工	
13	桐ヶ丘遺跡	大字夏吉197-1（一部）	その他開発	12月18日	遺構無・遺物無	工事立会	ロータリー・駐車場
14	包蔵地外	大字弓削田1205外4筆	その他開発	10月2日	遺構有・遺物有	包蔵地カード追補、保存等協議	太陽光発電所, 弓削田原D遺跡として追補
15	弓削田条里跡	大字弓削田140-1	その他開発	3月19日	遺構有・遺物無	慎重工事	太陽光発電所
16	弓削田条里跡	大字弓削田2318-2外4筆	その他開発	3月19日	遺構有・遺物無	保存等協議	太陽光発電所
17	包蔵地外	大字夏吉194-194・202	住宅	3月8日	遺構無・遺物無	工事着工	

表3 令和2年度工事立会等一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	工事立会日	立会結果	備考
1	包蔵地外	大字伊田2459-20外	その他開発	5月14日	遺構無・遺物無	浄水場建設、踏査
2	包蔵地外	大字奈良1520-3外3筆	浄化槽設置	6月5日	遺構無・遺物無	
3	包蔵地外	大字伊田3813-12	浄化槽設置	7月9日	遺構無・遺物無	
4	包蔵地外	春日町13-23	浄化槽設置	7月9日	遺構無・遺物無	
5	包蔵地外	大字川宮367-13外	個人住宅	7月23日	遺構無・遺物無	
6	包蔵地外	大字伊加利1948-43	住宅	8月18日・12月3日	遺構無・遺物有	
7	包蔵地外	桜町447-4・476-2	個人住宅	9月28日	遺構無・遺物無	
8	包蔵地外	平松町1910-17	個人住宅	5月8日	遺構無・遺物無	
9	包蔵地外	大字伊加利1948-43	個人住宅	8月18日	遺構無・遺物無	
10	上本町遺跡隣接地	上本町(市道上本町3号線)	排水管設置	10月6・7・9・12・13・19日	遺構無・遺物有	
11	包蔵地外	大字夏吉349-13・15	個人住宅	8月17日 10月23日	遺構無・遺物無	
12	包蔵地外	西本町1246-6	個人住宅	9月23日 12月3日	遺構無・遺物無	
13	弓削田条里跡隣接地	大字弓削田611-8	住宅	10月9日	遺構無・遺物無	
14	包蔵地外	大字伊田1425	住宅	10月12日	遺構無・遺物無	
15	包蔵地外	大字伊田1555-17	浄化槽設置	10月13日	遺構無・遺物無	
16	包蔵地外	大字川宮1444-1	その他開発	10月23日	遺構無・遺物無	太陽光発電所、踏査
17	弓削田条里跡	大字弓削田112-3	個人住宅	10月23日	遺構無・遺物無	令和元年度田文第164-15
18	弓削田条里跡 下位登遺跡	大字位登1750-2	その他開発	10月23日	遺構無・遺物無	令和2年度田教文第140-10
19	下位登遺跡	大字位登1751-9	宅地造成	11月10日	遺構無・遺物無	令和2年度田教文第140-13

20	大黒町遺跡	大黒町11-69	その他開発	11月11・26日	遺構無・遺物無	学校建設
21	横手木遺跡 倉ヶ原遺跡	大字襦159	浄化槽設置	11月13日	遺構無・遺物無	令和元年度田教文134-17
22	弓削田条里跡隣接地	大字川宮779-4	浄化槽設置	11月24日	遺構無・遺物無	
23	包蔵地外	魚町10-22	住宅	11月19日	遺構無・遺物無	
24	桐ヶ丘遺跡・ 桐ヶ丘遺跡隣接地	大字夏吉197-1	その他開発	11月26・29日	遺構無・遺物有	学校建設
25	包蔵地外	大字伊田4280-1・3・4	住宅	12月13日 6月8日	遺構無・遺物無	
26	包蔵地外	大字弓削田1597	その他開発	12月18日	遺構無・遺物有	柱型基地局建設
27	包蔵地外	大字川宮44-1	その他開発	12月18日	遺構無・遺物無	太陽光発電所
28	包蔵地外	中央町3208-4	住宅	12月20日 7月16日	遺構無・遺物無	
29	包蔵地外	大字弓削田717-3	その他開発	12月21日	遺構無・遺物無	柱型基地局建設
30	包蔵地外	大字弓削田3133-1	その他開発	12月21日	遺構無・遺物無	柱型基地局建設
31	包蔵地外	大字弓削田615-6	その他開発	1月18日	遺構無・遺物無	柱型基地局建設
32	包蔵地外	大字夏吉320-16	個人住宅	1月30日	遺構無・遺物無	
33	包蔵地外	大字弓削田1189-1	個人住宅	2月4日	遺構無・遺物無	
34	包蔵地外	桜町512-2・513-2	住宅	2月8・9日	遺構無・遺物無	
35	包蔵地外	大字夏吉1258-6	個人住宅	2月8日	遺構無・遺物無	
36	包蔵地外	大字伊田2922-5	個人住宅	2月8日	遺構無・遺物無	
37	包蔵地外	大字弓削田1264-7	個人住宅	2月9日	遺構無・遺物無	
38	包蔵地外	大字川宮707-1	その他開発	2月24日	遺構無・遺物無	柱型基地局建設
39	包蔵地外	大字伊田5002-16, 3281-6	個人住宅	3月10日	遺構無・遺物無	
40	包蔵地外	大字伊田1610-2	個人住宅	3月10日	遺構無・遺物無	

表4 令和3年度試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	調査日	調査結果	調査後処置	備 考
1	包蔵地外	大字川宮1471-28, 1485-2	その他建物	4月30日	遺構無・遺物無	工事着工	障がい児童施設
2	包蔵地外	大字川宮1654-55	個人住宅	4月30日	遺構無・遺物無	工事着工	
3	弓削田条里跡	大字弓削田130-1, 132-1・2	住宅	4月30日	遺構無・遺物無	慎重工事	
4	包蔵地外	大字伊田3799-1, 3853-6・7	個人住宅	6月7日	遺構無・遺物無	工事着工	
5	弓削田条里跡	大字弓削田165-1	宅地造成	6月16日	遺構有・遺物無	慎重工事	道路、個人住宅
6	セスドノ古墳	大字伊田3805-1	その他開発	7月29日	遺構無・遺物無	工事立会	教職員住宅等撤去工事
7	大黒町遺跡	大黒町11-69	その他建物	7月29日	遺構無・遺物無	慎重工事	学校建設
8	包蔵地外	大字襦21-1外10筆	その他建物	7月29日	遺構無・遺物有	工事着工	都市計画法第32条協議、 店舗
9	包蔵地外	大字伊田1431-8	個人住宅	9月7日	遺構無・遺物無	工事着工	
10	包蔵地外	大字夏吉2851	道路	10月7日	遺構無・遺物無	工事着工	県道夏吉直方線
11	包蔵地外	大字伊田4095外22筆	道路	10月6日	遺構有・遺物有	遺跡分布図の訂正、 発掘調査	県道田川直方線、倉ヶ原 遺跡、令和4年度本調査
12	包蔵地外	大字伊田1391, 1392, 1392-2	個人住宅	10月15日	遺構無・遺物無	工事着工	
13	包蔵地外	大字伊田516-2, 517-2	個人住宅	11月17日	遺構無・遺物無	工事着工	
14	弓削田条里跡	大字奈良241	個人住宅	12月8日	遺構無・遺物無	工事立会	
15	弓削田条里跡	大字弓削田237-1	個人住宅	12月8日	遺構有・遺物無	慎重工事	
16	包蔵地外	大字夏吉1235-1外7筆	住宅	1月17日	遺構無・遺物無	工事着工	
17	包蔵地外	大字川宮426-1	住宅	2月4日	遺構有・遺物有	工事立会	遺跡分布図の追補(川宮 遺跡)
18	猫迫1号墳	大字伊田3829-10	個人住宅	2月7日	遺構有・遺物有	発掘調査	令和3年度本調査実施
19	猫迫1号墳	大字伊田3829-11	個人住宅	2月7日	遺構無・遺物無	工事立会	
20	上の原遺跡群	大字襦487	宅地造成	2月8・16日	遺構有・遺物有	慎重工事	

21	弓削田条里跡	大字弓削田118-1	住宅	3月24日	遺構無・遺物無	工事立会	
22	包蔵地外	大字伊田1597-7外1筆	住宅	3月29日	遺構無・遺物有	工事立会	
23	包蔵地外	大字伊田1544-4	住宅	3月30日	遺構有・遺物無	遺跡分布図の追補, 工事立会	鎮西公園側遺跡

表5 令和3年度工事立会等一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	工事立会日	立会結果	備 考	
1	包蔵地外	大字猪国1494	その他開発	4月9日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設	
2	包蔵地外	大字弓削田611-8・12	浄化槽設置	4月12日	遺構無・遺物無		
3	包蔵地外	大字猪国1981-6	その他開発	4月23日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設	
4	セスドノ古墳隣接地	大字伊田3799-1外2筆	その他開発	5月7日	遺構無・遺物無	擁壁工事	
5	包蔵地外	大字川宮922-7外	造成・住宅	5月11日	遺構無・遺物無		
6	包蔵地外	大字伊加利676	浄化槽設置	5月14日	遺構無・遺物無		
7	包蔵地外	大字上本町1690-1	浄化槽設置	5月14日	遺構無・遺物無		
8	包蔵地外	大字弓削田1189-1	浄化槽設置	5月14日	遺構無・遺物無		
9	下伊田条里跡	大字伊田4540-1・2・3	浄化槽撤去	5月19日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号	
10	包蔵地外	大字弓削田1539	個人住宅	5月26日	遺構無・遺物無		
11	包蔵地外	大字伊田4280	浄化槽設置	6月8日	遺構無・遺物無		
12	包蔵地外	大字襦1900	その他開発	6月15日	遺構無・遺物無	学校建設	
13	包蔵地外	大字伊加利1931-9	個人住宅	7月12日	遺構無・遺物無		
14	包蔵地外	大字川宮1711-18・22	個人住宅	7月16日	遺構無・遺物無		
15	包蔵地外	大字夏吉1331-1	その他開発	7月20日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設	
16	包蔵地外	大字伊田3975-7	個人住宅	7月20日	遺構無・遺物無		
17	包蔵地外	大字伊田3852-2	個人住宅	7月26日	遺構無・遺物無		
18	包蔵地外	大字猪国581-1外4筆	個人住宅	8月3日	遺構無・遺物無		
19	包蔵地外	大字襦686-1	その他開発	8月5日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設	
20	下伊田条里跡	大字伊田4295-1	その他開発	8月6日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設, 令和3年度田教文第118号の5	
21	弓削田条里跡	大字川宮340-7	個人住宅	8月10日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の7	
22	包蔵地外	大字襦2528-6, 2532-1	その他開発	9月1日	遺構無・遺物無	太陽光発電所	
23	旧三井田川鉱業所伊田坑跡	大字伊田2710-1	その他開発	9月2・15・19日	遺構無・遺物無	廃撤去, 令和3年度田教文第118号の6	
24	弓削田条里跡	大字弓削田182-3	その他開発	9月24日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設, 令和3年度田教文第118号の4	
25	弓削田条里跡	大字弓削田183	浄化槽設置	10月20日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の20	
26	包蔵地外	大字位登186-1	浄化槽設置	9月27日	遺構無・遺物無		
27	セスドノ古墳	大字伊田3805-1	その他開発	10月20・27日	遺構無・遺物無	建物解体, 令和3年度田教文第118号の3	
28	包蔵地外	桜町513-2, 512-2	浄化槽設置	10月22日	遺構無・遺物無		
29	包蔵地外	大字襦2319-1	その他開発	10月22日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設	
30	弓削田原B遺跡	大字弓削田1041-1	その他開発	10月27日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の14	
31	包蔵地外	大字夏吉70・71	個人住宅	11月16日	遺構無・遺物無		
32	包蔵地外	大字伊田4280-1・3・4	浄化槽設置	12月13日	遺構無・遺物無		
33	弓削田条里跡	大字奈良38	その他開発	1月11日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設, 令和3年度田教文第118号の23	
34	包蔵地外	大字伊田5061-1	個人住宅	1月11日	遺構無・遺物無		
35	包蔵地外	上本町9-30	その他開発	1月11日	遺構無・遺物無	店舗	
36	下伊田条里跡	大字伊田4549-1・4	浄化槽設置	2月3日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の15	
37	包蔵地外	大字弓削田1475-11	浄化槽設置	2月3日	遺構無・遺物無		
38	包蔵地外	大字位登185-1	浄化槽設置	2月4日	遺構無・遺物無		

39	包蔵地外	大字夏吉293-3	浄化槽設置	2月5日	遺構無・遺物無	
40	包蔵地外	大字夏吉194-71外6筆	その他開発	2月22日	遺構無・遺物無	店舗
41	包蔵地外	大字襦2259外4筆	その他開発	2月24日	遺構無・遺物無	太陽光発電所, 踏査
42	弓削田条里跡	大字奈良241	浄化槽設置	3月7日	遺構無・遺物無	
43	包蔵地外	大字伊加利2186-7外1筆	その他開発	3月19日	遺構無・遺物無	土捨場, 踏査

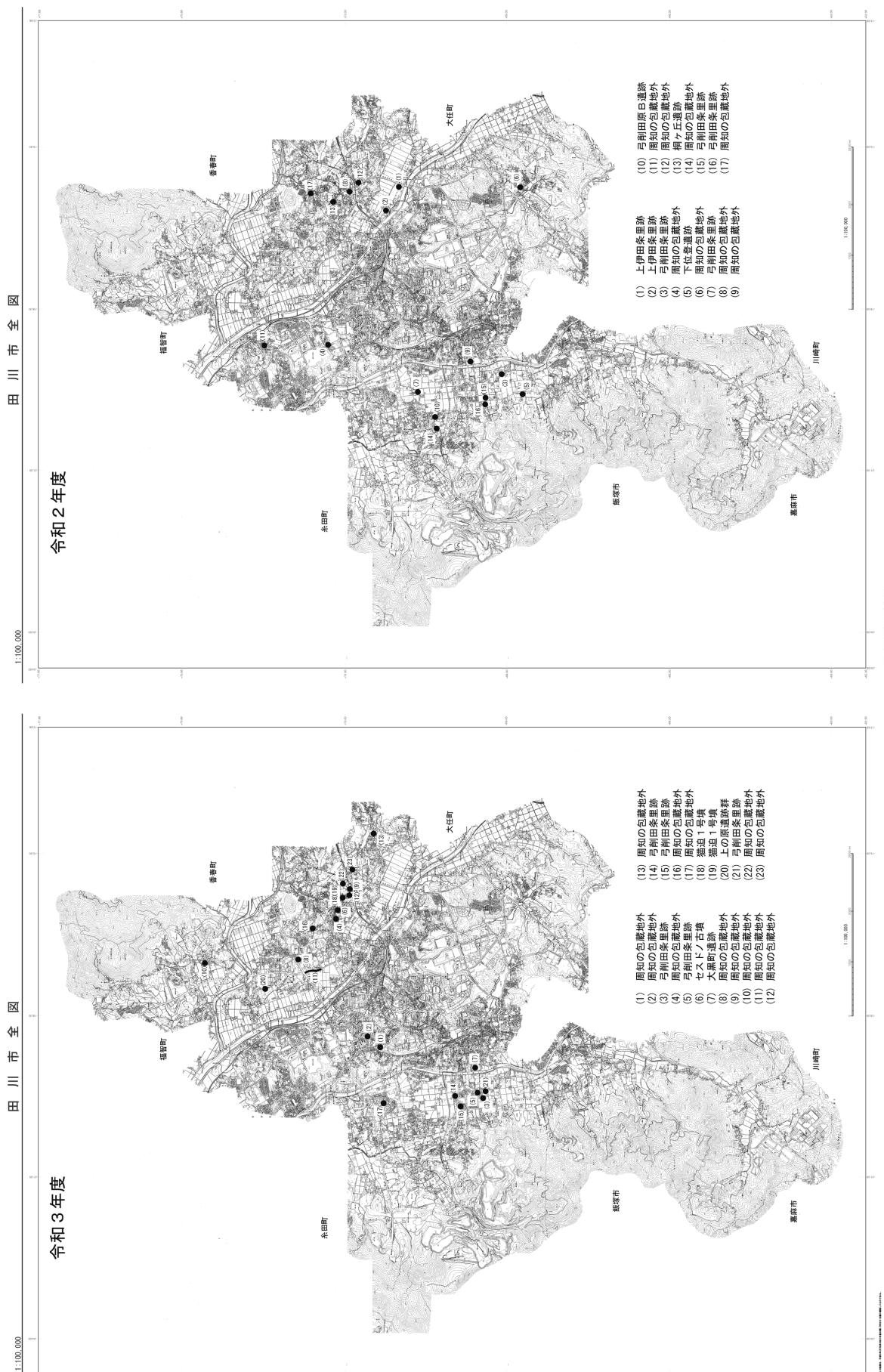
表6 令和4年度試掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	調査日	調査結果	調査後処置	備考
1	包蔵地外	大字位登1449-1	住宅	4月19日	遺構無・遺物無	工事着工	
2	弓削田条里跡	大字奈良242-1	住宅	4月19日	遺構無・遺物無	慎重工事	
3	番町遺跡	大字川宮132-4	個人住宅	4月19日	遺構無・遺物無	工事立会	
4	弓削田条里跡	大字弓削田2320-2外	その他建設	5月9日	遺構有・遺物無	慎重工事	駐車場他
5	弓削田原A遺跡	大字弓削田799-3	個人住宅	5月10日	遺構無・遺物無	慎重工事	
6	猫迫1号墳	大字伊田3829-9	個人住宅	5月10日	遺構無・遺物無	慎重工事	
7	包蔵地外	大字弓削田575-5	住宅	6月1日	遺構無・遺物無	工事着工	
8	包蔵地外	大字伊田1543-13	住宅	6月10日	遺構無・遺物無	工事着工	
9	猫迫1号墳	大字伊田3829-8	個人住宅	6月29日	遺構無・遺物無	工事立会	
10	猫迫1号墳	大字伊田3389-3	個人住宅	7月20日	遺構無・遺物無	慎重工事	
11	包蔵地外	大字夏吉182-17・18・19	住宅	8月16日	遺構無・遺物無	工事着工	
12	包蔵地外	大黒町1133-6	住宅	8月24日	遺構無・遺物無	工事着工	
13	包蔵地外	宮尾町809-3	住宅	8月24日	遺構無・遺物無	工事着工	
14	包蔵地外	丸山町1636-1外3筆	道路	9月23日	遺構有・遺物有	遺跡分布図の追補, 慎重工事	丸山町遺跡
15	包蔵地外	大字伊田1194-1外4筆	宅地造成他	9月28日	遺構無・遺物無	工事着工	道路
16	包蔵地外	大字弓削田3049-1, 3159-1	道路他	9月29日	遺構無・遺物無	工事着工	
17	包蔵地外	大字弓削田2989	その他建設	9月29日	遺構無・遺物無	工事着工	太陽光発電所
18	包蔵地外	大字弓削田2995	その他建設	9月29日	遺構無・遺物無	工事着工	太陽光発電所
19	弓削田条里跡	大字弓削田168-3	個人住宅	9月29日	遺構無・遺物無	慎重工事	
20	弓削田条里跡	大字弓削田125-1・2, 126-4	宅地造成他	10月17日	遺構無・遺物無	工事立会	住宅
21	弓削田条里跡	大字奈良153-1	宅地造成他	10月18日	遺構無・遺物有	工事立会	住宅
22	弓削田原B遺跡	大字弓削田467-4	個人住宅	10月28日	遺構無・遺物無	慎重工事	
23	包蔵地外	大字川宮928	住宅	10月28日	遺構無・遺物無	工事着工	
24	下伊田条里跡	大字伊田3542-3外1筆	道路	10月28日	遺構無・遺物無	慎重工事	
25	包蔵地外	新町3256-10	個人住宅	11月24日	遺構無・遺物無	工事着工	
26	包蔵地外	大字川宮713-2外2筆	宅地造成他	11月24日	遺構無・遺物無	工事着工	道路
27	弓削田原C遺跡	大字弓削田1078-7	個人住宅	12月1日	遺構有・遺物有	工事立会	
28	弓削田原B遺跡	大字弓削田1018-1	住宅	12月26日	遺構有・遺物有	工事立会	
29	包蔵地外	大字川宮1233-1, 1244-10	その他建設	3月13日	遺構無・遺物無	工事着工	都市計画法第32条, 地盤改良, 住宅

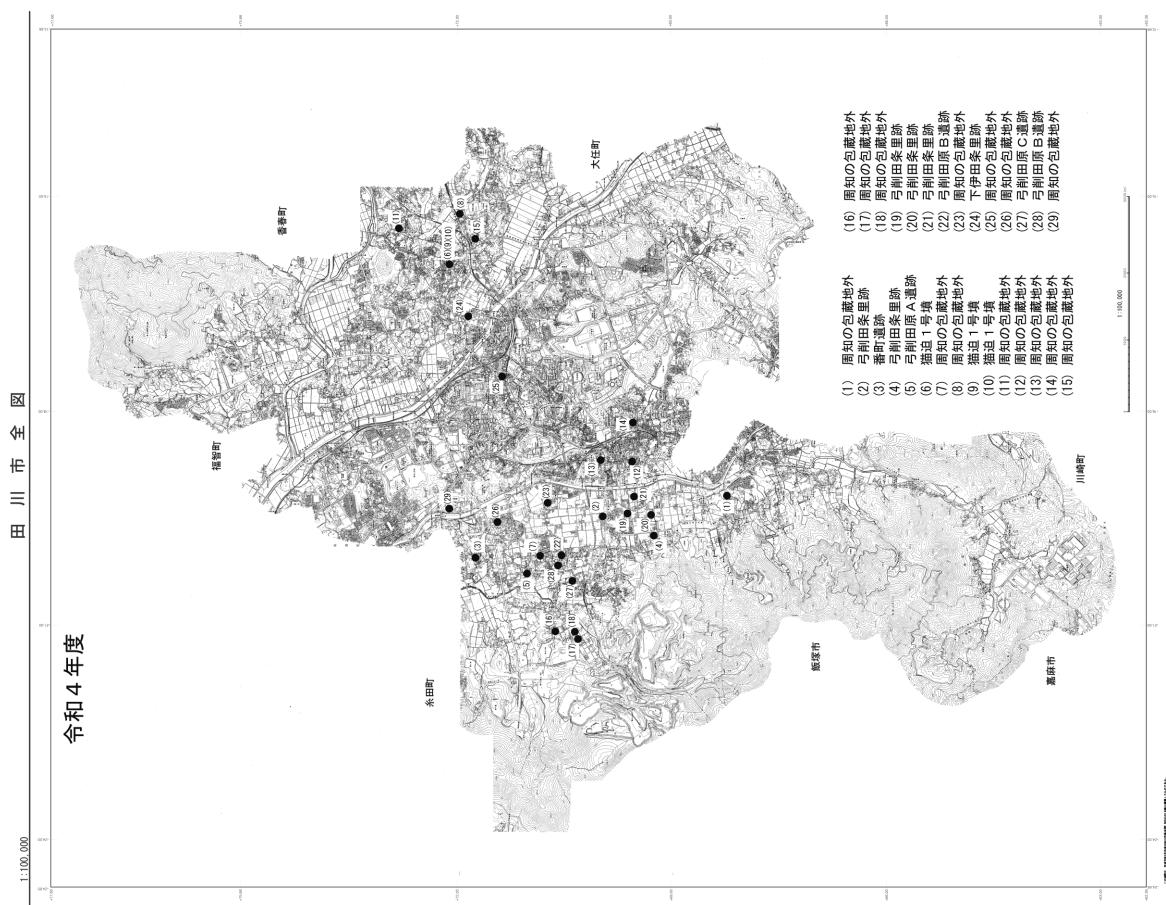
表7 令和4年度工事立会等一覧

番号	遺跡名	調査地	調査原因	工事立会日	立会結果	備考
1	包蔵地外	大字伊田367-1	個人住宅	4月4日	遺構無・遺物無	
2	包蔵地外	大字襦837-3	個人住宅	4月25日	遺構無・遺物無	
3	包蔵地外	大字伊田4754	その他開発	4月25日	遺構無・遺物無	宅地造成
4	包蔵地外	大字新町3228-6	その他建物	5月10日	遺構無・遺物無	診療所
5	番町遺跡	大字川宮132-4	個人住宅	5月28日	遺構無・遺物無	令和4年度田教文第6号の3

6	下伊田条里跡	大字伊田4550-2	個人住宅	6月10日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の9
7	弓削田原D遺跡	大字弓削田1205	個人住宅	6月17日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の16
8	川宮遺跡	大字川宮426-1	個人住宅	6月25日	遺構無・遺物無	令和3年度田教文第118号の42
9	下伊田条里跡	大字伊田3534	浄化槽設置	7月14日	遺構無・遺物無	
10	包蔵地外	大字伊田367-1	浄化槽設置	7月15日	遺構無・遺物無	
11	包蔵地外	大字夏吉772-4	その他開発	7月28日	遺構無・遺物無	携帯基地局建設
12	包蔵地外	大字弓削田118-1	浄化槽設置	8月2日	遺構無・遺物無	
13	包蔵地外	大字夏吉1799-9	店舗	8月2日	遺構無・遺物無	
14	包蔵地外	大字弓削田1648-1外2筆	個人住宅	8月4日	遺構無・遺物無	
15	包蔵地外	大字襦2288-13	浄化槽設置	8月8日	遺構無・遺物無	
16	弓削田条里跡	大字弓削田360-6	浄化槽撤去	8月17日	遺構無・遺物無	
17	包蔵地外	大字弓削田678-2・4・5	その他開発	9月26日	遺構無・遺物無	建物解体
18	包蔵地外	大字弓削田1488-4	個人住宅	9月29日 1月16日	遺構無・遺物無	
19	包蔵地外	大字弓削田3262-1	店舗	10月12日	遺構無・遺物無	
20	包蔵地外	大字弓削田1135付近	個人住宅	10月12日	遺構無・遺物無	
21	包蔵地外	大字伊田3518-5・10	個人住宅	10月24日	遺構無・遺物無	
22	包蔵地外	大字川宮1430-5	浄化槽設置	11月1日	遺構無・遺物無	
23	弓削田条里跡	大字奈良153-1	住宅	11月3日	遺構無・遺物無	
24	上の原遺跡群	大字襦481-4, 486-2・4	個人住宅	11月14日	遺構無・遺物無	
25	包蔵地外	大字位登1176-1	その他開発	11月25日	遺構無・遺物無	土砂仮置場
26	包蔵地外	大字伊田444-1外12筆	その他開発	11月25日	遺構無・遺物無	土砂埋立
27	包蔵地外	宮尾町665-1	個人住宅	11月25日	遺構無・遺物無	
28	包蔵地外	大字夏吉197-1の一部	その他開発	11月26～29日	遺構無・遺物有	屋外プール解体
29	包蔵地外	千代町	その他開発	12月12日	遺構無・遺物無	県：急傾斜地崩壊防止対策事業
30	弓削田原C遺跡	大字弓削田1078-7	個人住宅	12月12日	遺構有・遺構無	
31	包蔵地外	大浦町	道路	1月11日	遺構無・遺物無	県：中央団地川宮線、壕調査
32	包蔵地外	大字襦2528-2・5・7	その他開発	1月26日	遺構無・遺物無	太陽光発電所、踏査
33	包蔵地外	大字夏吉84-2外14筆	その他開発	1月30日	遺構無・遺物無	太陽光発電所、踏査
34	包蔵地外	丸山町1642-6	浄化槽設置	2月21日	遺構無・遺物無	
35	包蔵地外	大字伊田2670-10, 2677-11	個人住宅	2月21日	遺構無・遺物無	
36	下伊田条里跡	大字伊田3537-8	個人住宅	3月8日	遺構無・遺物無	令和4年度田教文第6号の42
37	弓削田原B遺跡	大字弓削田1243-5外2筆	個人住宅	3月9日	遺構無・遺物無	令和4年度田教文第6号の36・37
38	弓削田原B遺跡	大字弓削田1018-1	個人住宅	3月10日	遺構無・遺物無	令和4年度田教文第6号の40
39	弓削田条里跡	大字弓削田331-5	個人住宅	3月10日	遺構無・遺物無	令和4年度田教文第6号の43
40	弓削田原B遺跡	大字弓削田1244-4	個人住宅	3月13日	遺構無・遺物無	
41	包蔵地外	大字川宮930-1外4筆	浄化槽設置	3月22日	遺構無・遺物無	



第2図 令和2・3年度試掘・確認調査地位置図



第3図 令和4年度試掘・確認調査地位置図

第Ⅱ章 試掘・確認調査の記録

第1節 令和2年度試掘・確認調査の概要（第2図）

(1) 上伊田条里跡（第4図、表2、図版1-①）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約3.8m²実施した。

調査結果：調査区は1.2×3.2m、深度約2.7mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土等を確認した。

この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(2) 上伊田条里跡（第5図、表2、図版1-②）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約6.6m²実施した。

調査結果：調査区は約2.0×3.3m、深度約1.7mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。

この調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。

(3) 弓削田条里跡（第6図、表2、図版1-③）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を2個所設定し、重機を用いて計約6.0m²実施した。

調査結果：T1・2は1.2×2.5m、T1は深度約2.2m、T2は深度1.7mまで掘削を行った。

堆積状況は3層で砂礫層を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(4) 周知の包蔵地外（第7図、表2、図版1-④）

調査概要：県教育庁教育総務部施設課の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。

調査区を2個所設定し、重機を用いて計約8.0m²実施した。

調査結果：T1は1.6×3.0m、深度約2.3mまで掘削、T2は1.6×2.0m、深度約2.3mまで

掘削を行った。堆積状況は、T1・2ともに粘質土・粘質岩を確認した。この調査の結果、

遺構・遺物は確認できなかった。

(5) 下位登遺跡 (第8図、表2、図版1-⑤)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて、調査区を4個所設定し、重機を用いて計約14.6m²実施した。

調査結果: T1は1.1×3.5m、深度約2.8mまで掘削、堆積状況は造成土、砂質土が混じる青灰色・黒色粘質土を確認した。T2は1.1×3.5m、深度約2.8mまで掘削、T3は1.1×3.0m、深度約3.0mまで掘削を行った。T2・3の堆積状況は、造成土である。T4は1.1×3.3m、深度約2.4mまで掘削を行った。堆積状況は造成土、黄褐色粘質土と灰色礫層を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(6) 周知の包蔵地外 (第9図、表2、図版1-⑥)

調査概要: 田川警察署の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約41mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約3.7m²実施した。

調査結果: 調査区は1.2×3.1m、深度約2.6mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(7) 弓削田条里跡 (第10図、表2、図版1-⑦)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約3.6m²実施した。

調査結果: 調査区は1.2×3.0m、深度約2.9mまで掘削を行った。堆積状況は造成土、暗灰色粘質土と灰色砂礫土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(8) 周知の包蔵地外 (第11図、表2、図版1-⑧)

調査概要: 埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約34mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約4.0m²実施した。

調査結果: 調査区は1.1×1.2mと1.1×2.4mのL字に設けて、深度約0.7mまで掘削、黄褐色砂質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(9) 周知の包蔵地外 (第12図、表2、図版2-①~④)

調査概要: 新中学校建設工事計画から判断し、試掘調査を実施した。照会地は、中元寺川右岸の標高約34mに位置する。調査区を5個所設定し、重機を用いて計約38.0m²実施した。

調査結果: T1は約16m²、深度約2.5mまで掘削、T2は1.5×5.0m、深度約2.3mまで掘削を行った。堆積状況はT2でレンガ構造物、褐色粘質土を確認し、土器片を含む。T3は1.7×2.7m、深度約1.4m、T4は1.2×2.0m、深度約1.1m、T5は1.5×5.0m、深度約2.3mまで掘削を行った。T1・3~5の堆積状況は、造成土を確認した。

(10) 弓削田原B遺跡 (第13図、表2、図版2-⑤)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約2.75m²実施した。

調査結果: 調査区は1.1×2.5m、深度約1.2mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(11) 周知の包蔵地外 (第14図、表2)

調査概要: 埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約18mに位置する。調査区を2個所設定し、重機を用いて計約11.2m²実施した。

調査結果: T1は1.8×2.9m、深度約2.1mまで掘削、T2は2.0×3.0m、深度約2.6mまで掘削を行った。T1・2の堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(12) 周知の包蔵地外 (第15図、表2)

調査概要: 埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約35mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約16.5m²実施した。

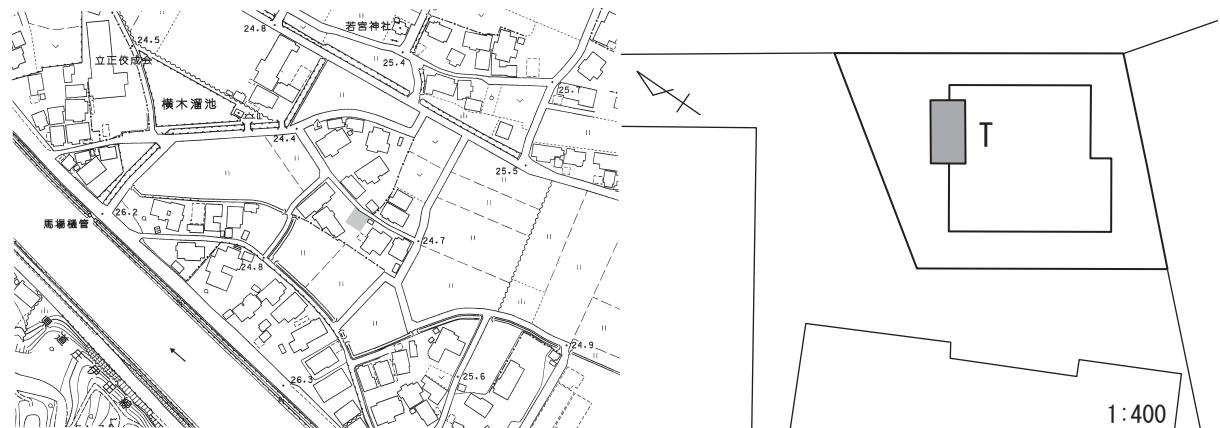
調査結果: 調査区は1.1×15.0m、深度約0.5mまで掘削を行った。堆積状況は2層が明褐色粘質土、3層が浅黄褐色粘質土である。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(13) 桐ヶ丘遺跡 (第16図、表2、図版2-⑥)

調査概要: 田川市建設経済部都市計画課より文化財保護法第94条通知を受け、開発行為の計画に



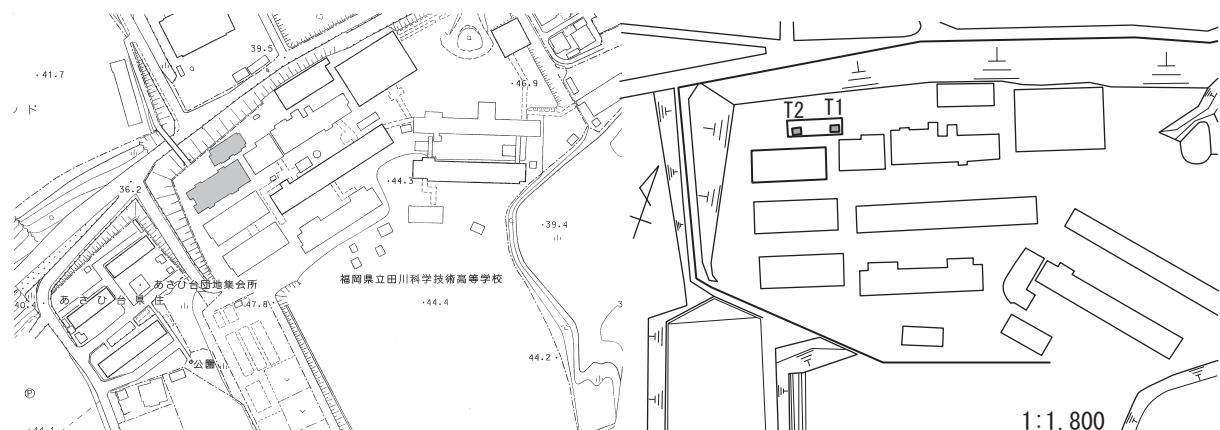
第4図 上伊田条里跡位置図、調査区配置図



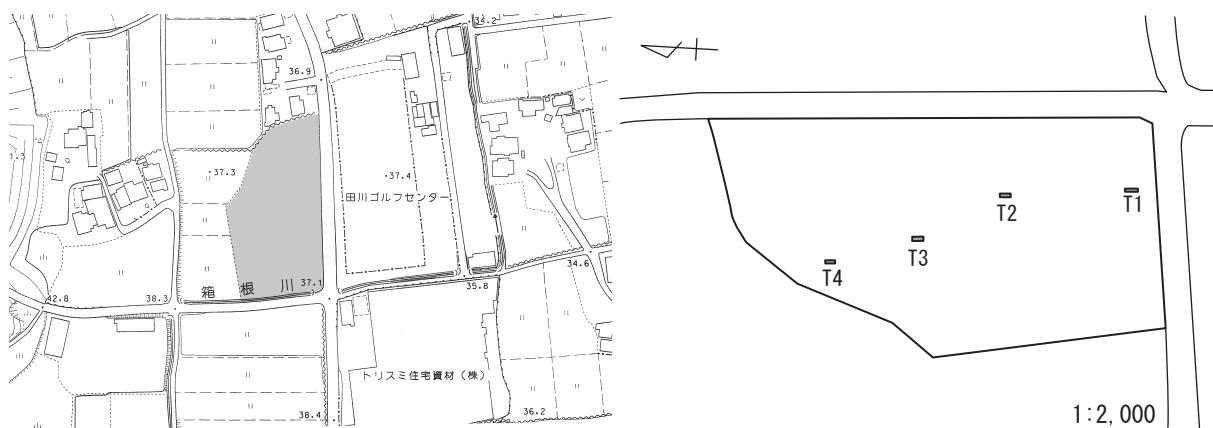
第5図 上伊田条里跡位置図、調査区配置図



第6図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第7図 包藏地外調査地位置図、調査区配置図



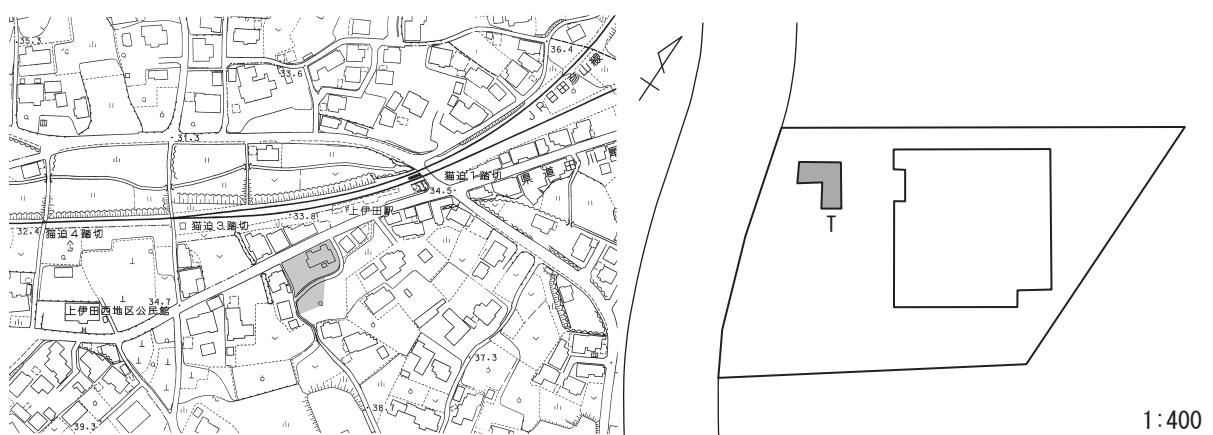
第8図 下位登遺跡位置図、調査区配置図



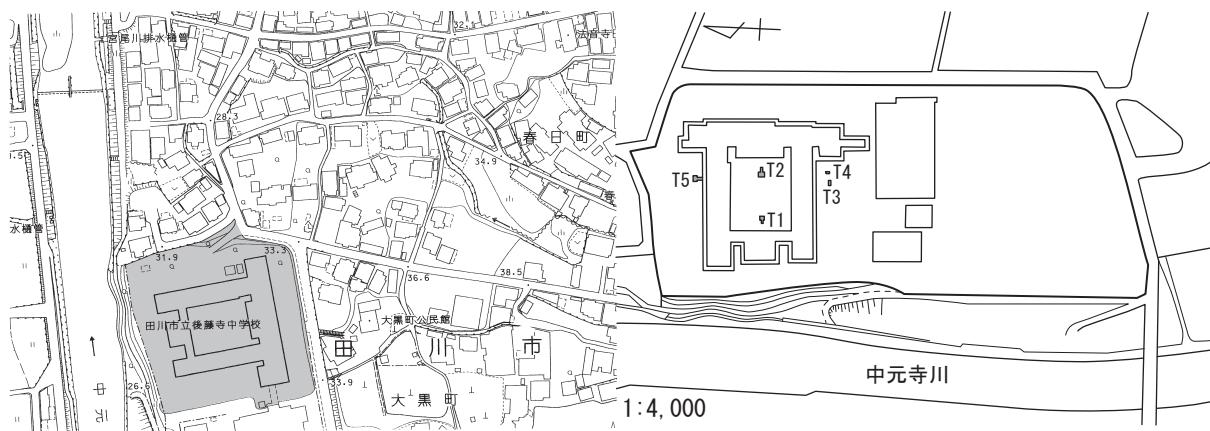
第9図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



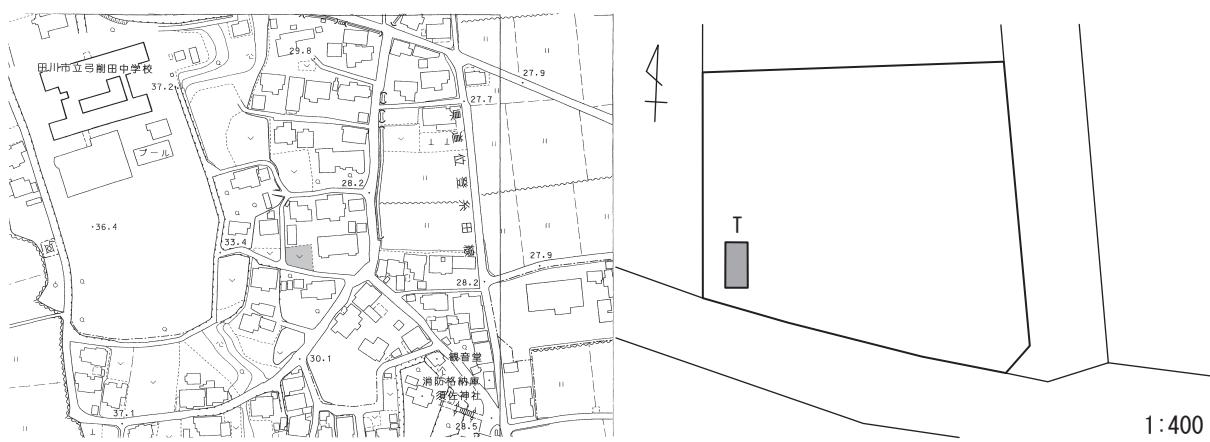
第10図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



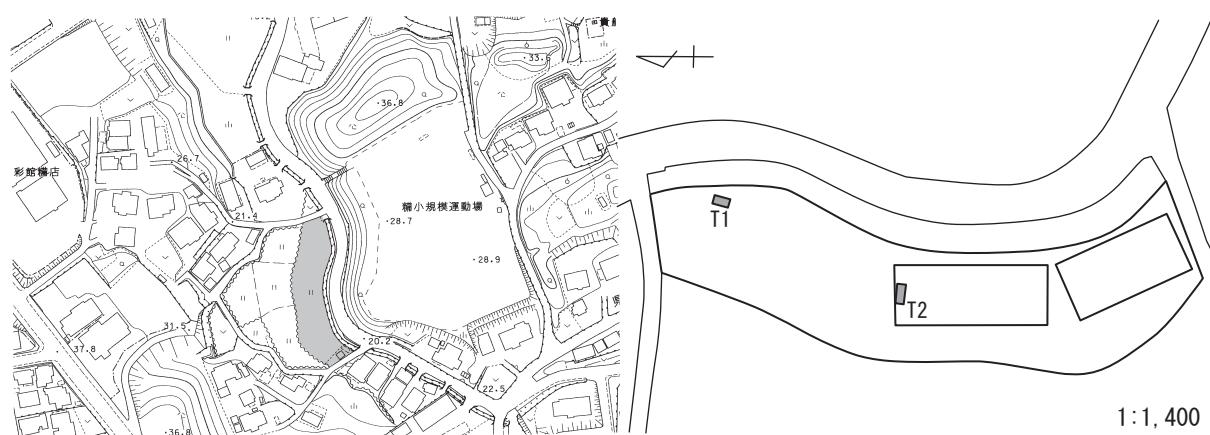
第11図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第12図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第13図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図



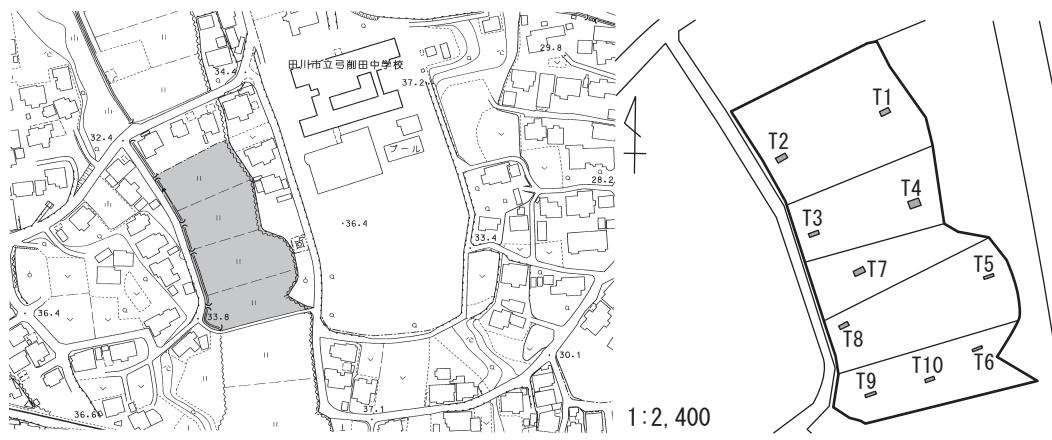
第14図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



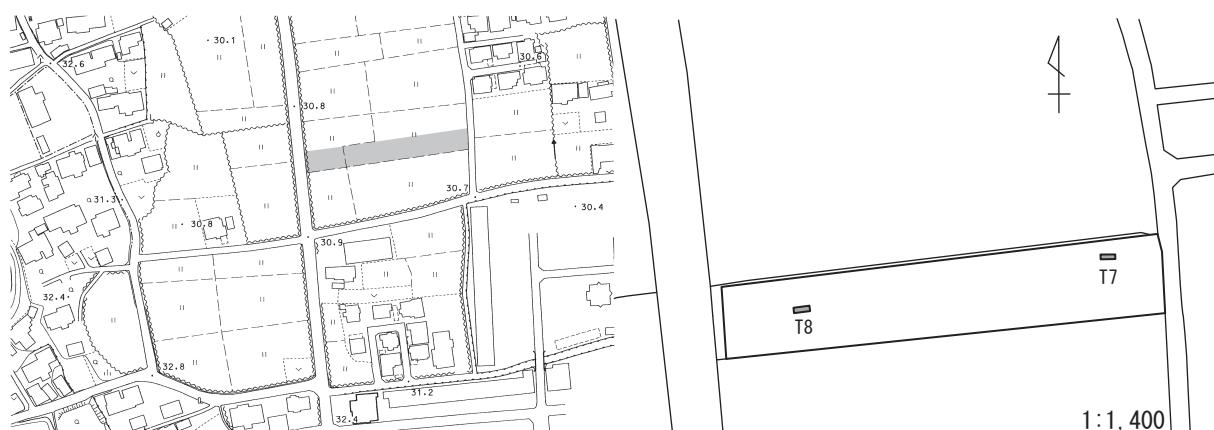
第15図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第16図 桐ヶ丘遺跡位置図、調査区配置図



第17図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第18図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第19図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図

基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約32.0m²実施した。

調査結果：調査区は対象地の通路部分に設けて、深度約0.3mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土と茶褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(14) 周知の包蔵地外（第17図、表2、図版2-⑦・⑧・3）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約32mに位置する。調査区(T)を10個所設定し、重機を用いて計約60.6m²実施した。

調査結果：T1は1.5×3.8m、深度約1.9mまで掘削、T2は1.1×3.6m、深度約1.9mまで掘削、T3は1.8×3.4m、深度約1.4mまで掘削、T4は2.6×3.9m、深度約0.9mまで掘削、T5は1.1×3.5m、深度約2.0mまで掘削、T6は1.1×3.8m、深度約1.0mまで掘削、T7は1.8×3.8m、深度約1.7mまで掘削、T8は1.8×3.8m、深度約1.7mまで掘削、T9は1.8×3.8m、深度約1.7mまで掘削、T10は1.8×3.4m、深度約1.7mまで掘削を行った。全ての調査区の堆積状況は、現状の水田耕作土・床土の下層に灰黒粘質土、黒色粘質土、青灰色粘質土の堆積を確認した。また、T5・7・9・10で有機物を含む茶褐色粘質土を確認した。なお、T2・3・6の灰黒色粘質土の下層で、地山と考えられる白色粘質土を確認した。出土遺物は、T1の3層より近世磁器片、T2の表土より土器片、T3の4層より須恵器片等、T4の3層より土師器皿片、T5の3層より土師器片、T7の4層より木製品（蓋）片が出土した。

(15) 弓削田条里跡（第18図、表2、図版4-①）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を2個所設定し、重機を用いて計約7.7m²実施した。

調査結果：T1は1.1×3.5m、深度約1.2mまで掘削した。堆積状況は地表から表土、造成土、花崗岩風化土の地山である。T2は1.1×3.5m、深度約1.1mまで掘削した。堆積状況は、鉄分沈着層が認められる灰色粘質土と、最下層で青灰色粘質土に自然礫を含む層を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(16) 弓削田条里跡（第19図、表2、図版4-②・③）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を5個所設定し、重機を用いて計約20.0m²実施した。

調査結果：T1は1.1×3.3m、深度約1.0mまで掘削した。T2は1.1×3.3m、深度約0.95mまで掘削した。T3は1.1×3.3m、深度約0.9mまで掘削した。T4は1.1×3.3m、深度約1.2mまで掘削した。T5は1.1×5.0m、深度約0.8mまで掘削した。T6は1.1×3.5m、深度約1.0mまで掘削した。堆積状況はT1～4で灰色粘質土、T5・6で造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(17) 周知の包蔵地外（第20図、表2、図版4-④）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約48mに位置する。調査区を2個所設定し、重機を用いて計約6.0m²実施した。

調査結果：T1は0.6×1.6mを掘削、T2は0.6×1.7m掘削を行った。堆積状況は、造成土である。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

第2節 令和3年度試掘・確認調査の概要（第2図）

(1) 周知の包蔵地外（第21図、表4）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約38mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約4.2m²実施した。

調査結果：調査区は約1.2×3.5m、深度約3.0mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(2) 周知の包蔵地外（第22図、表4）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約41mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約6.0m²実施した。

調査結果：調査区は 1.5×4.0 m、深度1.1mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土と赤紫灰色土の地山と考えられる層を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(3) 弓削田条里跡（第23図、表4、図版4-⑤）

調査概要：開発行為の計画に基づいて、調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 3.3 m^2 実施した。
調査結果：調査区は 1.1×3.0 m、深度約1.7mまで掘削を行った。堆積状況は、砂礫層を確認した。

この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(4) 周知の包蔵地外（第24図、表4、図版4-⑥）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約43mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 11.0 m^2 実施した。

調査結果：調査区は 1.1×10.0 m、深度約0.9mまで掘削を行った。堆積状況は、造成土と攪乱を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(5) 弓削田条里跡（第25図、表4、図版4-⑦）

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 5.2 m^2 実施した。

調査結果：調査区は 1.3×4.0 m、深度約1.5mまで掘削を行った。堆積状況は、灰褐色粘質土と黄褐色粘質土を確認した。このうち、灰褐色粘質土は鉄分沈着が認められ、かつ、僅かに隆起している状況が認められた。出土遺物は確認できなかった。

(6) セスドノ古墳（第26図、表4、図版4-⑧・5-①）

調査概要：福岡県教育庁教育総務部教職員課より文化財保護法第94条通知を受け、協議の結果、事前に確認調査を実施した。調査区を2個所設定し重機を用いて、計約 22.0 m^2 実施した。

調査結果：T1は 1.1×11.0 m、深度1.1m、T2は 1.1×9.0 m、深度0.9mまで掘削、堆積状況は造成土と地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(7) 大黒町遺跡（第27図、表4、図版5-②）

調査概要：文化財保護法第94条通知を受けて、市教育部新中学校再編推進室と協議の結果、事前に確認調査を実施した。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 6.0 m^2 実施した。

調査結果：調査区は 1.7×3.5 m、深度約0.7mまで掘削を行った。土層は整地層と黄褐色土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(8) 周知の包蔵地外（第28図、表4、図版5-③）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高36mに位置する。調査区を3個所設定し、重機を用いて計約 19.6 m^2 実施した。

調査結果：T1は 1.1×4.0 m、深度約3.3mまで掘削、T2は 1.1×11.0 m、深度は $1.1 \sim 2.9$ mまで掘削、T3は 1.1×2.8 m、深度1.1mまで掘削を行った。堆積状況は、全て造成土と茶褐色粘質土の地山を確認した。また、T2は、東側から西側へ傾斜する谷地形と近代陶磁器等の出土を確認した。この調査の結果、遺構は確認できなかった。

(9) 周知の包蔵地外（第29図、表4、図版5-④）

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約38mである。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 4.6 m^2 実施した。

調査結果：調査区は 1.3×3.5 m、深度約2.7mで地山を確認した。堆積状況は、造成土と砂質土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

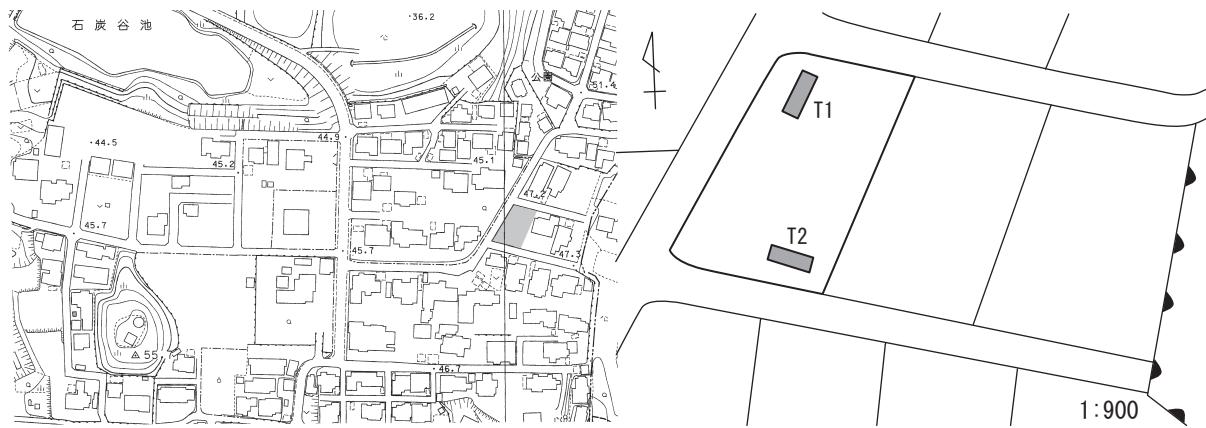
(10) 周知の包蔵地外（第30図、表4、図版5-⑤）

調査概要：田川県土整備事務所の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約26mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約 6.5 m^2 実施した。

調査結果：調査区は 1.8×3.6 m、深度約2.1mまで掘削を行った。土層は造成土と河床痕跡と考えられる青灰色粘質土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(11) 周知の包蔵地外（第31図、表4、図版5-⑥～⑧・6-①～⑥）

調査概要：田川県土整備事務所の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会



第20図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第21図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第22図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第23図 吊削田条里跡位置図 調査区配置図

地は標高約 36～22 m に位置する。調査区を 8 個所設定し、重機を用いて計約 47.1 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 1.1 × 17.5 m、深度約 0.3～0.5 m で、地山に掘りこまれた遺構を確認した。T 2 は 1.1 × 4.0 m、深度約 1.1 m まで掘削した。T 3 は 1.1 × 4.0 m、深度約 0.8 m まで掘削した。T 4 は 1.1 × 3.5 m、深度約 3.8 m で地山を確認した。T 5 は 1.1 × 3.8 m、深度約 1.9 m まで掘削した。T 6 は 1.1 × 3.5 m、深度約 2.5 m まで掘削した。T 7 は 1.1 × 3.5 m、深度約 2.5 m まで掘削した。T 8 は 1.1 × 3.0 m、深度約 0.4 m で地山を確認した。地山を確認した T 以外は、造成土を確認し、遺構・遺物は確認できなかった。

(12) **周知の包蔵地外** (第 32 図、表 4、図版 6-⑦)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 33 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 13.2 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 12.0 m、深度約 0.5 m まで掘削を行った。堆積状況は、褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(13) **周知の包蔵地外** (第 33 図、表 4、図版 6-⑧)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 47 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 8.8 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 8.0 m、深度約 0.6 m まで掘削を行った。堆積状況は、灰色土に白色土が混じる地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(14) **弓削田条里跡** (第 34 図、表 4、図版 7-①)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.3 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 3.0 m、深度約 2.0 m まで掘削した。堆積状況は、造成土と黄褐色粘質土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(15) **弓削田条里跡** (第 35 図、表 4、図版 7-②)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 6.93 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 1.1 × 3.0 m、深度約 2.2 m まで掘削、T 2 は 1.1 × 3.3 m、深度 2.2 m まで掘削した。堆積状況は、灰色粘質土を確認した。この調査の結果、遺構を確認した。

(16) **周知の包蔵地外** (第 36 図、表 4、図版 7-③)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 27 m に位置する。調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 6.93 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 1.1 × 3.3 m、深度約 2.4 m まで掘削、T 2 は 1.1 × 3.0 m、深度 2.0 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土と灰白色粘質土・砂礫土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(17) **周知の包蔵地外** (第 37 図、表 4、図版 7-④)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 24 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 2.42 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 2.2 m、深度約 1.2 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土と黄色粘質土の地山に掘りこまれた遺構を確認した。この調査の結果、遺構・遺物を確認した。

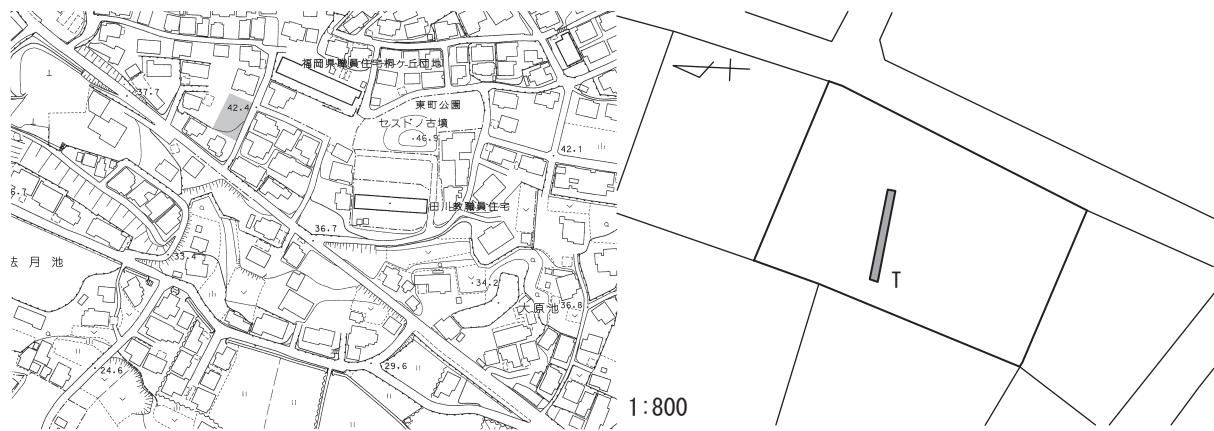
(18) **猫迫 1 号墳** (第 38 図、表 4、図版 7-⑤)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 3 個所設定し、重機を用いて約計 8.8 m² 実施した。

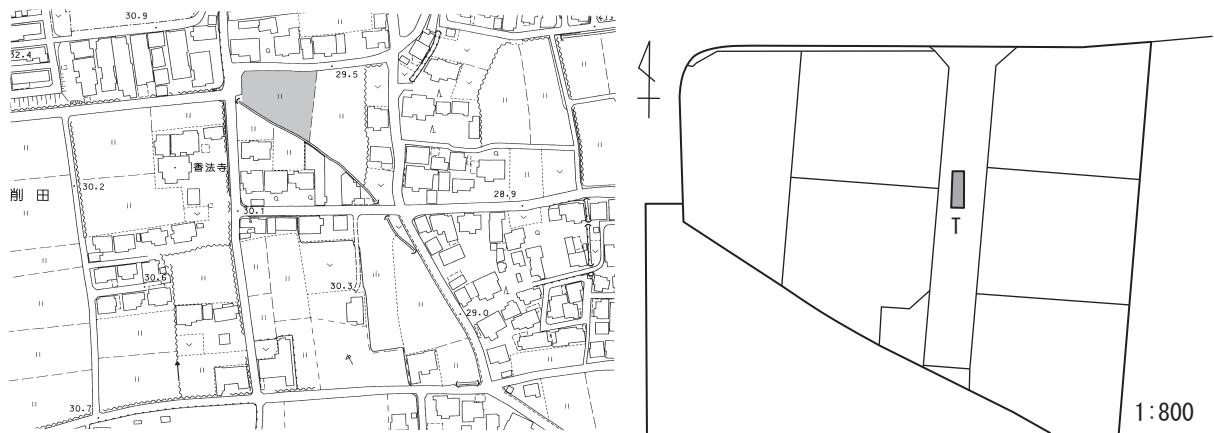
調査結果：T 1 は 1.1 × 2.2 m、深度約 1.3 m まで掘削、T 2 は 1.1 × 2.8 m、深度約 1.3 m まで掘削、T 3 は 1.1 × 3.0 m、深度約 1.6 m まで掘削を行った。この調査の結果、茶褐色粘質土の地山に掘りこまれた遺構を確認した。

(19) **猫迫 1 号墳** (第 39 図、表 4、図版 7-⑥・⑦)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 3 個所設定し、重機を用いて計 14.8 m² 実施した。



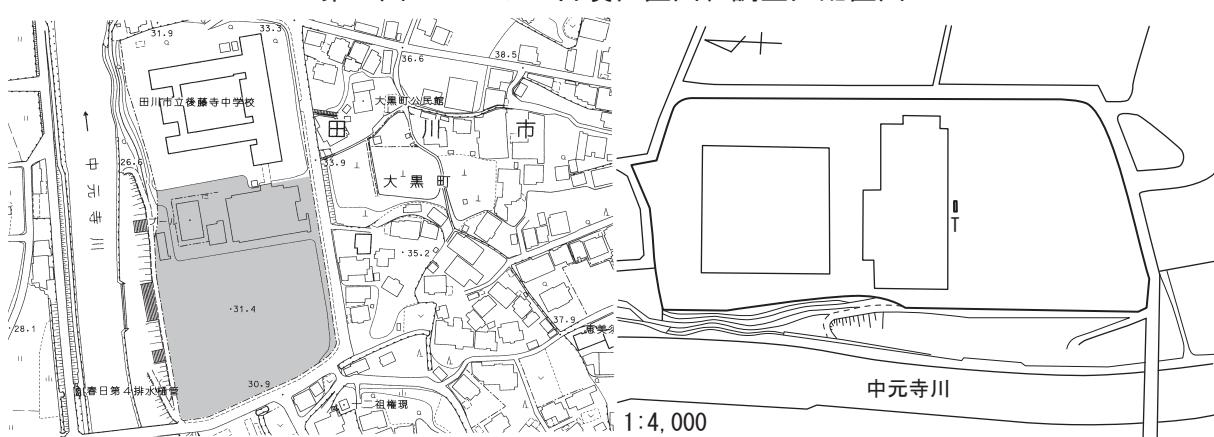
第24図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



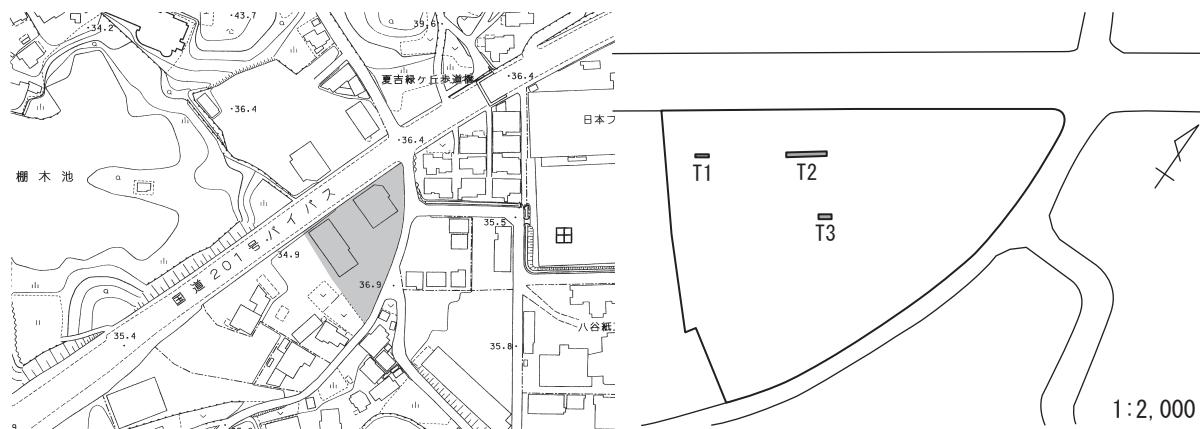
第25図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



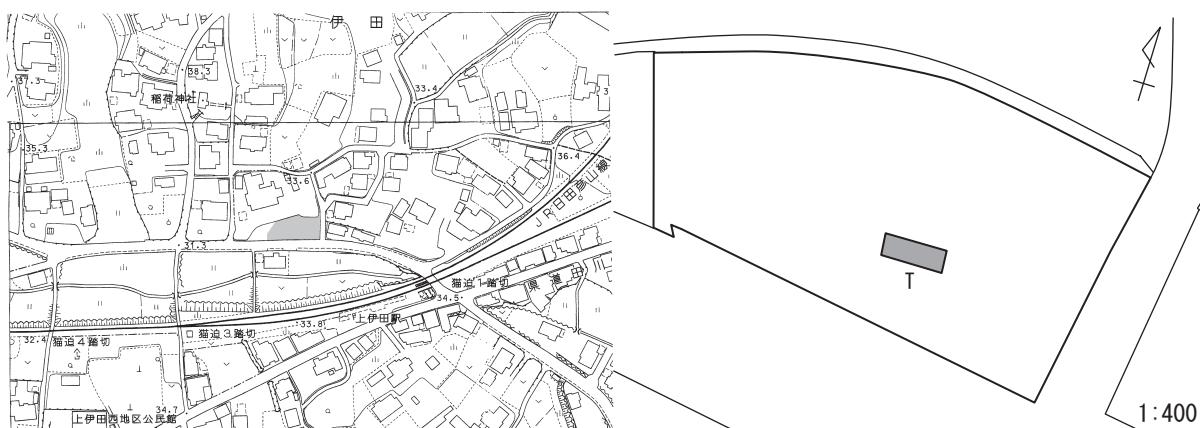
第26図 セストドノ古墳位置図、調査区配置図



第27図 大黒町遺跡位置図、調査区配置図



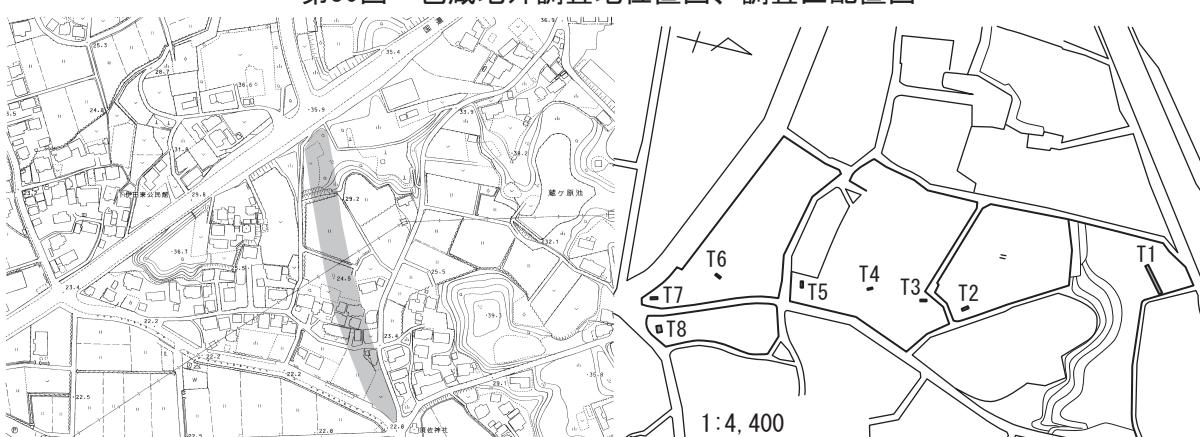
第28図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



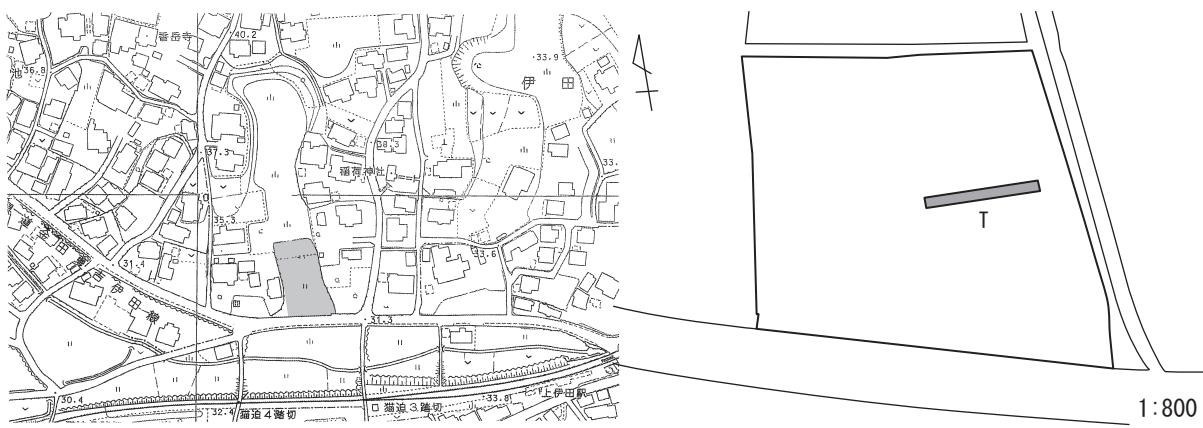
第29図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



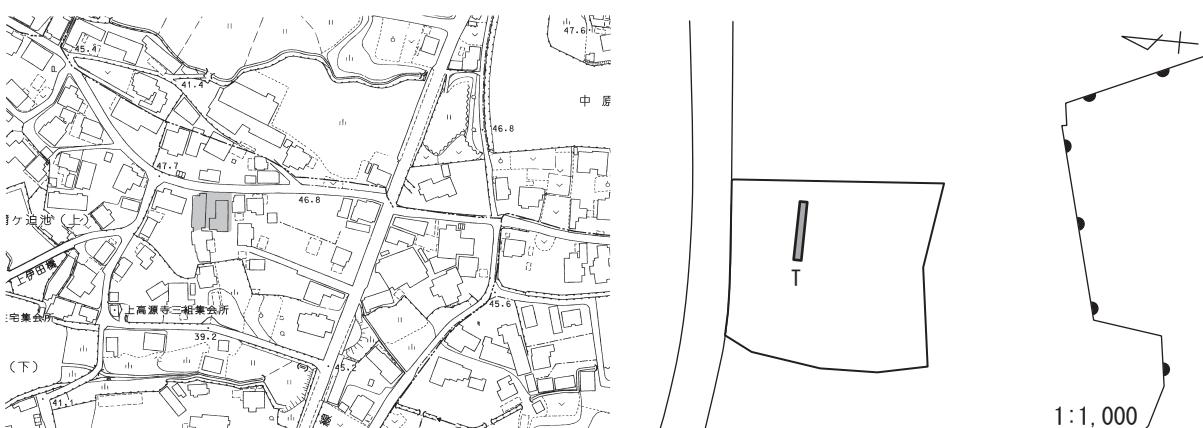
第30図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第31図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第32図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第33図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第34図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第35図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図

調査結果: T 1 は 1.2×2.0 m、深度約 1.15 mまで掘削、T 2 は 1.1×8.3 m、深度約 1.8 mまで掘削、T 3 は 1.1×3.0 m、深度約 1.4 mまで掘削を行った。全て茶褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(20) 上の原遺跡群 (第 40 図、表 4、図版 7-⑧・8-①~③)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を 4 個所設定し、重機を用いて計約 39.4 m^2 実施した。
調査結果: T 1 は 1.1×12.0 m、深度約 0.4 mまで掘削、T 2 は 1.1×10.0 m、深度約 0.6 mまで掘削、T 3 は 1.1×10.8 m、深度約 0.4 mまで掘削、T 4 は 1.1×3.0 m、深度約 0.45 mまで掘削を行った。堆積状況は、耕作土を除くと茶褐色粘質土の地山と、T 1 ~ 3 で本遺跡群 5 次調査で確認した SD90 を検出した。

(21) 弓削田条里跡 (第 41 図、表 4、図版 8-④)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて、調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 8.8 m^2 実施した。
調査結果: 調査区は 1.1×8.0 m、深度約 0.6 mまで掘削を行った。堆積状況は、灰色土に白色土が混じる地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(22) 周知の包蔵地外 (第 42 図、表 4、図版 8-⑤)

調査概要: 開発行為等の計画に基づいて、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 36 mに位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 2.0 m^2 実施した。
調査結果: 調査区は 0.8×2.5 m、深度約 0.4 mまで掘削を行った。堆積状況は、茶褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(23) 周知の包蔵地外 (第 43 図、表 4、図版 8-⑥・⑦)

調査概要: 開発行為等の計画に基づいて、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 41 mである。調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 10.5 m^2 実施した。
調査結果: T 1 は 2.1×3.7 m、深度約 0.3 mまで掘削、T 2 は 1.1×2.5 m、深度 0.3 mまで掘削した。
この調査の結果、明茶褐色粘質土の地山及びこの地山に掘りこまれる遺構を確認した。

第 3 節 令和 4 年度試掘・確認調査の概要 (第 3 図)

(1) 周知の包蔵地外 (第 44 図、表 6、図版 8-⑧)

調査概要: 埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 41 mに位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.85 m^2 実施した。
調査結果: 調査区は 1.1×3.5 mを設けて、深度約 2.7 mまで掘削を行った。堆積状況は、4 層で灰色粘質土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(2) 弓削田条里跡 (第 45 図、表 6、図版 9-①)

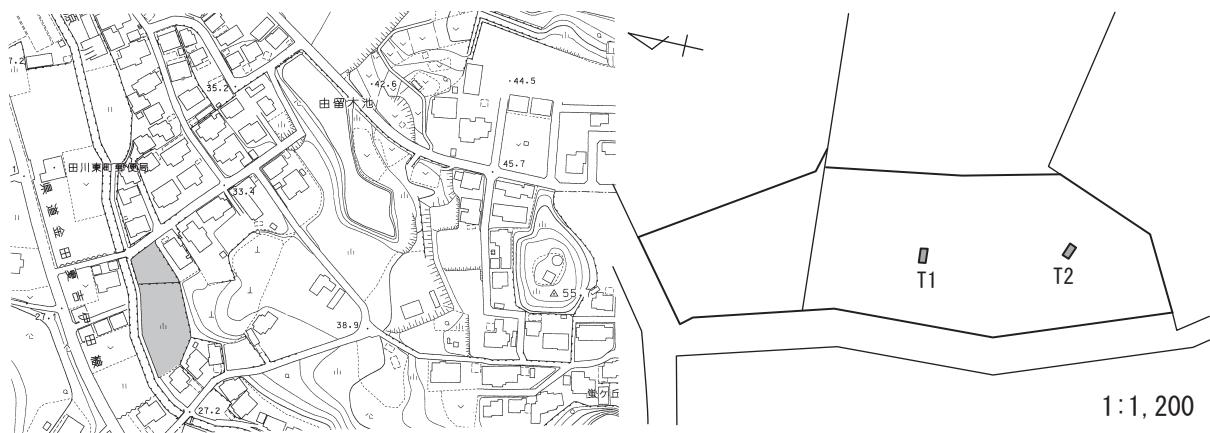
調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を 4 個所設定し、重機を用いて計約 17.0 m^2 実施した。
調査結果: T 1 は 1.2×1.8 m、深度約 3.2 mまで掘削、T 2 は 1.5×3.7 m、深度約 3.6 mまで掘削、T 3 は 1.1×3.3 m、深度約 2.6 mまで掘削、T 4 は 1.1×3.6 m、深度約 2.6 mまで確認した。調査区全ての 4 層より造成前の水田、5・6 層で灰色砂質土を確認した。
この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(3) 番町遺跡 (第 46 図、表 6、図版 9-②)

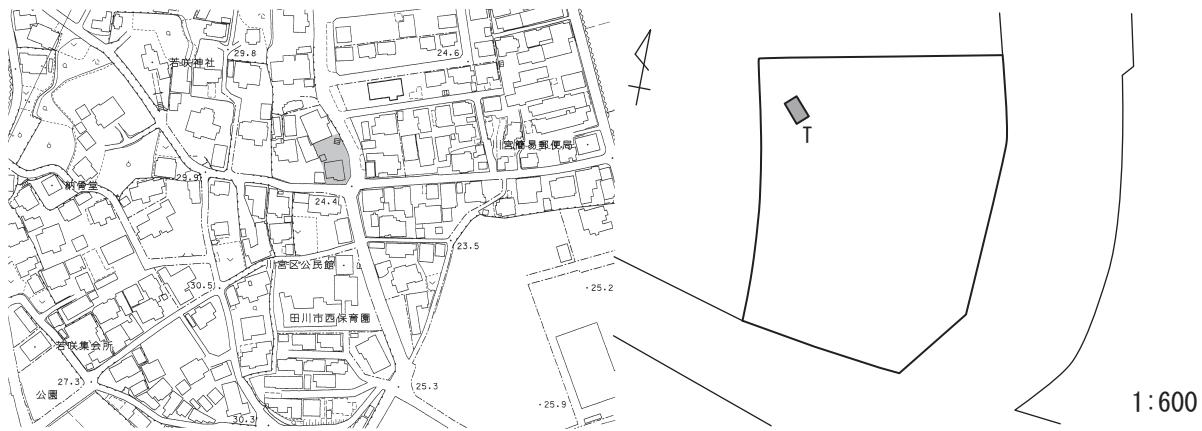
調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 8.25 m^2 実施した。
調査結果: 調査区は 1.1×7.5 m、深度約 0.7 mまで掘削、黄色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかったものの指示事項として工事立会とした。

(4) 弓削田条里跡 (第 47 図、表 6、図版 9-③)

調査概要: 開発行為の計画に基づいて調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 5.4 m^2 実施した。
調査結果: T 1 は 1.0×3.0 m、深度約 1.4 mまで掘削、T 2 は 1.0×2.4 m、深度 1.7 mまで確認した。
堆積状況は鉄分沈着層、灰色砂質土が認められ、周辺の調査結果も踏まえてから遺構として捉えられた。



第36図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



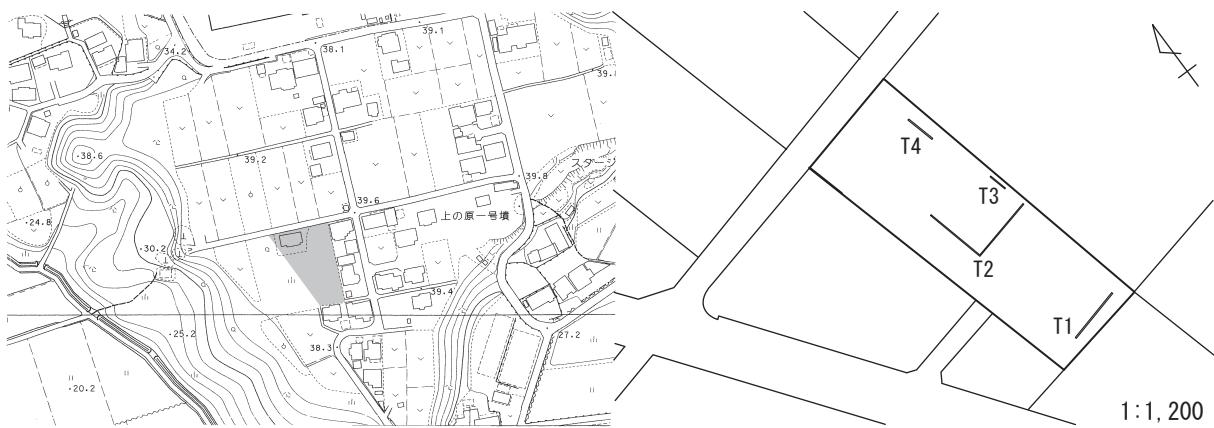
第37図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第38図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図



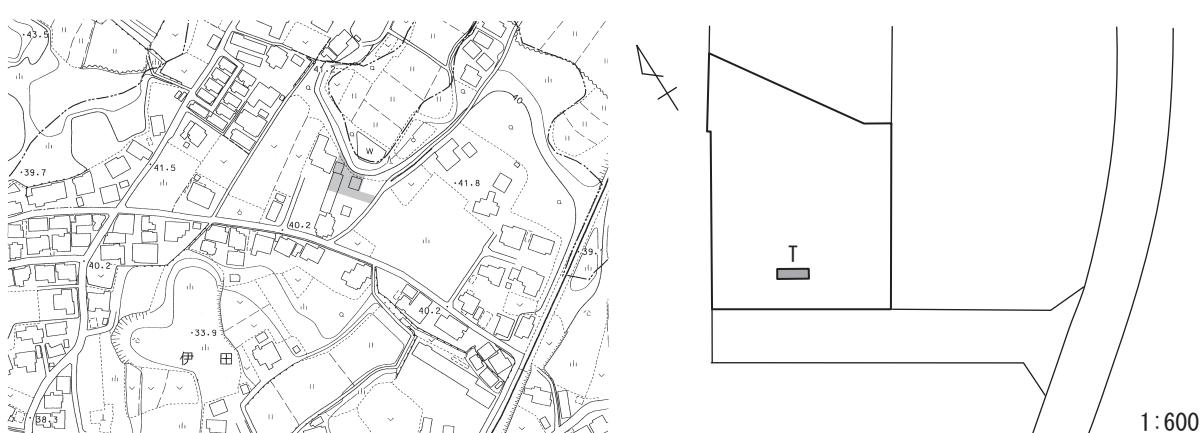
第39図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図



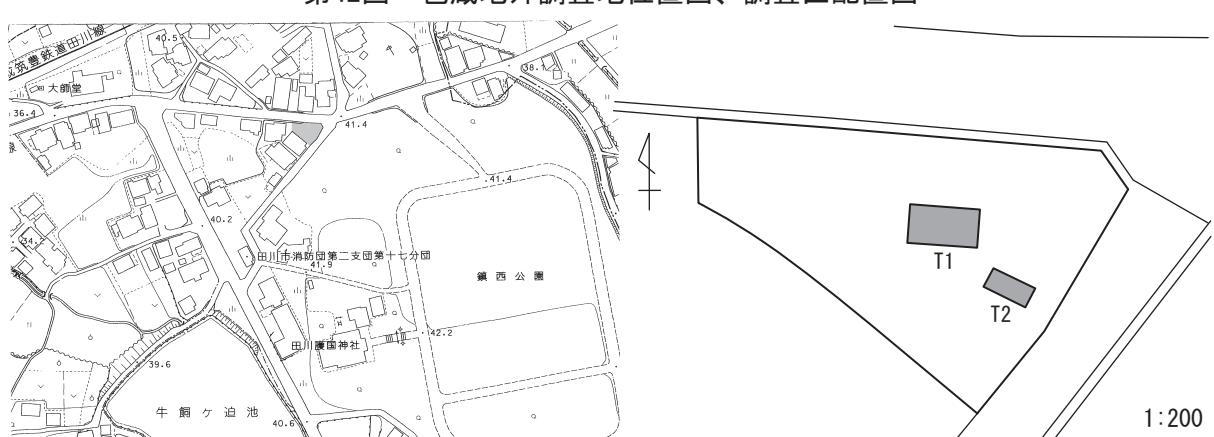
第40図 上の原遺跡群位置図、調査区配置図



第41図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



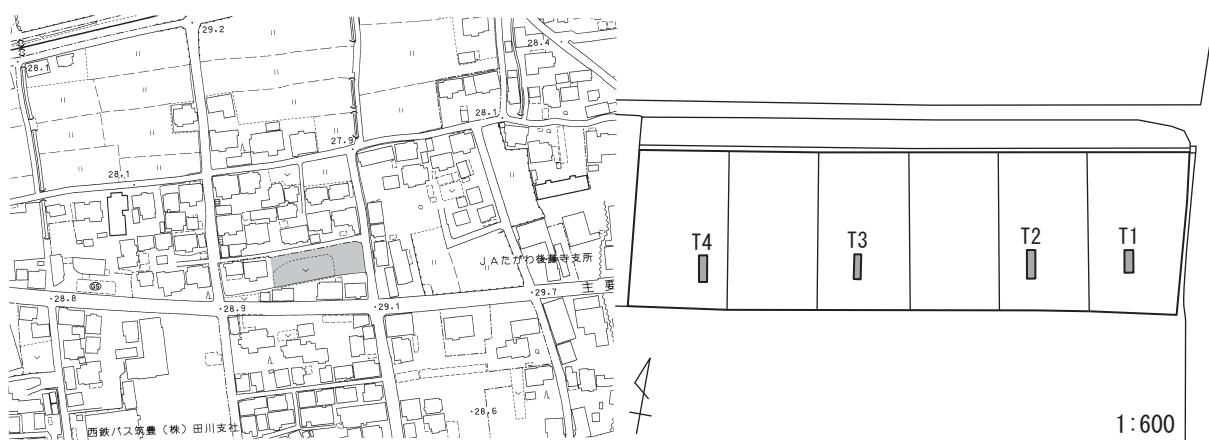
第42図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第43図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第44図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第45図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第46図 番町遺跡位置図、調査区配置図



第47図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図

(5) 弓削田原A遺跡(第48図、表6、図版9-④)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約3.6m²実施した。

調査結果：調査区は1.1×3.3m、深度約1.6mまで掘削した。堆積状況は、造成土と黄褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(6) 猫迫1号墳(第49図、表6、図版9-⑤・⑥)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約14.0m²実施した。

調査結果：調査区は1.1×9.2mを掘削後、堆積状況を確認し1.1×3.5mを西側へ拡幅した。深度約0.4～0.7mまで掘削した。堆積状況は、造成土、褐色粘質土、茶褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(7) 周知の包蔵地外(第50図、表6、図版9-⑦)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約36mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約4.0m²実施した。

調査結果：調査区は1.1×3.6m、深度約2.8mまで掘削した。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(8) 周知の包蔵地外(第51図、表6、図版9-⑧)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約41mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約6.75m²実施した。

調査結果：調査区は0.9×7.5m、深度約0.4mまで掘削した。堆積状況は、黄褐色粘質土の地山と東側で攪乱を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(9) 猫迫1号墳(第52図、表6、図版10-①)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を2個所設定し、重機を用いて計約6.82m²実施した。

調査結果：T1は1.1×3.2m、深度約1.6mまで掘削、T2は1.1×3.0m、深度約1.3mまで掘削した。堆積状況はT1で茶褐色粘質土が認められ、遺構埋土として捉えられる。また、明黄色土の地山を確認した。

(10) 猫迫1号墳(第53図、表6、図版10-②)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を1個所設定し、重機を用いて計約2.3m²実施した。

調査結果：調査区は0.7×3.3m、深度約0.5mまで掘削した。堆積状況は、造成土、明黄色土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(11) 周知の包蔵地外(第54図、表6、図版10-③)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約46mに位置する。調査区を2個所設定し、重機を用いて計約7.46m²実施した。

調査結果：T1は1.0×2.7m、深度約0.8mまで掘削、T2は1.4×3.4m、深度約1.3mまで掘削した。堆積状況は造成土、ボタによる造成土、黄褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(12) 周知の包蔵地外(第55図、表6、図版10-④)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約40mに位置する。調査区を1個所設定し、重機を用いて計約3.0m²実施した。

調査結果：調査区は1.0×3.0m、深度約2.8mまで掘削した。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(13) 周知の包蔵地外(第56図、表6、図版10-⑤)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約40mに位置する。調査区を2個所設定し、重機を用いて計約6.5m²実施した。

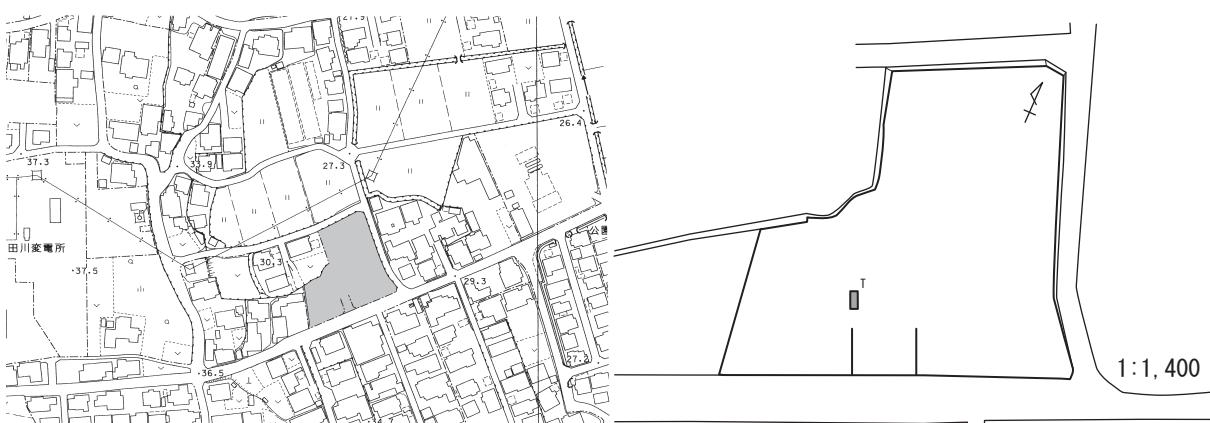
調査結果：T1は約1.0×3.5m、深度約0.8mまで掘削を行った。T2は約1.0×3.0m、深度約1.0mまで掘削した。堆積状況は、造成土と褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。



第48図 弓削田原A遺跡位置図、調査区配置図



第49図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図



第50図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第51図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図

(14) 周知の包蔵地外 (第 57 図、表 6、図版 10 -⑥)

調査概要：田川県土整備事務所の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 46 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 4.8 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.6 × 3.0 m、深度約 1.8 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土と灰色粘質土の旧水田と、灰色粘質土から土器片を確認した。

(15) 周知の包蔵地外 (第 58 図、表 6)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 36 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 14.9 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.4 × 13.5 m、深度約 0.2 ~ 0.3 m まで掘削を行った。堆積状況は、茶褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(16) 周知の包蔵地外 (第 59 図、表 6、図版 10 -⑦)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 39 m に位置する。調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 30.8 m² 実施した。
調査結果：T 1 は 1.1 × 20.0 m、深度約 0.8 m まで掘削、T 2 は 1.1 × 8.0 m、深度約 0.8 m まで掘削した。堆積状況は、造成土と黄褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(17) 周知の包蔵地外 (第 60 図、表 6、図版 10 -⑧)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 39 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.6 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.1 × 3.3 m、深度約 2.2 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土と北側へ傾斜する地山に黄褐色砂礫土を確認し、旧河道と捉えられる。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(18) 周知の包蔵地外 (第 61 図、表 6)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 39 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 8.8 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.1 × 8.0 m、深度約 0.8 m まで掘削した。堆積状況は造成土、旧耕作土、黄褐色粘質土の地山を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(19) 弓削田条里跡 (第 62 図、表 6、図版 11 -①)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 5.0 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.1 × 4.5 m、深度約 1.6 m まで掘削した。堆積状況は、2 面の旧水田と灰色砂礫土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(20) 弓削田条里跡 (第 63 図、表 6、図版 11 -②)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 5.2 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.3 × 4.0 m、深度約 2.1 m まで掘削を行った。堆積状況は茶褐色粘質土、礫層を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(21) 弓削田条里跡 (第 64 図、表 6、図版 11 -③)

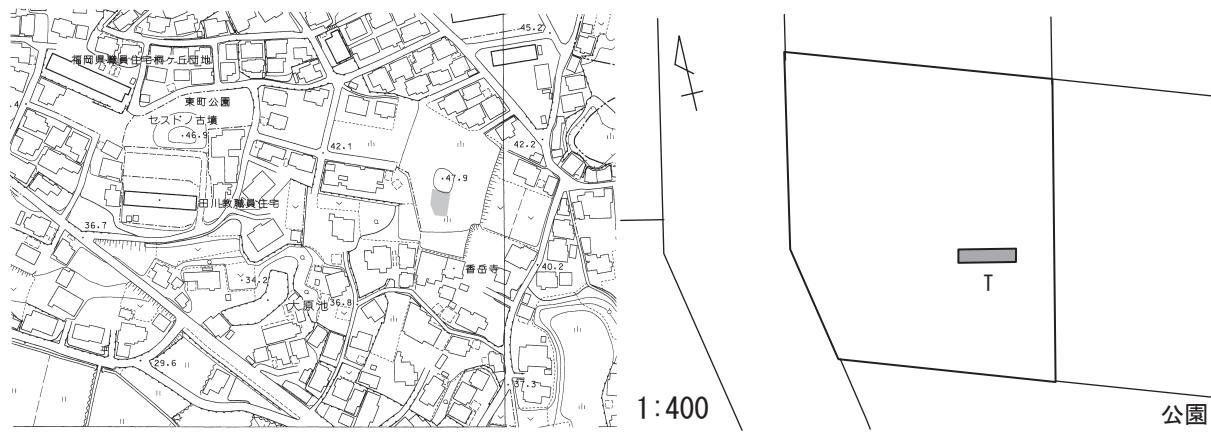
調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 12.2 m² 実施した。
調査結果：調査区は 3.5 × 3.5 m を設けて、深度約 0.4 ~ 0.5 m まで掘削を行った。堆積状況は茶褐色粘質土、青灰色砂質土を確認し、旧河道と捉えられる。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(22) 弓削田原 B 遺跡 (第 65 図、表 6、図版 11 -④)

調査概要：開発行為の計画に基づいて調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.3 m² 実施した。
調査結果：調査区は 1.1 × 3.0 m、深度約 2.0 m まで掘削を行った。堆積状況は 4・5 層で青灰色粘質土を確認、4 層は粘質土が強く、5 層が鉄分沈着が認められる。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。



第52図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図



第53図 猫迫1号墳位置図、調査区配置図



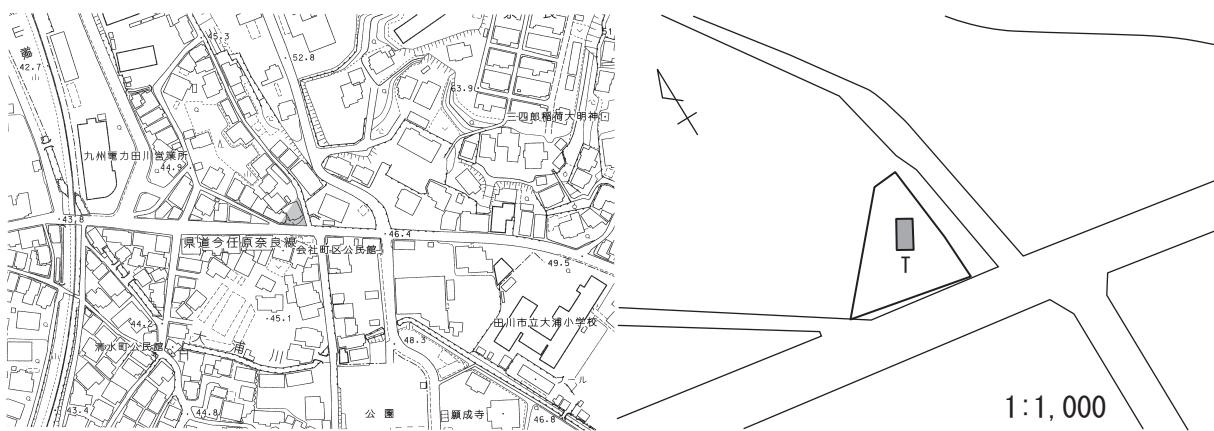
第54図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



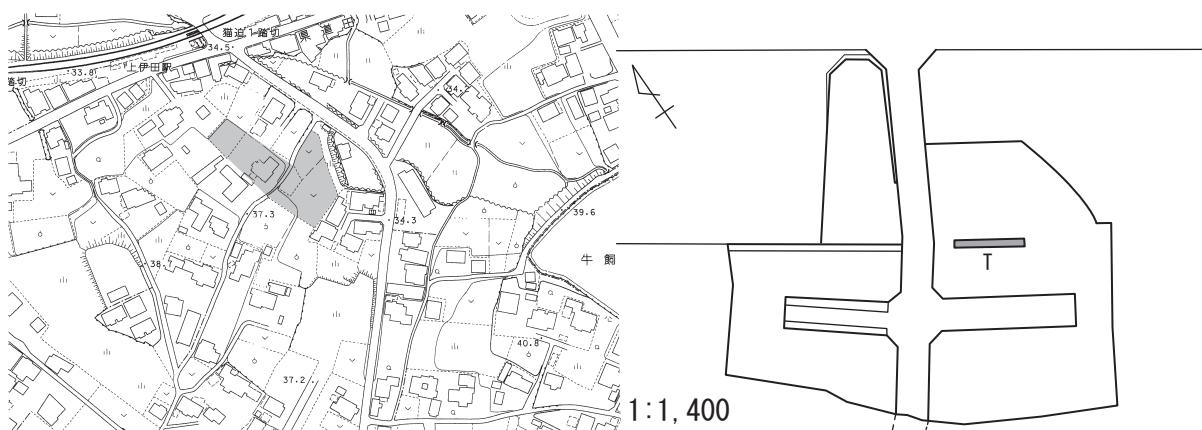
第55図 包蔵地外調査地位置図 調査区配置図



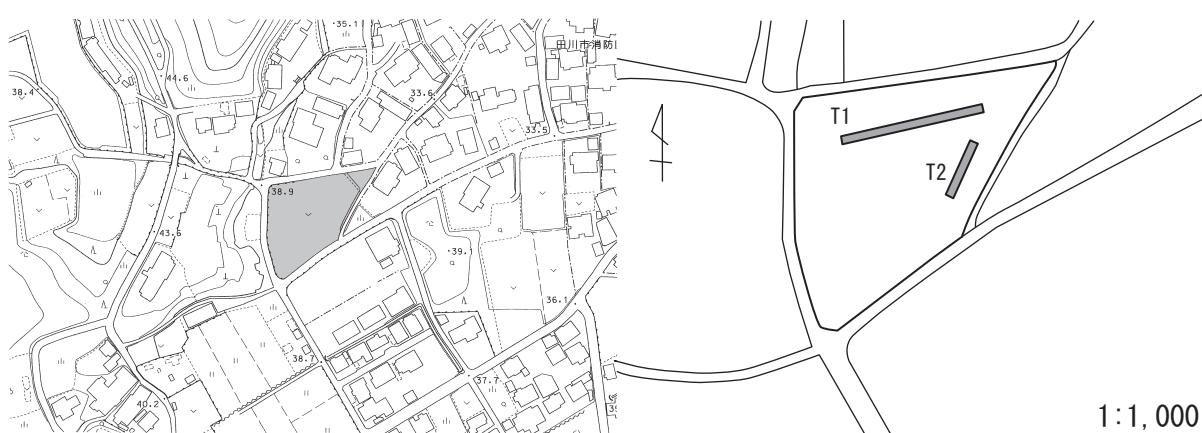
第56図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第57図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



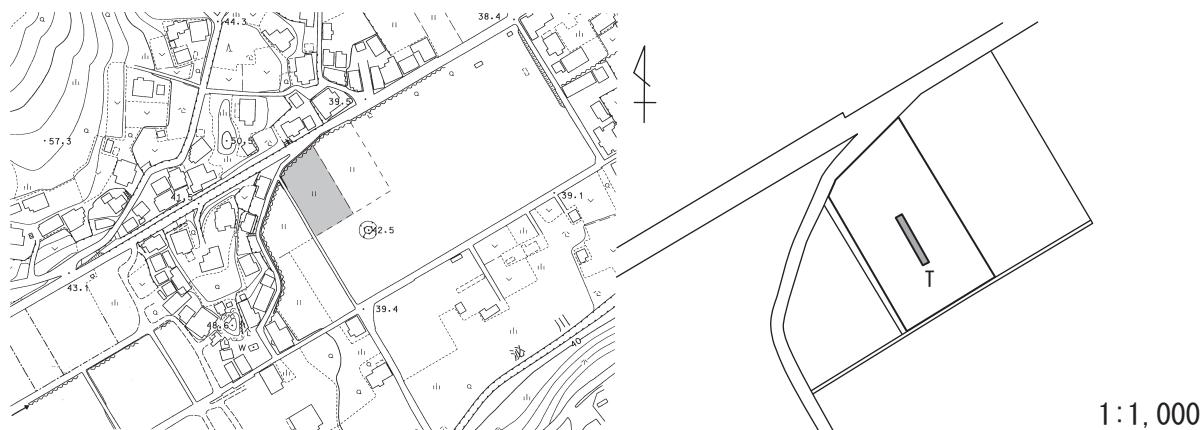
第58図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第59図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第60図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第61図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第62図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第63図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第64図 弓削田条里跡位置図、調査区配置図



第65図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図



第66図 包藏地外調査地位置図、調査区配置図



第67図 下伊田条里跡位置図、調査区配置図



第68図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第69図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図



第70図 弓削田原C遺跡位置図、調査区配置図



第71図 弓削田原B遺跡位置図、調査区配置図

(23) 周知の包蔵地外 (第 66 図、表 6)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 25 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 6.4 m² 実施した。

調査結果：調査区は 2.0 × 3.2 m、深度約 2.2 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(24) 下伊田条里跡 (第 67 図、表 6、図版 11-⑤)

調査概要：田川県土整備事務所より文化財保護法第 94 条通知を受け、関係者との協議の結果、開発行為等の計画に基づいて確認調査を実施した。調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 5.5 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 1.1 × 2.8 m、深度約 3.5 m まで掘削を行った。T 2 は 1.1 × 2.2 m、深度約 3.0 m まで掘削を行った。堆積状況は 1 ~ 3 層が表土・造成土、4 層が鉱害復旧前の水田と考えられる黒色粘質土、5 層が灰色粘質土、6 層が青灰色砂礫土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(25) 周知の包蔵地外 (第 68 図、表 6、図版 11-⑥)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 31 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.3 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 3.0 m、深度約 1.5 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(26) 周知の包蔵地外 (第 69 図、表 6、図版 11-⑦)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約 24 m に位置する。調査区を 1 個所設定し、重機を用いて計約 3.5 m² 実施した。

調査結果：調査区は 1.1 × 3.2 m、深度約 3.2 m まで掘削を行った。堆積状況は、造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

(27) 弓削田原 C 遺跡 (第 70 図、表 6、図版 11-⑧)

調査概要：開発計画に基づいて調査区を 2 個所設定し、重機を用いて計約 7.14 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 0.9 × 3.6 m、深度約 0.3 m まで掘削を行った。T 2 は 1.5 × 2.6 m、深度約 0.9 m まで掘削を行った。堆積状況は、茶褐色粘質土の地山に褐色粘質土の遺構埋土と弥生土器片の出土を確認した。

(28) 弓削田原 B 遺跡 (第 71 図、表 6、図版 12-①~③)

調査概要：開発計画に基づいて調査区を 6 個所設定し、重機を用いて計約 26.8 m² 実施した。

調査結果：T 1 は 1.1 × 5.0 m、深度約 0.45 m まで掘削した。T 2 は 1.1 × 3.2 m、深度約 0.5 m まで掘削した。T 3 は 1.1 × 7.0 m、深度約 0.4 m まで掘削した。T 4 は 1.1 × 2.0 m、深度約 0.7 m まで掘削した。T 5 は 1.1 × 4.0 m、深度約 0.55 m まで掘削した。T 6 は 1.1 × 3.2 m、深度約 0.3 m まで掘削した。堆積状況は、全ての T 3 層で茶褐色粘質土の地



第72図 包蔵地外調査地位置図、調査区配置図

山を確認した。またT 1～4で、地山に掘りこまれる遺構と弥生土器を確認した。

(29) 周知の包蔵地外 (第72図、表6)

調査概要：埋蔵文化財等の照会を受け、関係者との協議の結果、試掘調査を実施した。照会地は標高約24mに位置する。調査区を2個所設定し、重機を用いて計19.6m²実施した。

調査結果：T 1は1.7×6.0m、深度約2.4mまで掘削を行った。T 2は1.7×5.5m、深度約2.5mまで掘削を行った。堆積状況は造成土を確認した。この調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

第4節 試掘・確認調査・工事立会出土遺物 (第73図、表8、図版12-④・⑤)

弥生土器 1は甕底部である。14は凹線文が施される壺口縁部である。

土師器 2は塊口縁部である。3は皿口縁部で、耳皿と考えられる。4は皿底部である。磨滅が著しい。

須恵器 5は鉢口縁部、6は口縁部で、高坏と考えられる。7は躰脇部で、穿孔が認められる。

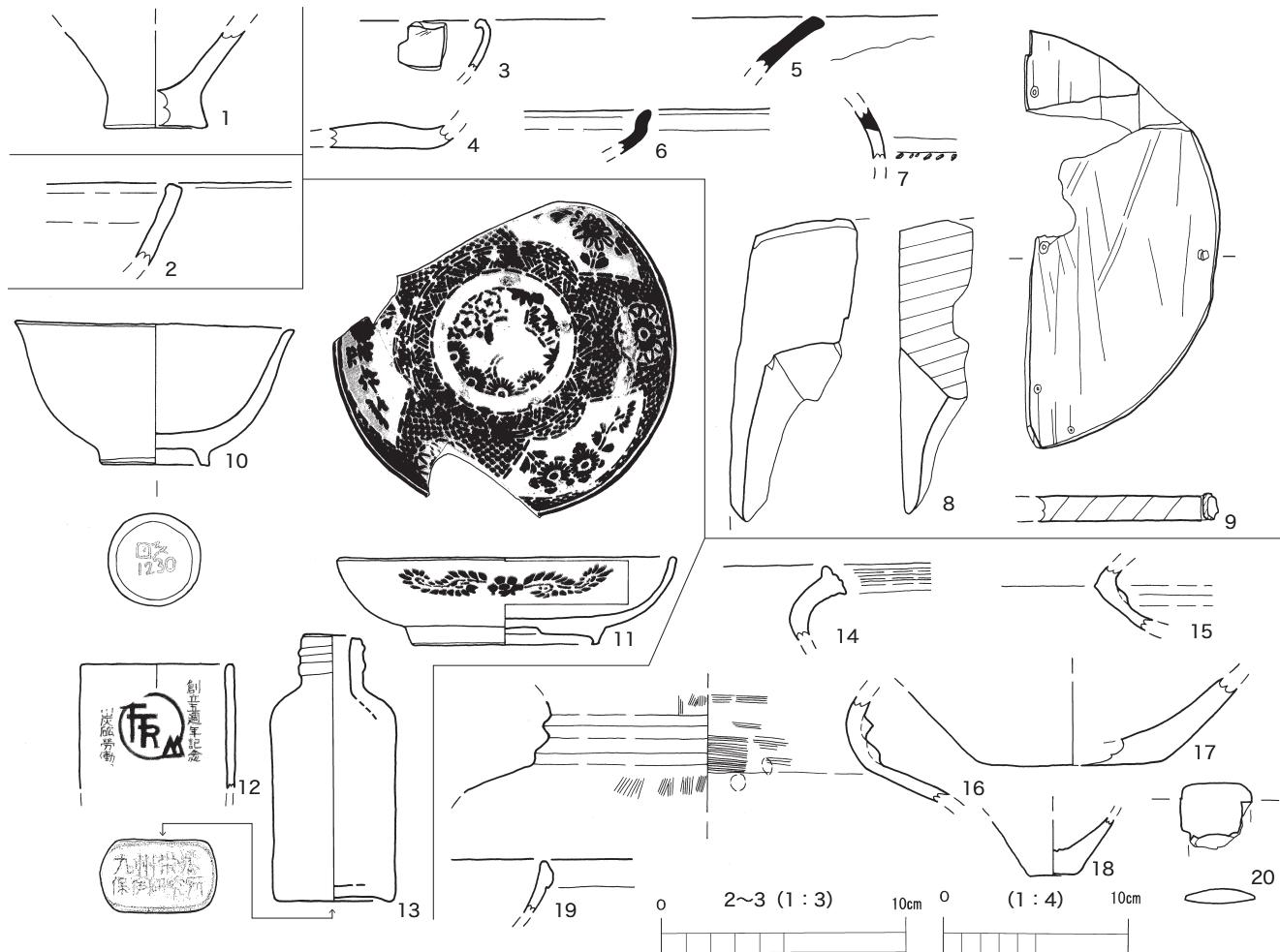
木製品 8は中央部の凹む形状より、容器と考えられる。9は曲物の蓋・底板で、半分ほど残存する。面には5個所の穿孔と、うち1個所に樺皮と考えられる紐が認められる。周縁部の加工は、段を設けないE類である。

磁器 10～12は磁器である。10は飯碗、11は蛇の目釉剥ぎ皿、12は湯呑で、「創立五周年記念○川炭礎労働○」、「TTR」と炭坑節をモチーフにした月と二山がプリントされる。

輸入磁器 19は白磁碗IV類口縁部である。

ガラス 13はガラス瓶である。

石製品 20は断面が橢円形の石劍の把手と考えられる。



第73図 試掘・確認調査等出土遺物実測図

第Ⅲ章 市内遺跡発掘調査の記録

第1節 鎮西遺跡の調査

(1) 発掘調査の経緯と概要（第74図）

令和2年3月29日に照会地の試掘調査を実施した結果、遺構及び遺物の出土を確認した。この調査結果を受けて、同年3月30日付け田教文第289号の12で、新規の埋蔵文化財包蔵地カードを県文化財保護課へ報告した。土地所有者より同年5月28日付け田教文第140号の4にて文化財保護法第93条第1項届出を受理し、県教育庁文化財保護課より同年6月2日付け2教文第1号の254にて発掘調査の指示を通知した。協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲について、同年5月28日付けて提出された埋蔵文化財等調査依頼届等に基づいて、田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を田川市教育委員会が実施する事となり、発掘調査を実施した。調査対象面積は72m²、調査は同年6月12日から6月30日の期間に実施した。

本遺跡は英彦山から南北方向に派生する台地上に立地し、標高約43.0mに位置する。地質は火成岩である。確認した遺構は、弥生期の貯蔵穴跡5基、古代の土坑跡1基と溝状遺構1条である。

(2) 遺構・遺物

SD 3（第75・76図、表8、図版12-⑥・⑦・13-④）

調査区の中央を南北と北側の浄化槽設置部分に円弧状にはしる。南側はS 1やSK 6～8の堆積の影響が認められ、調査区南側土層観察の結果、SK 7の一部を削平する。埋土は褐色粘質土の単層で、幅0.7m～1.4m、深度0.2m～0.3mである。出土遺物は弥生土器片、腰岳産ob片、瓦が出土した。

出土遺物

瓦 1は凸面に縄目叩き目、凹面は布目痕が残る。側面と広・狭端をヘラケズリ調整が認められる。焼成はやや軟質で、色調は黄褐色である。形状より熨斗瓦と考えられる。

SK 4（第75図）

調査区中央、SD 3下層にて検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.55m×短軸0.42m、下場が長軸1.12m×短軸0.20m、深度0.28mを測る。埋土は単層で、浅茶色土である。出土遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

SK 5（第75図、図版12-⑧）

西側のSK10の削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形と考えられる。遺構の規模は残存で上場が長軸1.5m×短軸1.1m、下場が長軸0.76m×短軸0.59m、深度0.58mを測る。埋土は単層で、茶褐色土である。出土遺物は弥生土器であるが、図示可能ではなかった。

SK 6（第75・76図、表8、図版13-①）

調査区南側で検出、平面形はS 1の影響を受けているが隅丸長方形と考えられる。遺構の規模は残存で上場が長軸1.54m×短軸1.06m、下場が長軸1.10m×短軸0.96m、深度0.52mを測る。埋土は3層に分層が可能で、粘質土である。出土遺物は弥生土器・石製品である。

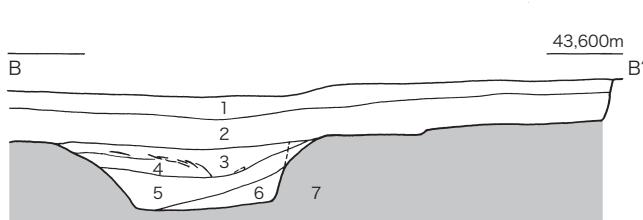
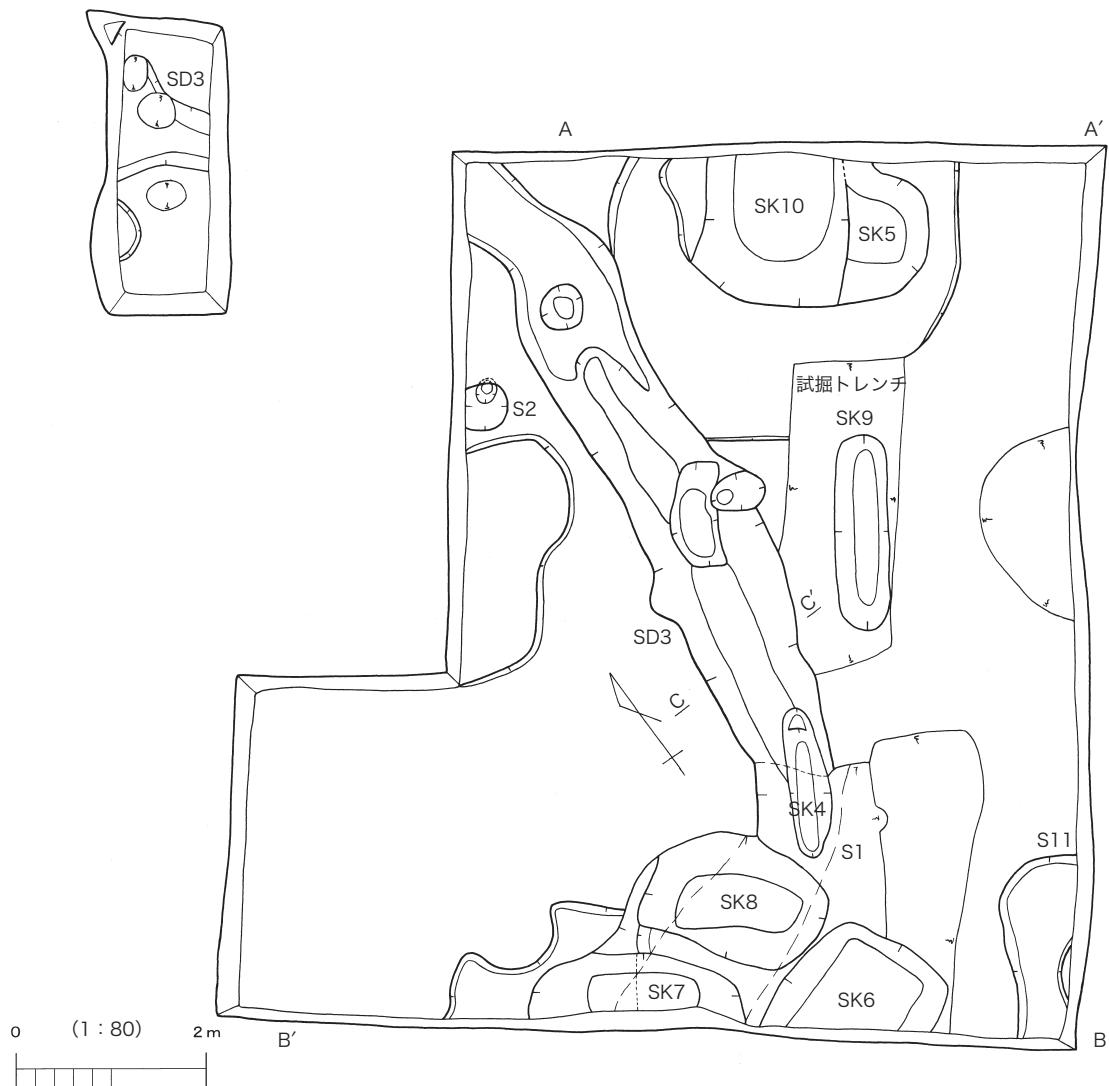
出土遺物

弥生土器 2・3は壺底部である。4～6は甕である。4は口縁部から体部下半まで残存し、口縁部は短く外方へ開く。5・6は底部である。

石製品 7は砂岩製の砥石である。

SK 7（第75・76図、表8、図版13-①）

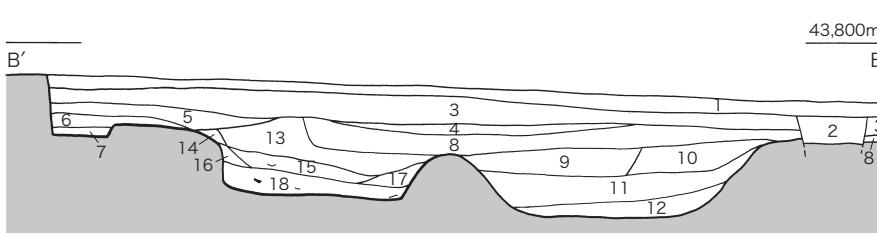
調査区南側で検出、平面形は隅丸長方形と考えられる。遺構の規模は残存で上場が長軸2.29m×短軸0.76m、下場が長軸1.40m×短軸0.45m、深度0.68mを測る。SK 7の削平の影響を受けるが、



SK5・10 実測図

SK5・10 実測図
 1 表土
 2 造成土
 3 5YR5/2灰褐色粘質土 粒子が細かく、粘性はやや強い(SK10)。
 4 5YR4/2灰褐色粘質土 ϕ 2~3mmの黄褐色粒子を含み、粘性が強い(SK10)。
 5 5YR4/3にびい赤褐色粘質土 ϕ 1mmの白色粒子を含み、粘性が強い(SK10)。
 6 5YR5/3にびい赤褐色粘質土 ϕ 1mmのマンガンを粒状に含み、粘性が強い(SK10)。
 7 5YR5/6明赤褐色粘質土 地山。

SK6・7・S1・11 実測図
 1 表土 2 摂乱 3 造成土 4 造成土
 5 5YR4/1褐灰色土 しまり弱い。
 6 5YR2/2灰褐色土 しまり弱い。
 7 5YR4/2灰褐色粘質土 しまりやや弱い(S11)。
 8 5YR4/1褐灰色土 しまり弱い、5と同層か。
 9 5YR5/2灰褐色粘質土
 ϕ 2cmの黒色粒子を含み、粘性弱い(S1)。
 10 5YR5/3にびい赤褐色粘質土
 粒子が細かく、粘性が高い(SK7)。
 11 5YR3/1黒褐色粘質土 粘性が高い(SK7)。
 12 5YR4/1褐灰色粘質土
 ϕ 1~3cmの黄色粒子を含む(SK7)。
 13 5YR5/1褐灰色粘質土 粒子を含む(SK6)。
 14 5YR4/2灰褐色粘質土
 粘性がやや強い。地山崩れ(SK6)。
 15 5YR4/1褐灰色粘質土
 ϕ 1~3cmの黄色粒子を含む(SK6)。
 16 5YR5/3にびい赤褐色粘質土
 15より黄色粒子が少ない(SK6)。
 17 5YR3/1黒褐色粘質土
 ϕ 2cmの橙色粒子を含む(SK6)。
 18 5YR4/3にびい赤褐色粘質土
 ϕ 1~2mmの黒色・黄色粒子を含む(SK6)。



SK6・7, S1・11 実測図

0 (1:60) 2 m

第74図 鎮西遺跡遺構配置図、土層実測図

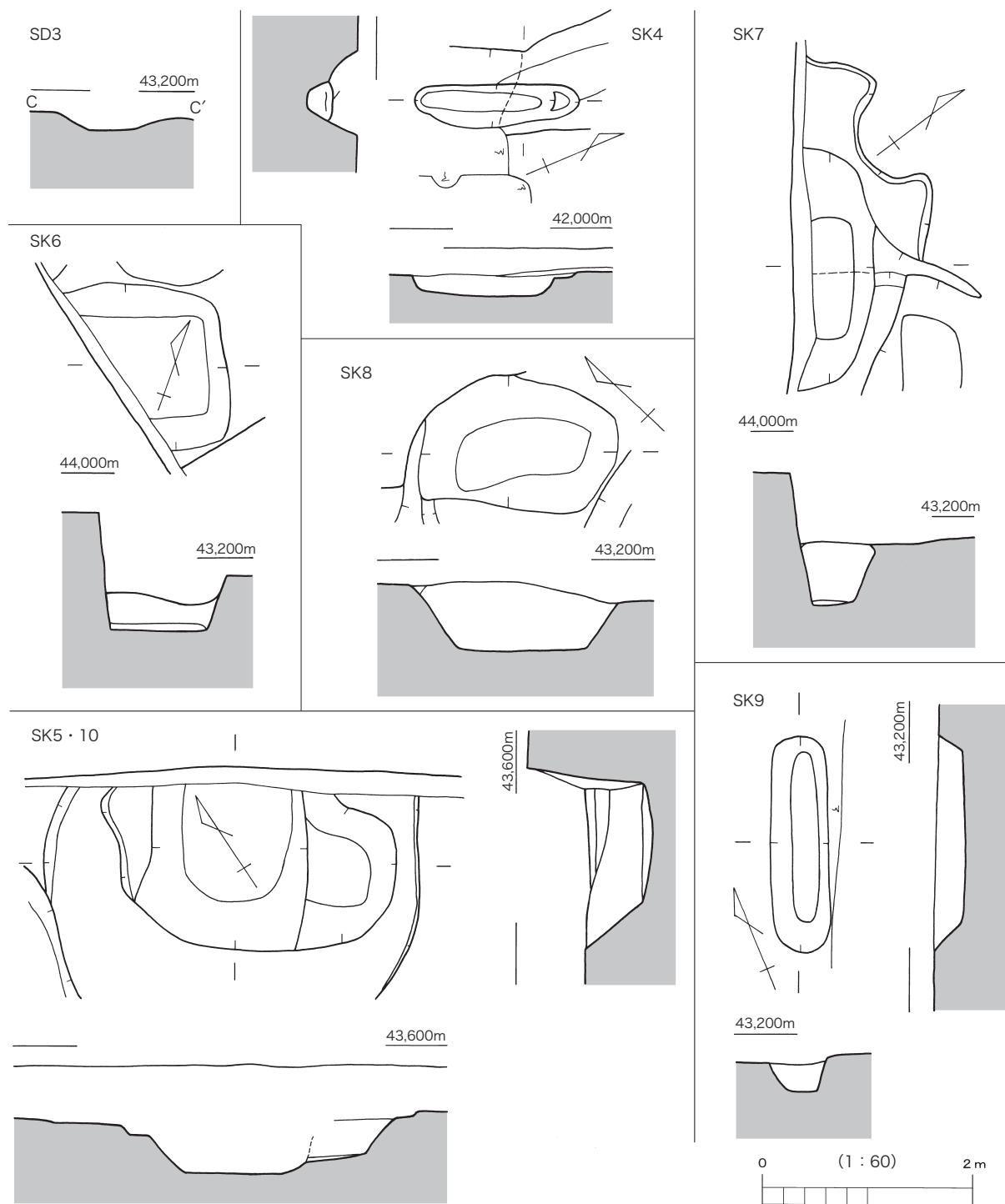
埋土は3層に分層される。出土遺物は弥生土器である。

出土遺物

弥生土器 8・9は甕である。8は口縁部から体部まで残存する。9は底部で、胴部下半が窄まり、底端部へ広がる。底部外面は、僅かに上げ底である。

SK 8 (第75・76図、表8、図版13-①)

調査区南側で検出、平面形はSK 6・7の影響を受けているが隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.97m×短軸1.26m、下場が長軸1.20m×短軸0.54m、深度0.67mを測る。埋土は2層に分層される。出土遺物は弥生土器である。



第75図 遺構実測図

出土遺物

弥生土器 10は壺頸部である。外面は断面が三角形の突帯を一条と沈線の一条の区画内に、「/」と矢羽根状の施文を施す。11・12は甕底部である。12は脚状の底部である。

SK 9 (第 75 図)

調査区中央、試掘調査にて検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸 2.03 m × 短軸 0.55 m、下場が長軸 1.60 m × 0.25 m、深度 0.37 m を測る。出土遺物は確認できなかった。

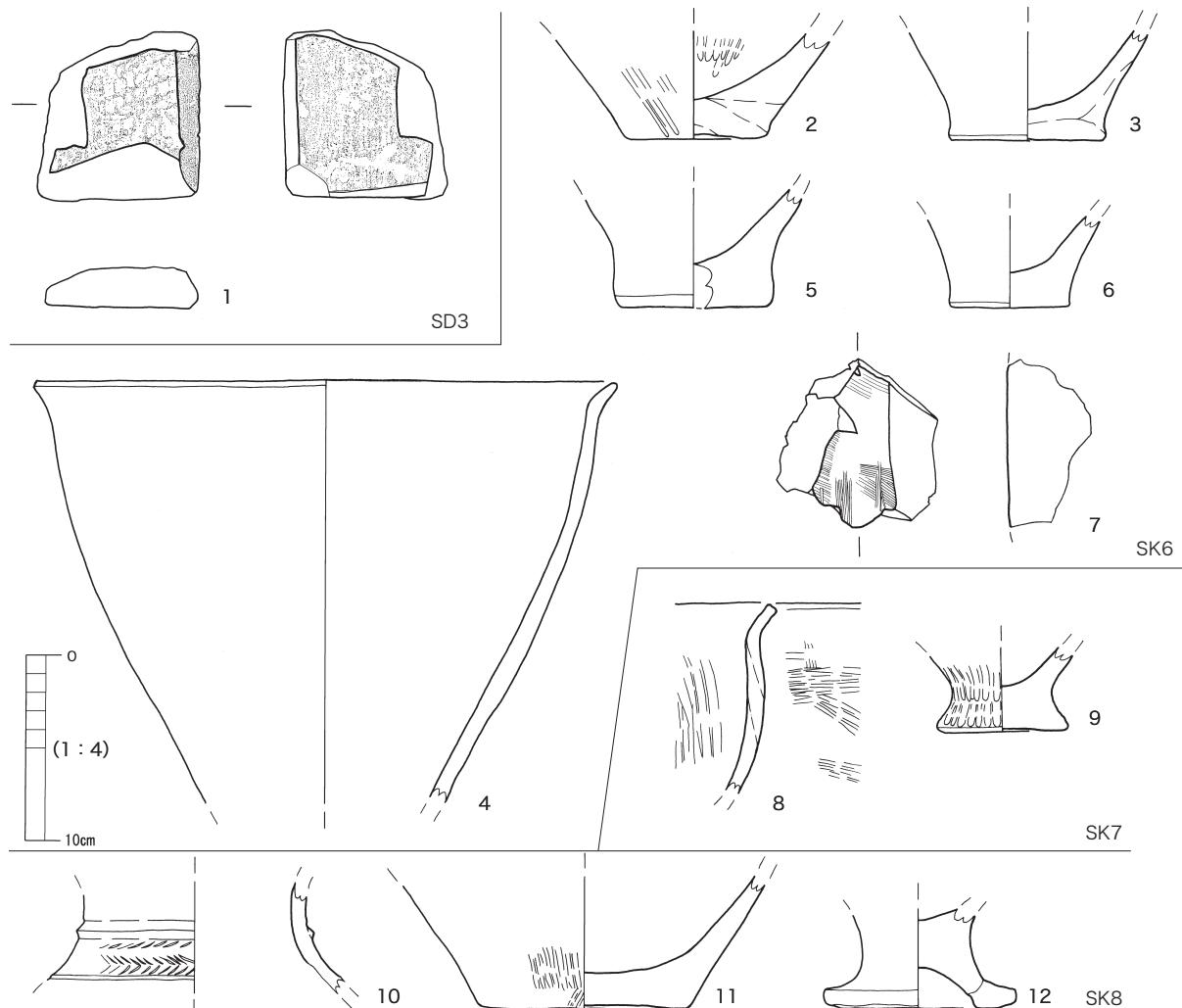
SK10 (第 75・77 図、表 8、図版 12-⑧・14-①・②)

調査区北側で検出、平面形は隅丸長方形と考えられる。遺構の規模は残存で上場が長軸 1.76 m × 短軸 1.59 m、下場が長軸 1.22 m × 短軸 1.02 m、深度 0.76 m を測る。埋土は3層に分層され、上層からの出土遺物が多い。出土遺物は弥生土器である。

出土遺物

弥生土器 13～22は壺である。13～15は広口壺で、14は口縁部内面に粘土を貼付け、厚くする。13・15は頸部に断面が三角形の突帯を一条巡らす。16～22は底部で、17は胴部下端と底部境に、粘土貼付けが認められる。23～26は甕である。

土製品 27は腕部と体部・脚部が残存する人形土製品と考えられる。腕部は片腕が残存し、体部よ

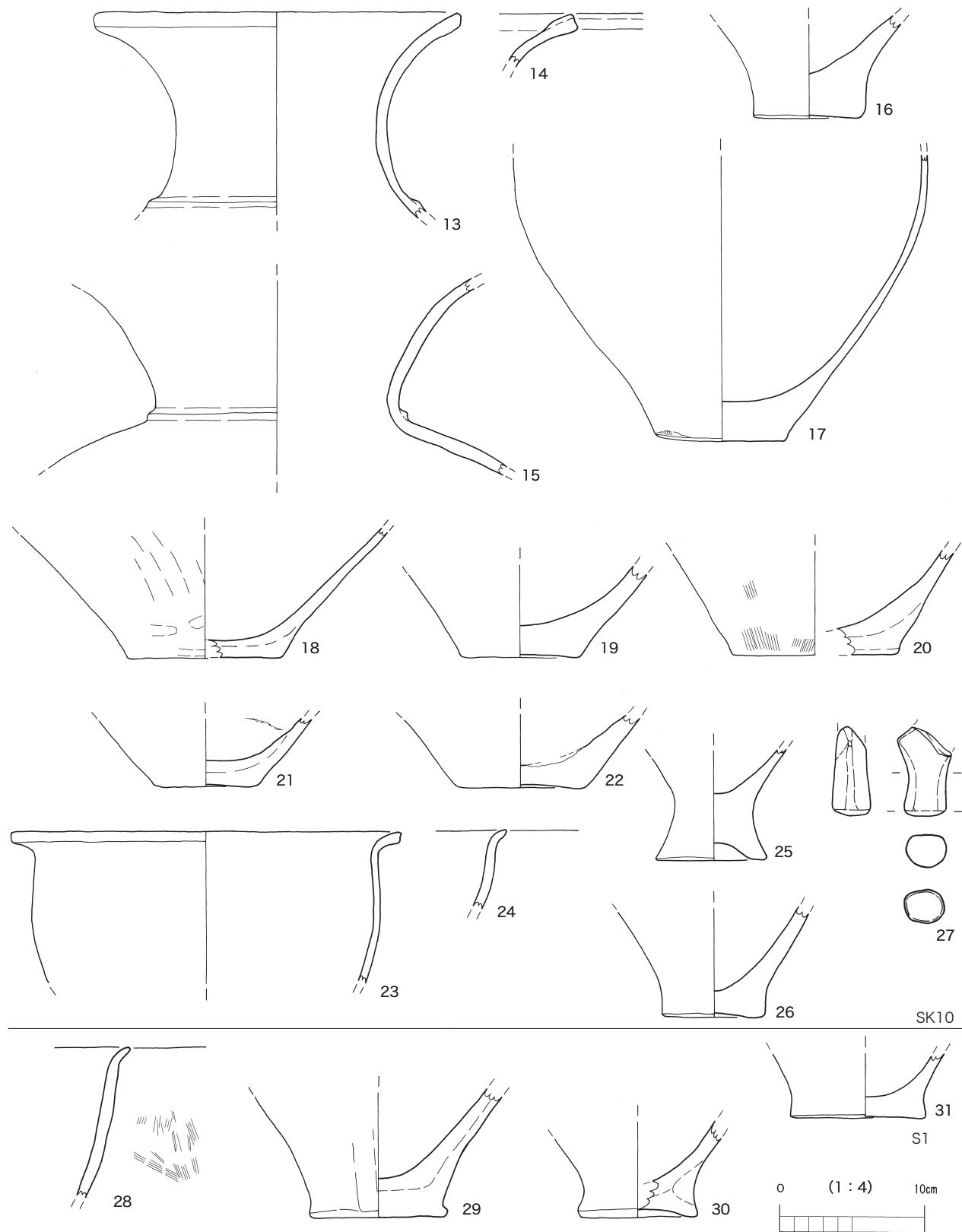


第 76 図 出土遺物実測図①

り摘み出す形状である。体部・脚部は平面形が長方形で、両側を緩やかな内反りの曲線で表わす。断面は円形で、脚部底は平らではない。焼成は弥生土器と同類である。

その他（第77図、表8）

弥生土器 28～31はSK 6～8上層のS 1から出土した。29は壺底部である。28・30・31は甕である。



第77図 出土遺物実測図②

第2節 猫迫1号墳3・4次の調査

(1) 発掘調査の経緯と概要 (第78図)

猫迫1号墳は確認調査(1次)、宅地造成による記録保存による発掘調査(2次)が実施された。今回の3・4次調査は宅地造成後、未発掘調査部分について記録保存による発掘調査を実施した。

3次調査は、土地所有者より令和2年6月25日付け田教文140号の7にて、文化財保護法第93条第1項届出を受理し、県教育庁文化財保護課より同年6月29日付け2教文第1号の383にて発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、同年6月25日付けで提出された埋蔵文化財等調査依頼届等に基づいて、遺構の保存に支障が生じる範囲を田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を実施した。調査対象面積約は400m²、発掘調査は同年7月8日から7月31日の期間に実施した。

4次調査は、土地所有者より令和4年1月18日付け田教文第118号の31にて、文化財保護法第93条第1項届出と同年1月27日付けで確認調査依頼等が提出された。同年2月7日に確認調査を実施し遺構等を確認したため、県教育庁文化財保護課より同年2月16日付け3教文第1号の1881にて、記録保存を目的とする発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲を田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を実施することとなり、同年2月23日付けで埋蔵文化財等調査依頼届等を受理、発掘調査を実施した。対象面積は50m²、発掘調査は同年3月9日から3月19日の期間に実施した。

本調査地は英彦山から南北方向に派生する標高約38.0mの低丘陵に立地し、地質は堆積岩である。



第78図 猫迫1号墳遺構配置図

確認できた遺構は、3次が古墳時代の竪穴建物跡1基、弥生時代の土坑2基、4次が古墳時代の竪穴建物跡2基である。

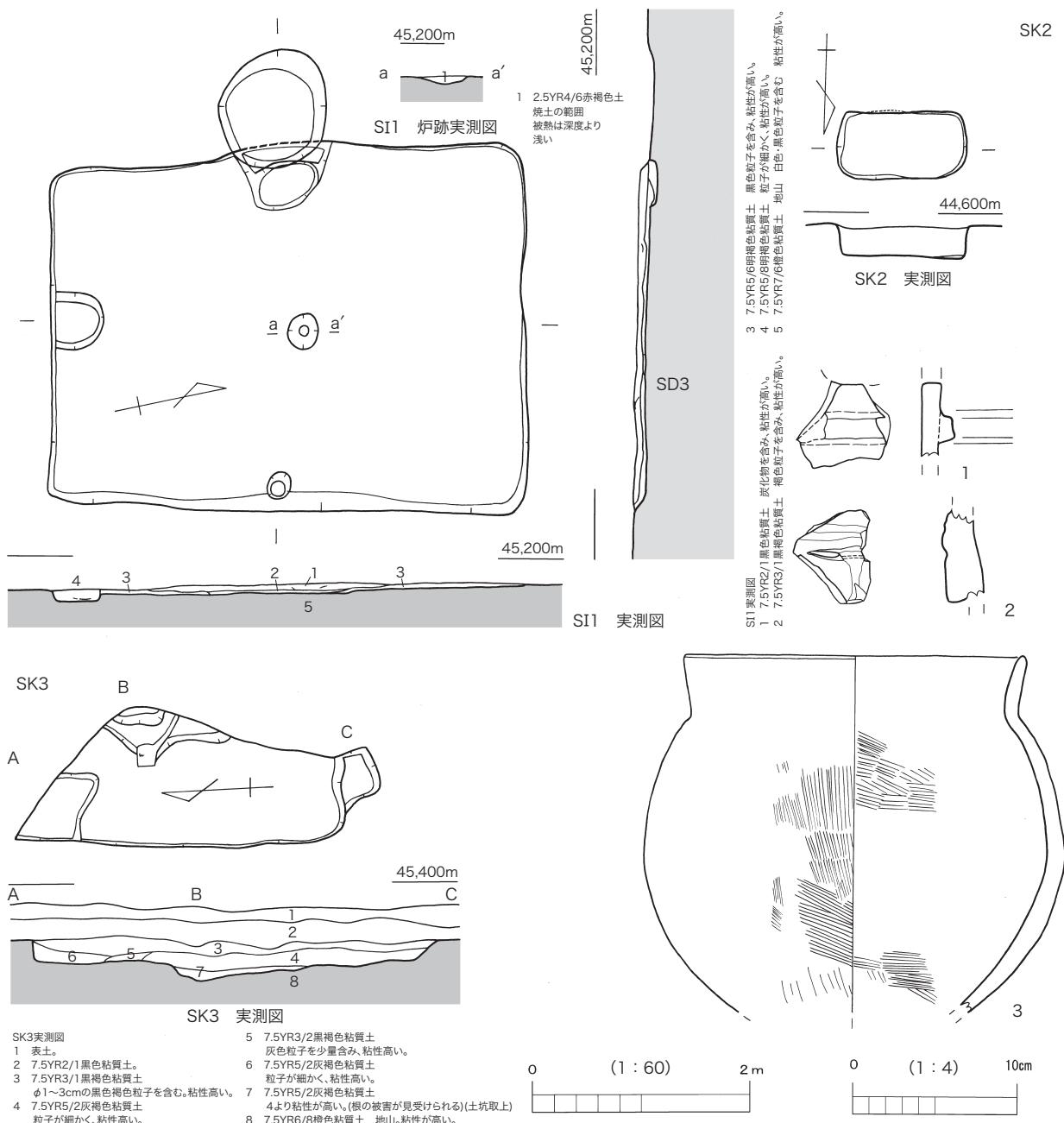
(2) 遺構・遺物

SI1 (第 79 図、表 8、図版 14-③~⑤・15-⑥)

調査区西側で検出した、隅丸方形の竪穴建物である。遺構は削平と、西側は攪乱の影響を受ける。遺構の規模は長軸 4.43 m × 短軸 3.34 m、深度 0.03 ~ 0.12 m を測る。中央には径約 0.22 m、深度 0.06 m の小孔が設けられ、埋土は褐色粘質土である。柱穴跡は確認できない。遺構の西側は径約 0.4 m、深度 0.8 m、南に径約 0.3 m、深度 0.06 m の浅い土坑を設ける。

出土遺物

土師器 3は甕で口縁部から体部下半まで残存し、口縁部は頸部から若干外方へ開く。外・内面にハケと外面体部下半にヘラ削りが施される。外面の体部下半は赤褐色で、被熱の痕跡が認められる。



第79図 3次遺構・出土遺物実測図

SI 2 (第 80 図、図版 15 -①・②)

調査区南側で検出、一部確認調査による削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形と考えられる。遺構の規模は残存で長軸 3.38 m × 短軸 3.16 m、深度 0.27 m を測る。北側はベット状遺構と考えられる高まりと、一部東側まで壁溝が「L」字に設けられる。南側では焼土を伴う径約 0.68 m の土坑を検出した。また、南壁土層 15 より炭化物が出土したため、分析を行った。出土遺物は確認できなかった。

SI 3 (第 80 図、図版 15 -③~⑤)

調査区北側で検出、廃土反転作業による影響のため完掘ではない。平面形は隅丸方形と考えられる。遺構の規模は残存で長軸 6.22 m × 短軸 4.20 m、深度 0.33 m を測る。中央付近に径約 1.04 m の楕円形の土坑が設けられ、埋土より炉跡と考えられる。東側は径約 0.75 m の土坑が設けられる。北・南壁面は幅約 0.80 m、床面からの高さ約 0.13 m のベット状遺構が認められる。南壁面は一部、北側まで延び「L」字に認められる。壁溝は東壁面に認められ、長軸 1.30 m、幅 0.16 m、深度 0.03 m を測る。出土遺物は確認できなかった。

SK 2 (第 79 図、図版 14 -⑥・⑦)

調査区中央付近で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸 1.22 m × 短軸 0.62 m、下場が長軸 1.10 × 0.24 m、深度 0.55 m を測る。埋土は単層で、灰白色粘質土である。

SK 3 (第 79 図、図版 14 -⑧)

調査区東側で検出、一部木根の攪乱の影響を受けるが、平面形は隅丸長方形と考えられる。遺構の規模は残存で上場が 3.00 m × 短軸 1.10 m、下場が長軸 2.70 m × 短軸 1.10 m、深度 0.30 m を測る。埋土は 3 層に分層が可能である。出土遺物は認められなかった。

3 次出土遺物 (第 79 図、表 8、図版 15 -⑥)

埴輪 1 は円筒埴輪片である。2 は形象埴輪片で、顔の右目と眉、左目と眉の一部、鼻部分である。目尻は鋭い。残存長は長軸 5.7cm × 短軸 4.1cm、厚さ 1.8cm を測る。

第 3 節 大黒町遺跡の調査

(1) 発掘調査に至る経緯と概要 (第 81 図)

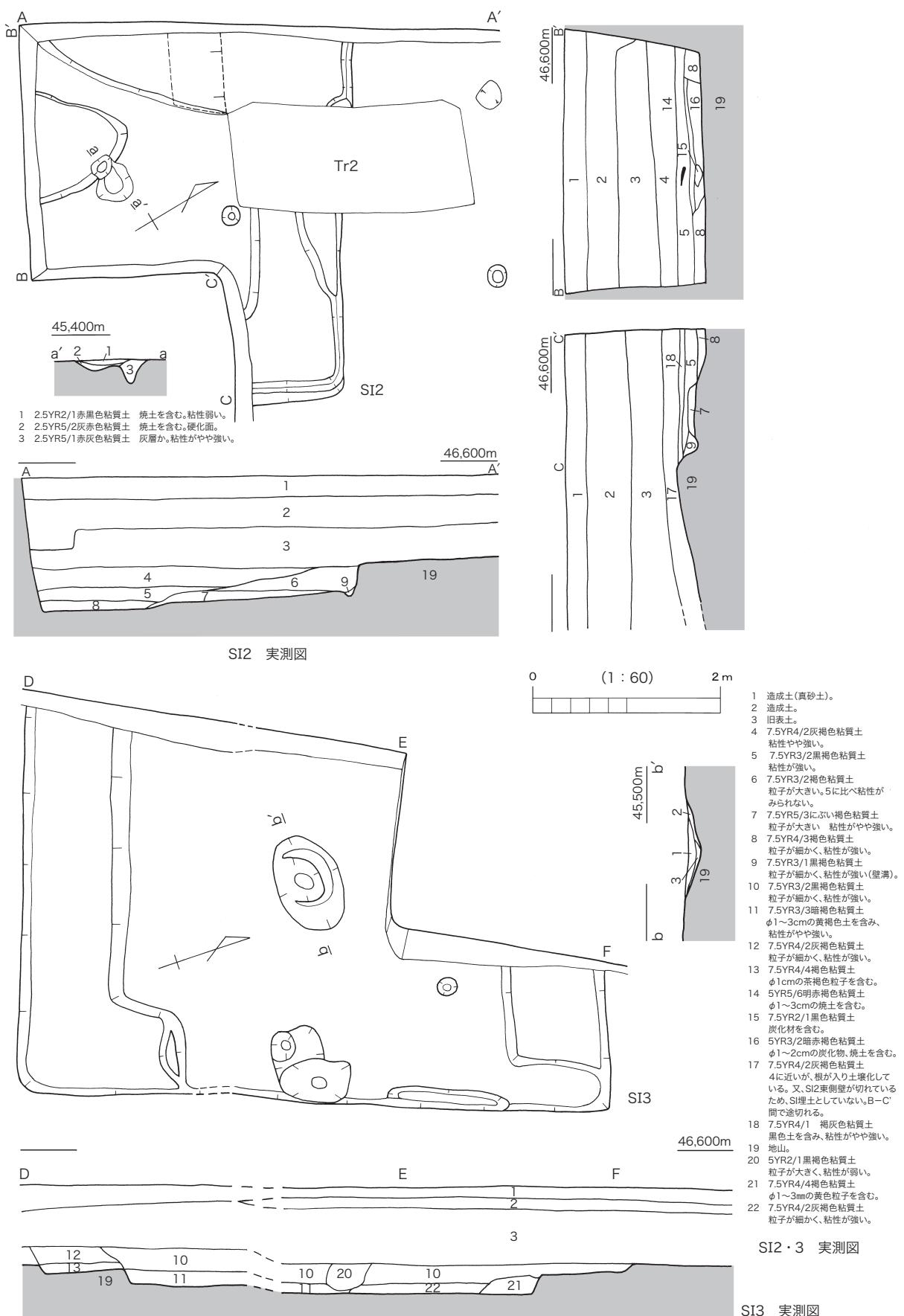
令和 2 年 8 月 14 日に照会地の試掘調査を実施した結果、遺構及び遺物の出土を確認した。この調査結果を受けて同年 8 月 18 日付け田教文第 139 号の 9 で、新規の埋蔵文化財包蔵地カードを県文化財保護課へ報告した。本市教育委員会新中学校再編推進室より、同年 11 月 9 日付け田教推第 133 号にて文化財保護法第 94 条第 1 項通知を受理し、県教育庁文化財保護課より同年 11 月 16 日付け 2 教文第 1 号の 1077 にて発掘調査の指示を通知した。これを受け通知者と協議の結果、遺構を確認した個所周辺を同市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を実施した。調査対象面積は 400 m²、発掘調査は同年 3 月 1 日から 3 月 31 日の期間に実施した。

調査地は市西部、中元寺川右岸の河岸段丘上に立地し、標高約 34.5 m に位置する。地質は後期更新世前期の堆積岩に含まれる。調査地は旧校舎等による攪乱等の影響を受けていたため、可能な限り重機による掘削を進めたのち、人力掘削を実施した。

(2) 遺構・遺物

SB 1 (第 82・83 図、図版 16 -①)

調査区北側で検出、4 基確認した。柱は南側でボタと石灰礫、北側で拳大礫と白色粘土で固めた整地層に、一辺約 0.80 m の隅丸方形の掘方を掘削、柱構築部分にセメントを敷いた上にレンガ 18 個を 2 段に積み、掘方をボタで充填、1 段 8 個のレンガをセメントで固め、積み上げ柱とする。柱間は南北 2.5m、東西 1.95m を測る。整地層及び SB 掘方から、出土遺物は確認できなかった。



第 80 図 4 次遺構実測図

SD 5 (第 82・83 図、図版 15-⑦・⑧)

S 1 南側下層に位置し、直線状に検出した。検出した長さは 1.00 m、幅 0.40 m、深度 0.20 m である。直線状に延び、一部流れの影響を受けてか、膨らみが認められる。出土遺物は確認できなかった。

SD 8 (第 82・83 図、表 8、図版 16-④)

調査区中央、南側で検出した。上層に昭和 58 (1983) 年建築の校舎建設時の造成土が認められ、攪乱として重機で掘削を行った。北側は昭和 26 (1951) 年建築の校舎建設時と想定される整地層が認められる。また、近代の溝跡によって削平の影響を受ける。確認できた遺構の規模は長さ約 6.0 m、幅 2.0 m、深度 0.35 m を測る。北側の土層観察では東側は緩やかな立ち上がりであるが、南側の土層観察では急な立ち上がりである。また、北側へ延びると想定し Tr 1・2 を設定し掘削した結果、Tr 1 には現れず、Tr 2 で確認でき、西側へ曲がることが想定される。埋土は鉄分が沈着する。

出土遺物

瓦 器 3 は塊口縁部で、外面は指オサエが認められる。

磁 器 4 は龍泉窯系青磁碗 II a 類、5 は龍泉窯系青磁碗の底部である。6 は白磁碗 IV 類である。

陶 器 7 は擂鉢の体部である。

須恵器 8 は甕の胴部である。外面は灰釉が認められる。

SN 3・4・6 (第 82・83 図、図版 15-⑧・16-②・④)

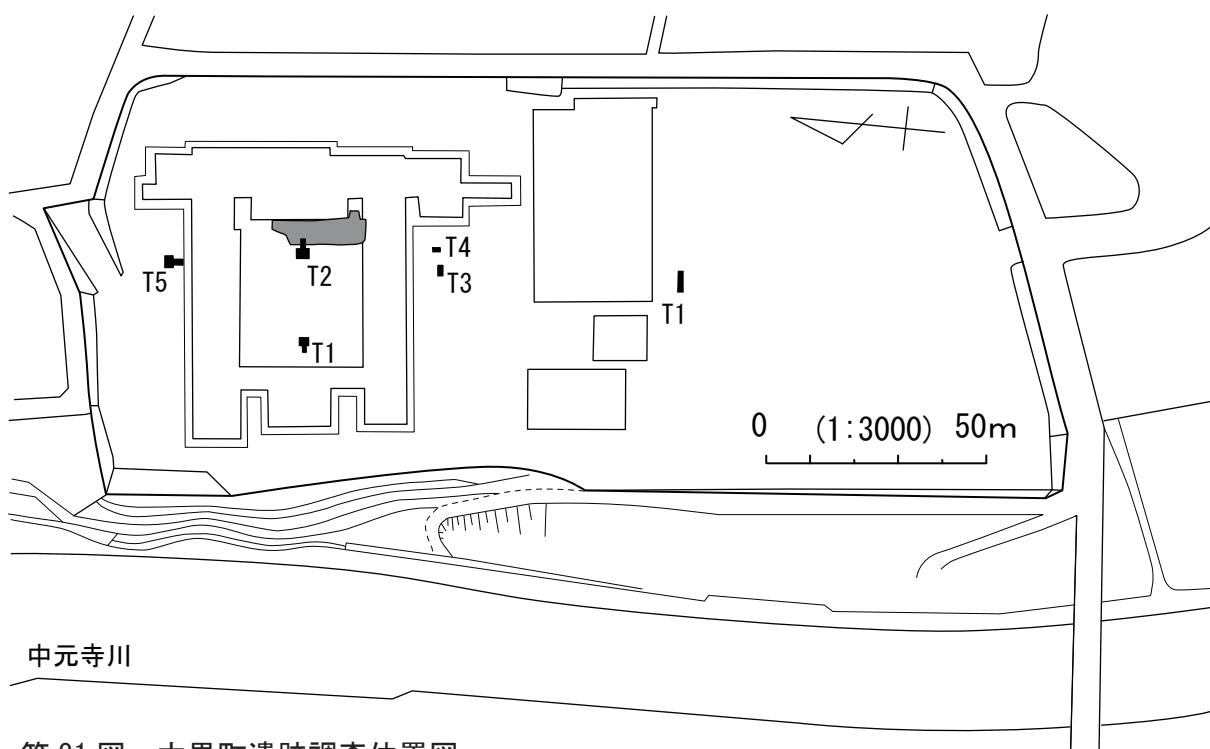
SD 8 の両側で確認、堆積状況から旧水田と考えられる。SN 3 は調査区西側と南側の一部、SN 4・6 は調査区東側に位置する。埋土は褐色・灰褐色粘質土で、粒子状のマンガンに鉄分の沈着が認められる。

出土遺物

磁 器 1 は SN 6 から出土した白磁碗 VIII-2 類と考えられる。

その他 (第 82・83 図、表 8、図版 16-④)

土師器 2 は S7 から出土した底部から体部まで残存する皿である。



第 81 図 大黒町遺跡調査位置図

第4節 弓削田条里跡1～4次の調査（第84図）

本調査は同番地を宅地造成後、分筆した調査区になる。調査地は市西部、中元寺川左岸の谷底平野に立地し、標高約28.6mに位置する。条里跡はN-4°-Eと推定されている。地質は、完新世の堆積岩に含まれる。確認できた遺構は、近世期もしくはそれ以前の水田跡と畦畔と考えられる白色砂礫層の隆起や堆積、有機物堆積層を確認した。

（1）1・2次の発掘調査に至る経緯と概要（第84図）

対象地は令和3年6月16日に確認調査を実施、遺構を確認したが施工計画では遺構に影響が無い宅地造成のみであった。その後、土地所有者より令和3年9月27日付け田教文第118号の18・19にて住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項届出が提出された。施工計画が遺構に影響が及ぶため、県教育庁文化財保護課より同年10月4日付け3教文第1号の1052・1053にて発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲を原因者負担のもと、同年10月28日付けで発掘調査依頼書等を提出、田川市教育委員会が記録保存を目的とする発掘調査を実施することを土地所有者へ回答し、同年10月29日付け田教文第553号・553号の2で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結した。調査対象面積は約90m²、発掘調査は同年11月29日から12月27日の期間に実施した。

遺構・遺物（第85図、図版17-①～④）

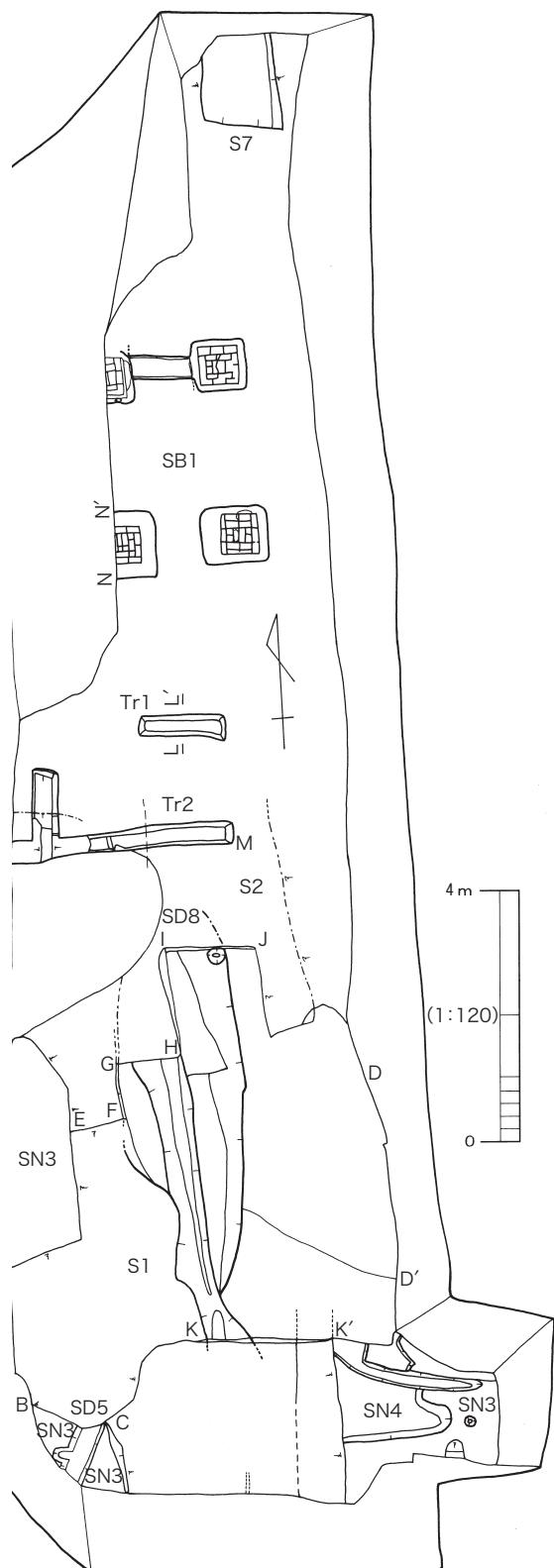
調査区は廃土処理の関係上、凹字状に重機による掘削後、人力掘削による調査に入った。また、一部人力掘削によるトレンチを設けて堆積状況を記録した。造成前の水田の下層の土質は、水分を含む層である。堆積状況は褐色粘質土の隆起する部分と、トレンチ部分にぶい黄橙色粘質土の堆積が認められた。その下層では有機物や砂質土の堆積が認められた。また、2次調査区の東側は拳大～人頭大の自然礫の堆積を確認した。

出土遺物

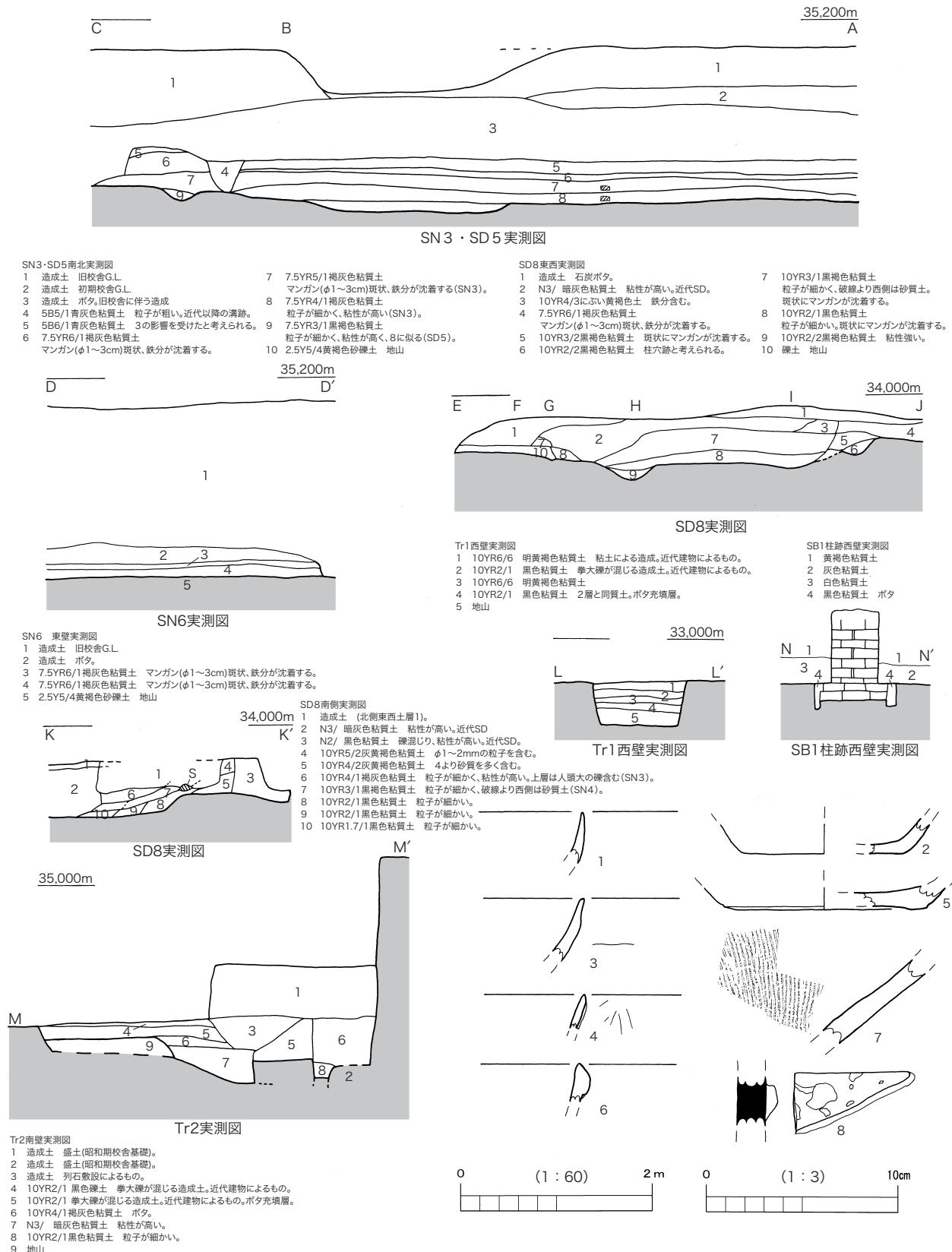
隆起する部分から、印判磁器片が出土したが、図示可能ではなかった。

（2）3次発掘調査に至る経緯と概要（第84図）

1・2次発掘調査終了後、令和4年3月2日付け田教文第118号の46にて住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項届出が土地所有者より提出された。施工計画が遺構に影響が及ぶた



第82図 遺構配置図



第 83 図 遺構・出土遺物実測図

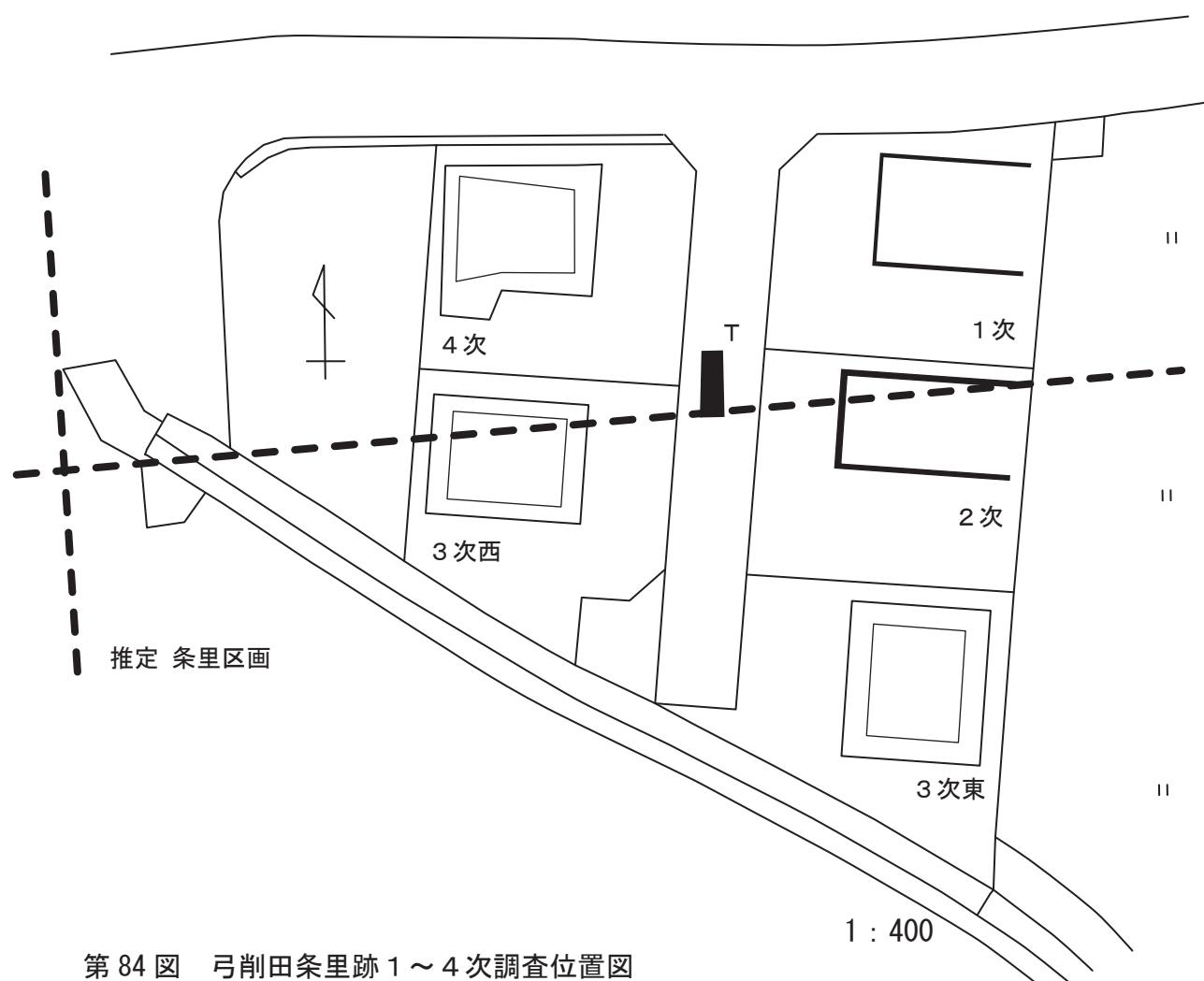
め、県教育庁文化財保護課より同年3月4日付け3教文第1号の1952にて発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲を原因者負担のもと、同年3月14日付で発掘調査依頼書等を提出、田川市教育委員会が記録保存を目的とする発掘調査を実施することを土地所有者へ回答し、同年3月14日付け田教文第553号の3で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結した。調査対象面積は約80m²、発掘調査は同年3月16日から3月29日の期間に実施した。

遺構・遺物（第86図、表8、図版17-⑤～⑧・18-①・②）

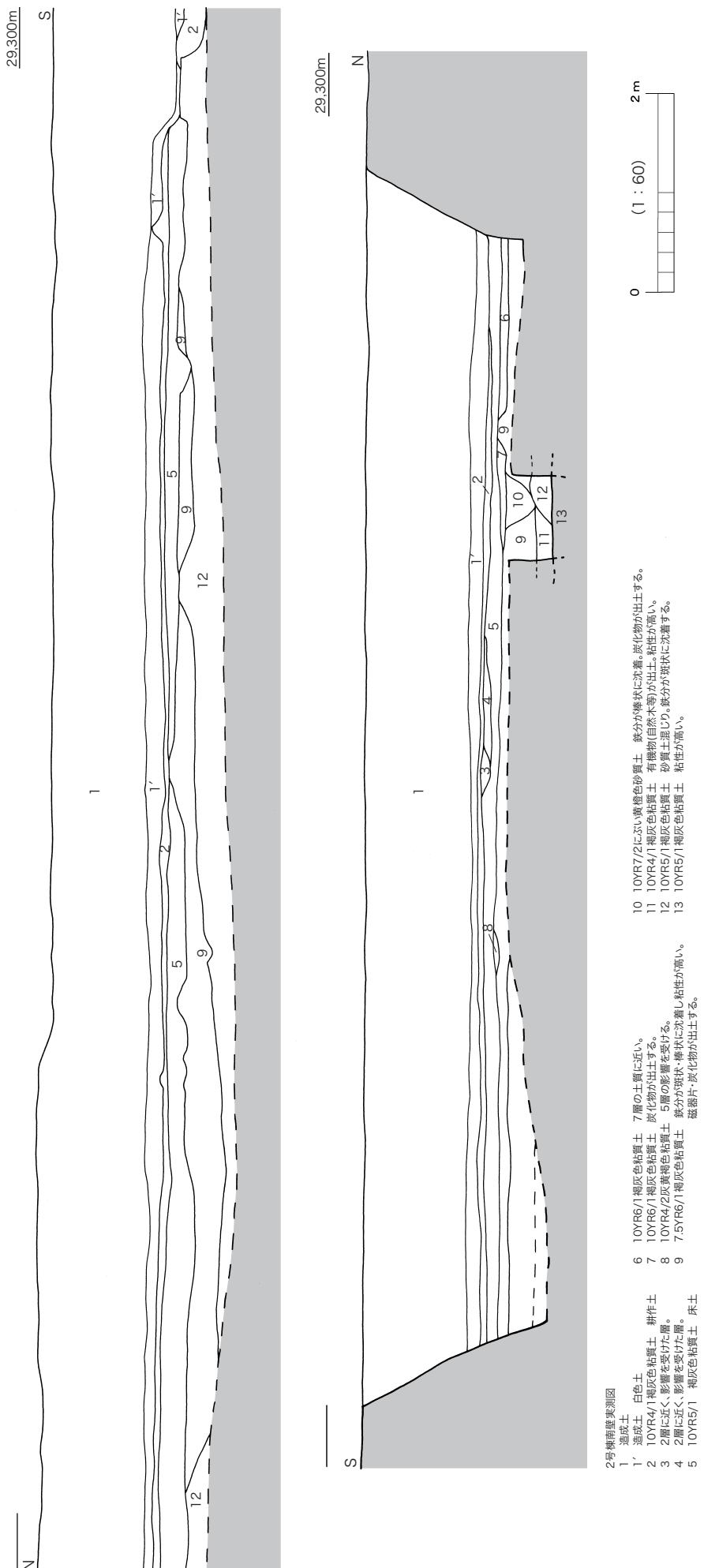
2次の南側（3次東）と、私道挟んだ西側（3次西）の2個所に位置する。3次東は、1・2次の続きと想定される有機物層の一部を検出した。3次東は、造成土・造成前の水田下層で、水分を含む褐色粘質土の有機物層・黒色粘質土の堆積が認められた。この層の東側で、木製の構造物を確認した。構造物は、厚みがある板材を底の部分とし、斜めに設置した板材とそれを咬ませるように支えた棒材から成る。底の板材は、加工と思われる逆「L」字状の部分が認められる。斜めの板材は重機掘削時に一部、欠損する。斜めに設置した板材は針葉樹製で、長軸約85.0×短軸約30.0cmを測る。周縁の縁取りが認められる。棒状の木製品は針葉樹製で、長軸約29.0×短軸約10.0cm、厚さ5.7cmを測り、縁取りが施される。また、調査区北側の褐色～黒色粘質土から弥生土器が出土した。なお、調査区西側の一部で地山である明褐色砂礫土を確認でき、南から北へ傾斜する。この有機物層の堆積は地形の影響によるものであるが、水の流れは不明である。

出土遺物

弥生土器 1は約半分ほど残存する壺底部である。外面の調整の残りが良く、内面はススの付着が認められる。



第84図 弓削田条里跡1～4次調査位置図



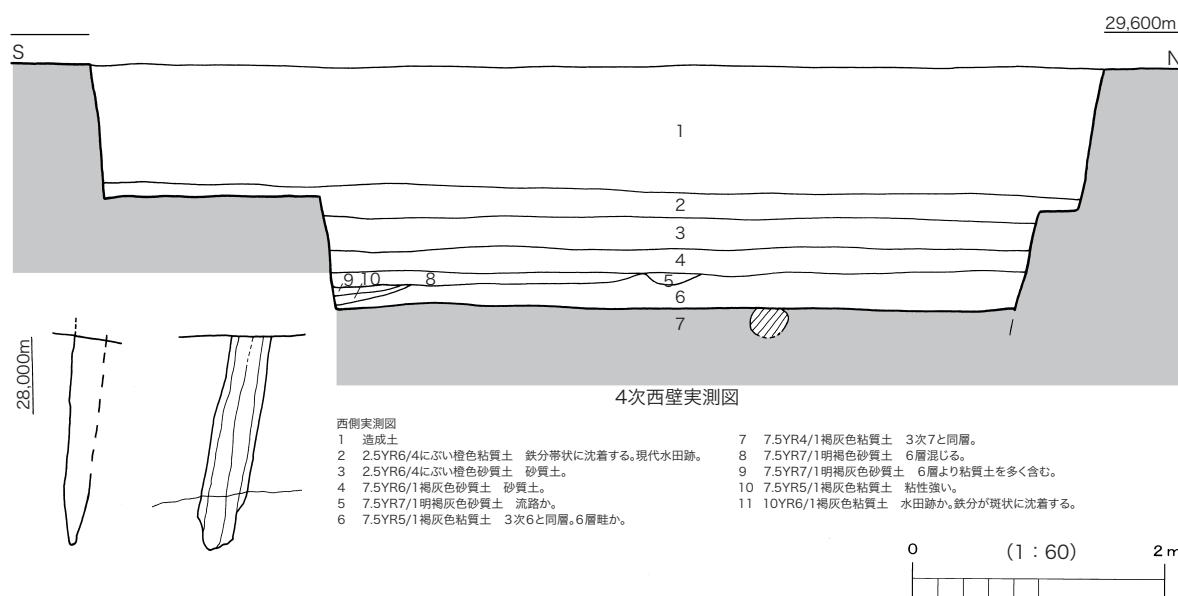
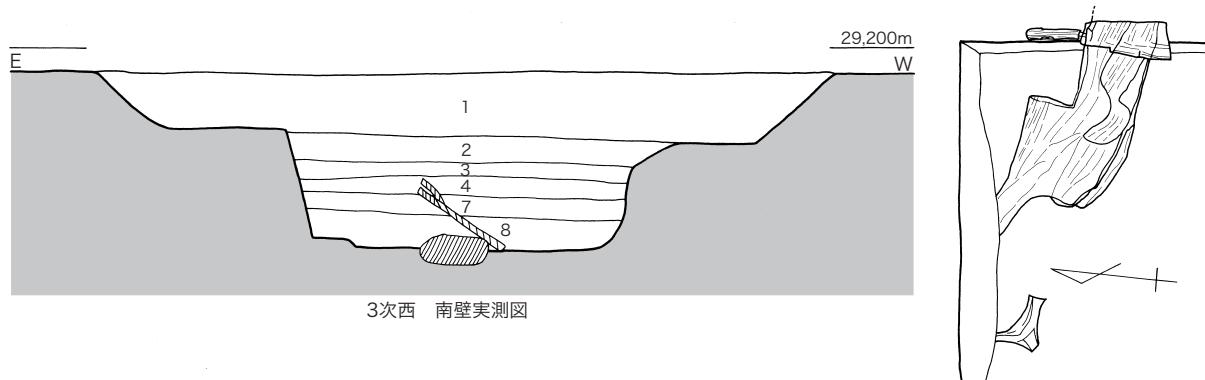
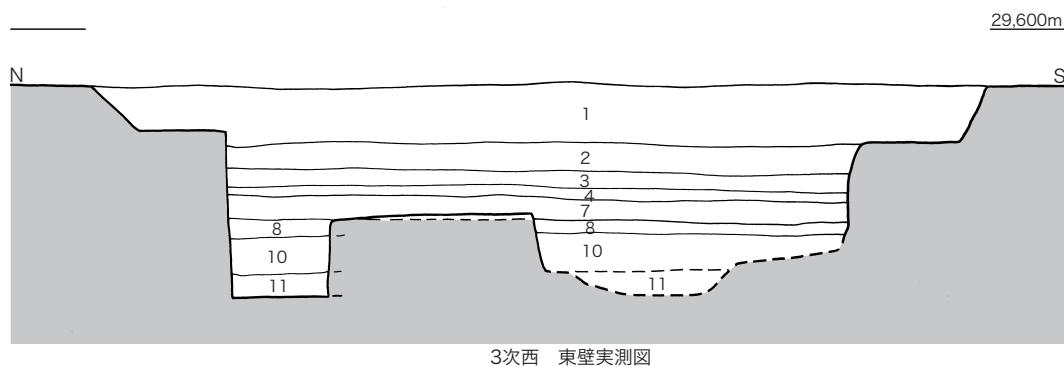
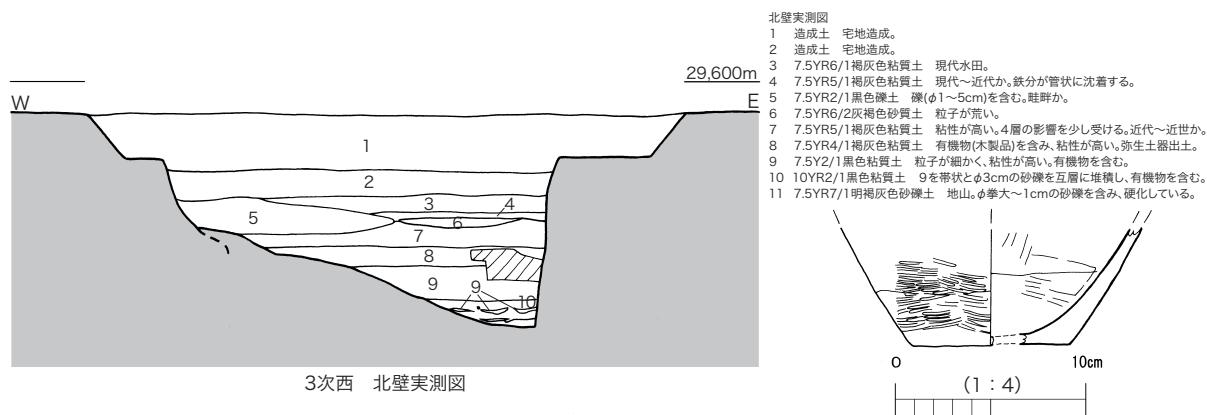
第 85 図 1・2 次遺構実測図

(3) 4次発掘調査に至る経緯と概要(第84図)

3次発掘調査終了後、令和4年4月27日付け田教文第6号の5にて文化財保護法第93条第1項届出と同日付けで確認調査依頼書等が土地所有者より提出された。同年5月11日付け4教文第1号の189にて県文化財保護課より発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲を田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を実施した。対象面積は約50m²、発掘調査は令和4年5月16日から同年5月25日の期間に実施した。

遺構・遺物(第86図、図版18-③~⑥)

調査区は、3次の北側に位置する。重機による造成土等を掘削後、人力掘削を行った。砂質土下層で1~3次で検出した褐色粘質土の有機物層を確認した。有機物層は砂質土(湧水層)に小枝や葉を多く含む。また、調査区西側から東側へのびる木製品を検出した。木製品の規模は長さ1.68m、径0.25mを測る。木の南北で堆積の違いが認められ、水田と畦畔の関係が想定される。



第86図 3・4次遺構・出土遺物実測図

第5節 上の原遺跡群6次の調査

(1) 発掘調査に至る経緯と概要(第87図)

対象地の土地所有者より令和4年1月6日付け田教文第118号の27・28にて、文化財保護法第93条第1項届出と同日付で確認調査依頼等が提出された。工事の目的は、宅地造成と私道路建設であった。対象地の西側隣接地は本遺跡群5次に該当し、遺構等の展開が想定された。県教育庁文化財保護課より同年1月6日付け3教文第1号の1712・1713にて、私道路建設について発掘調査の指示を通知した。これを受け協議の結果、遺構の保存に支障が生じる範囲を田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を田川市教育委員会が実施する事となり、発掘調査を実施した。対象面積は約60m²、発掘調査は同年1月17日から2月17日の期間に実施した。

本調査地は彦山川右岸と金辺川左岸に挟まれた標高約39.0mの低丘陵に立地、地質は後期完新世前期の火成岩である。確認できた遺構は、弥生時代の竪穴建物跡2基、土坑跡1基、柱穴跡を確認した。

(2) 遺構・遺物

SI150(第88・89図、表8、図版18-⑦・⑧・20-②)

5次調査SI150の東側に隣接する。南東角部分まで検出できた。遺構の規模は長軸3.70m×短軸2.05m、深度0.20mを測る。南壁面で長軸1.00m×短軸0.44m、深度0.30mの土坑を設ける。また、幅0.16m、深度0.03mの壁溝を確認した。床面は浅い凹凸が認められる。出土遺物は土師器片である。

出土遺物

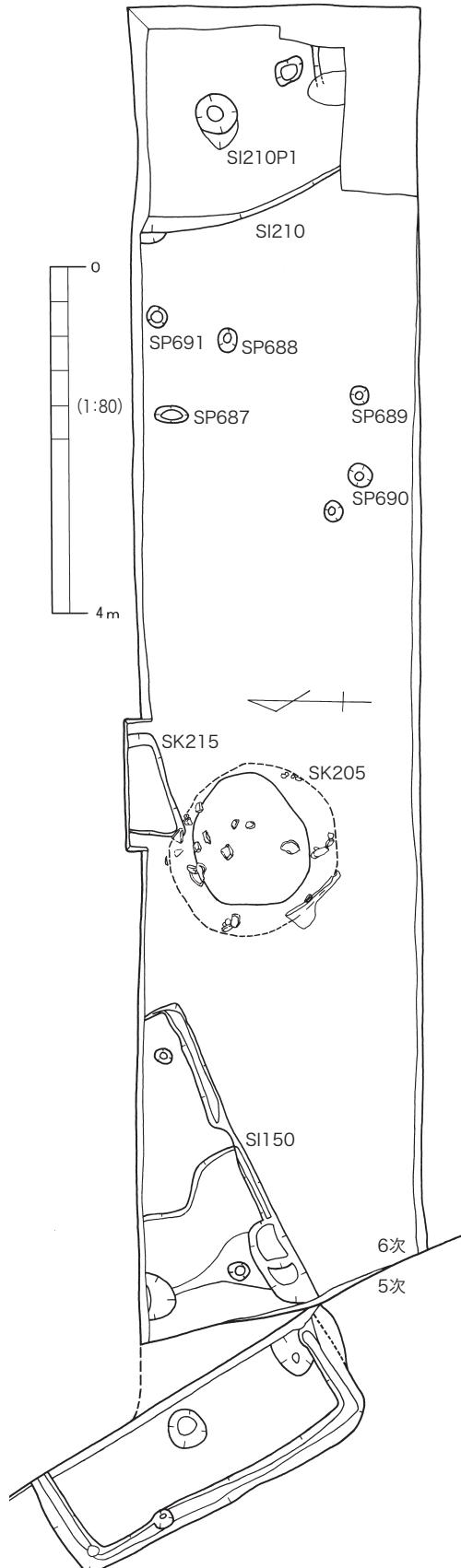
土師器 1は口縁部が残存する甕である。内面は横位のハケが施される。

SI210(第88・89図、表8、図版19-①・②・20-②)

調査区東側で検出、南側は木根の影響を受ける。平面形は円形と考えられる。遺構の規模は残存で長軸2.40m、深度0.35mを測る。床面は径約0.6m、深度0.70mの柱穴を検出、支柱と考えられる。出土遺物は弥生土器片、石製品である。

出土遺物

石製品 2・3は石包丁である。2は縄掛けの痕跡が認められる。



第87図 上の原遺跡群6次
遺構配置図

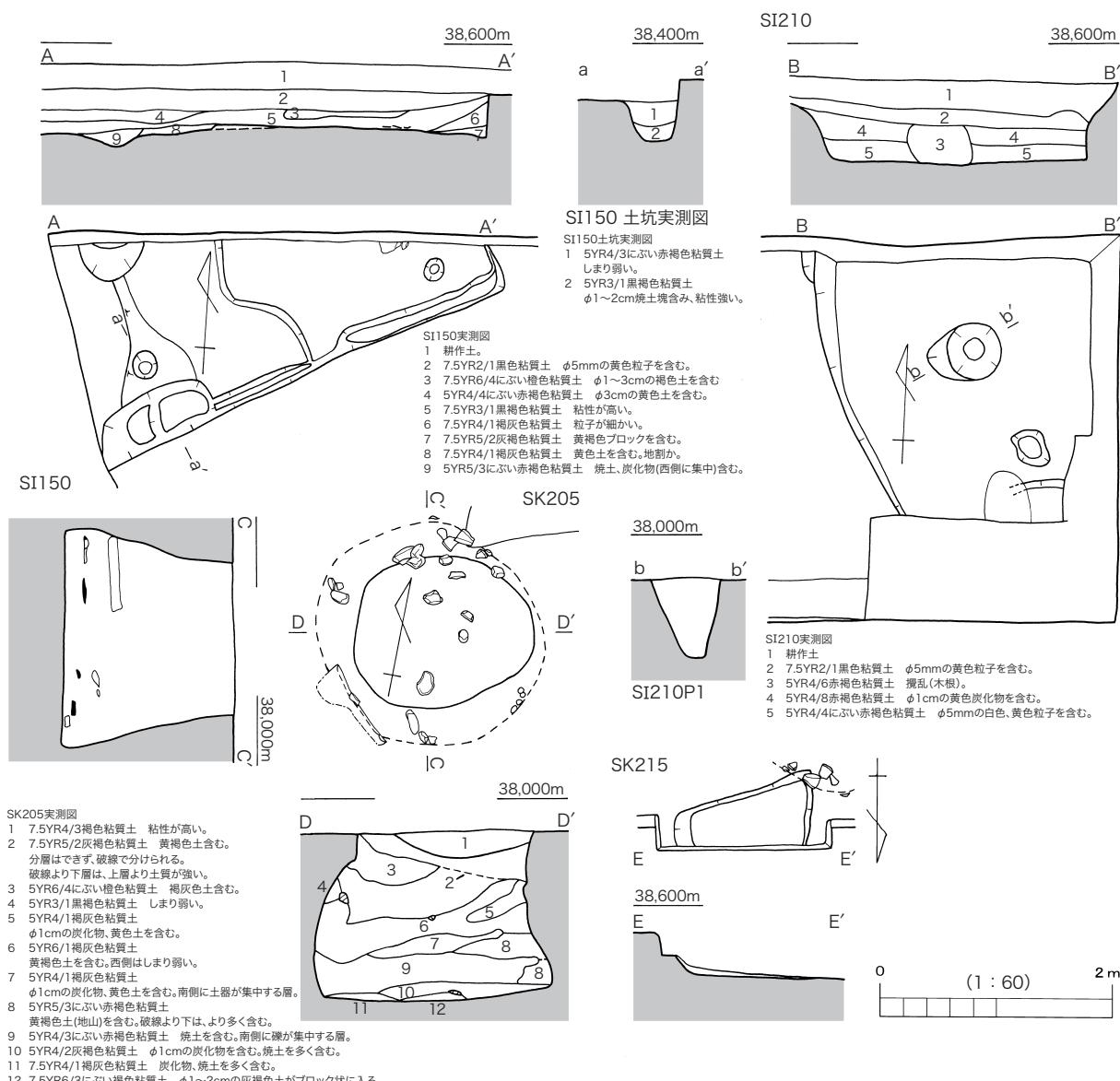
SK205(第88・89図、表8、図版19-③～⑤・⑦・

⑧・20 - ①)

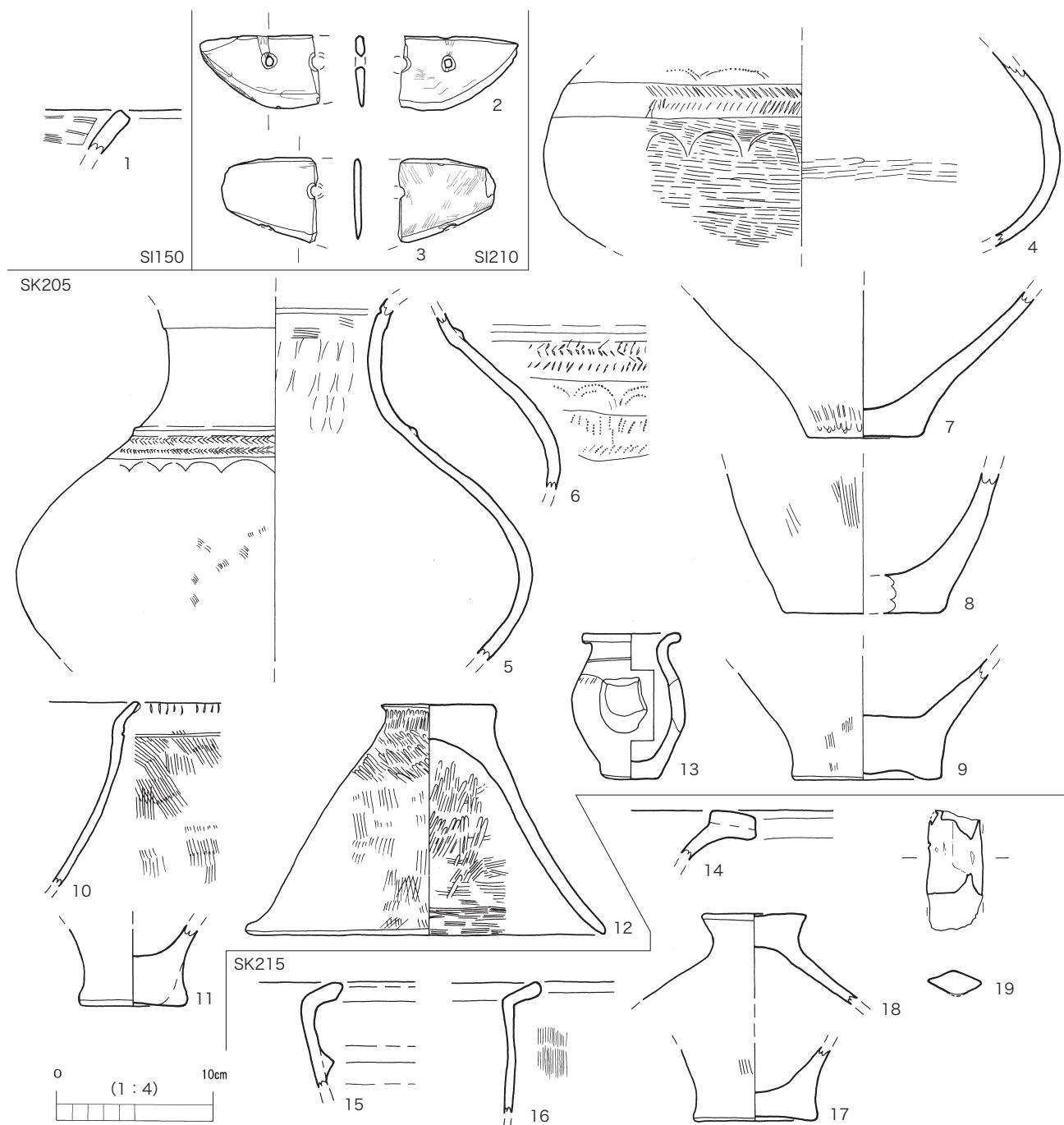
調査区中央で検出、平面形は円形、断面はフラスコ状となる。遺構の規模は上場が1.30～1.50m、下場が1.90～2.00m、深度1.44mを測る。埋土は大きく4層に分層できる。中層の南西側壁は、炭下物が帶状に堆積する。壁面は北側壁で高さ0.28m、幅0.14mの凹みが認められる。また、南側壁では長さ0.8m、幅0.25mの炭化物が認められた。下層上面では自然礫を検出、下層の土質は固く、炭化物や焼土を含み、灰褐色土がブロック状に入る。

出土遺物

弥生土器 4～9は壺である。4は胴部片で、中央より上位に列点文による上弧、沈線の区画内に「/」、区画下に線状の上弧が施される。5は口縁部下が厚く、頸部に断面が三角形の突帯を一条と沈線の区画内に「/」、区画下に線状の上弧が施される。6は頸部下から胴部中央まで残存し、断面が三角形の突帯を一条、三条の沈線の区画内に「/」と列点文の上弧、列点文の「/」が施される。7～9は底部である。10・11は甕である。10は口縁部から体部下半まで残存する。口縁部は外反し口唇部にキザミ、頸部下に一条の沈線が施される。11は底部である。12は天井部から口縁まで残存する蓋と考えられる。外・内面ミガキが施される。13は小形の壺である。口縁部は外方へ開き、頸部下に一条の沈線と体部に「/」を施す。また、体部は外面から穿孔が施される。



第88図 遺構実測図



第89図 出土遺物実測図

SK215 (第88・89図、表8、図版19-⑥・20-②)

調査区北側で検出、重機による表土剥ぎの際、南東隅を引掻けたため、平面形は台形である。遺構の規模は残存で長軸1.20m×短軸0.42m、深度は0.16mを測る。埋土は単層で、黒褐色粘質土である。出土遺物は弥生土器片・石製品である。

出土遺物

弥生土器 14は口縁部に粘土を重ね厚く、口唇部は垂下する壺である。15～17は甕である。15は口縁部が外方へ開き、頸部下に断面が三角形の突帯を一条巡らす。16は口縁部が外方へ開く。17は底部である。18は蓋である。

石製品 19は断面が菱形の石劍と考えられる。

SP (第 87 図)

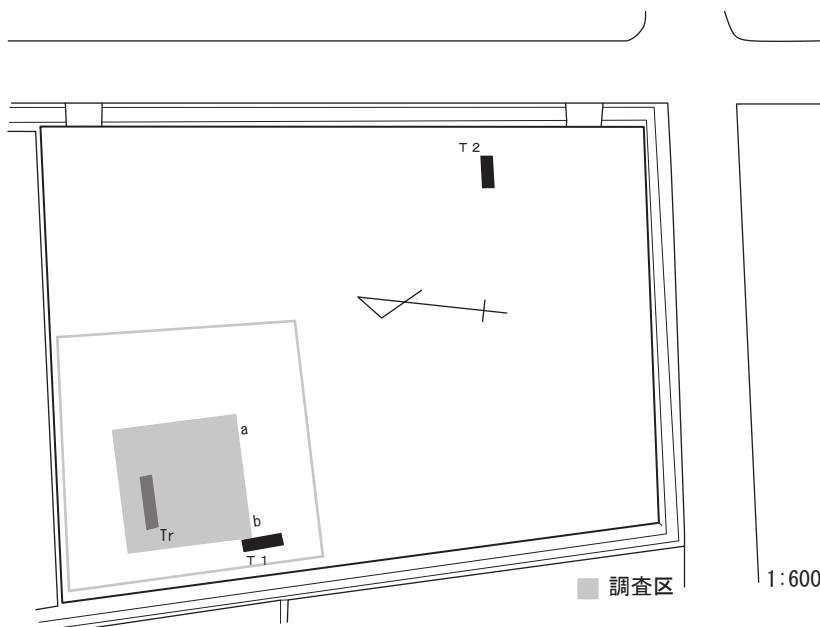
直径約 0.2 m の柱穴跡 5 基を確認した。出土遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

第 6 節 弓削田条里跡 5 次の調査

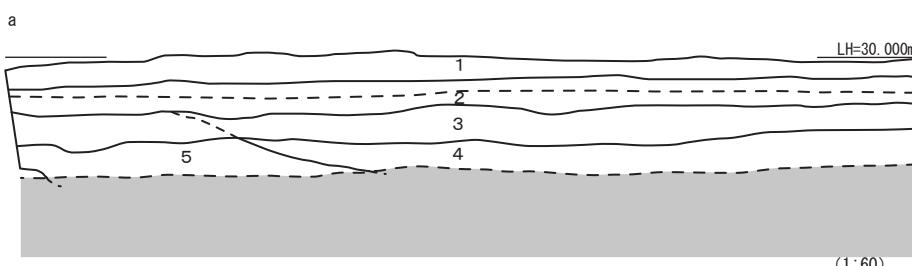
(1) 発掘調査に至る経緯と概要 (第 90 図)

対象地は令和 4 年 5 月 9 日に確認調査を実施、同年 4 月 28 日付け田教文第 6 号の 6 にて文化財保護法第 93 条第 1 項を受理、工事の目的が造成工事等であったため、同年 5 月 11 日付け 4 教文第 1 号の 245 にて県文化財保護課より慎重工事の指示を届出者へ通知した。その後、個人住宅の計画が挙がったため、同年 6 月 6 日付け田教文第 6 号の 13 にて文化財保護法第 93 条第 1 項届出と同日付で埋蔵文化財等調査依頼届を受理し、同年 6 月 15 日付け 4 教文第 1 号の 418 にて県文化財保護課より発掘調査の指示を届出者へ通知した。これを受けた土地所有者と協議の結果、同年 6 月 6 日付けで提出された埋蔵文化財等調査依頼届出等に基づいて、遺構の保存に支障が生じる範囲を田川市教育委員会埋蔵文化財取扱要綱に則った記録保存を目的とする発掘調査を実施した。対象面積は約 57 m²、発掘調査は令和 4 年 6 月 29 日から同年 7 月 16 日の期間に実施した。

本条里跡は本市西部、中元寺川左岸の谷底平野に立地し、標高約 31.5 m に位置する。条里跡は N - 4° - E と推定されている。対象地の周囲は水田であり、梅雨期間と調査開始時期が重なったため、湧水が激しい中での発掘調査となり、ポンプによる排水を継続したが、発掘調査は困難を極めた。



第 90 図 弓削田条里跡 5 次調査位置図



1 真砂土 2 青灰色粘質土 鉄分沈着がみられない 3 茶褐色粘質土 鉄分沈着、粘性が高い、一部砂質土
4 茶褐色粘質土 鉄分沈着、3より粘性が弱い 5 灰色粘質土 φ1.0cm位の砂質土

第 91 図 遺構実測図

(2) 遺構

SN 1 (第 91 図、図版 20-④・⑤)

湧水の状況から、土層観察による遺構確認を実施した。重機による造成土や現代水田を掘削後、調査区西側で白色砂礫層の隆起と、マンガン沈着層の展開が認められた。マンガン沈着層は、掘削深度まで認められる。また、北側に東西方向にトレーナーを入れ、南北に延びる堆積状況を確認した。その結果、南側より北側のマンガン沈着が薄くなり、砂質が強くなる堆積であった。この隆起部分は、畦畔と推測され、近世期もしくはそれ以前と考えられる。

出土遺物は、確認できなかつた。

第IV章 自然科学分析

第1節 猫迫1号墳4次自然科学分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

今回の分析調査では、田川市伊田に所在する猫迫1号墳の堅穴建物跡から出土した炭化材について、樹種同定を実施し、当時の木材利用について検討する。

2. 試料

試料は、古墳時代前期頃とされる堅穴建物跡SI 2南壁土層15より出土した炭化材1点である。

3. 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、横断面（木口）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の3断面について割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡（低真空）で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考にする。

4. 結果（自然科学分析図版1）

炭化材は、広葉樹のカキノキ属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

- カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科

散孔材。道管壁は厚壁、単独または2～4個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は対列状となる。放射組織は異性、1～3細胞幅、10～20細胞高。

5. 考察

炭化材が出土したSI 2は、弥生時代後期頃の堅穴建物跡と考えられる。炭化材は破片であり、利用時の形状等は不明である。この炭化材は、広葉樹のカキノキ属に同定された。カキノキ属は、九州にトキワガキとリュウキュウマメガキの2種が分布するほか、栽培種のカキノキとマメガキが広く栽培されるが、木材組織の特徴からは種の分類は困難である。カキノキ属は常緑または落葉の小高木であり、木材は重硬で強度が高い。樹種同定結果から、遺跡周辺にカキノキ属が生育していたこと、その木材を利用したことが推定される。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I . 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II . 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III . 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV . 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V . 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 444p.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト

ト・伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修），海青社，122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第V章 まとめ

鎮西遺跡の調査

個人住宅建設に伴う調査で、開発計画に基づいて試掘調査を実施し、新に遺跡地図に登載した遺跡である。立地は、市町境の馬の背のように延びる低丘陵上である。今回の発掘調査を契機に、周辺の確認調査を重ねて、遺跡の範囲を掴む必要がある。調査区の一部は攪乱の影響を受けていたが遺構の残存状況はよく、確認できた遺構は溝跡1条、土坑跡6基である。

溝跡SD3は調査区を弧状に横切り、弥生期の遺構を削平し、深度は浅い。この遺構から熨斗瓦と考えられる瓦が出土する。本遺跡から西に天台寺跡（上伊田廃寺）や南に天台寺瓦跡が立地しており、両遺跡との関係が想定される。また、SD3より西側、弧状の内側は遺構の展開が確認できず、空白の区域が展開している。今後の調査にも拠るが、この区域も溝跡と同時期の遺構と捉えられる。

土坑跡は6基のうち、SK6～8・10の4基は平面形が隅丸方形の形状で、深度は比較的浅い。何れも堆積状況から廃棄土坑と考えられ、出土遺物から弥生時代中期前半頃に位置付けられる。このうち、SK10より出土した土製品は、頭部と片腕部分を欠けるが、形状より人形土製品として報告を行った。弥生時代の人形土製品は類例が限られるため、今後の事例の増加に期待したい。

猫迫1号墳3・4次の調査

3次は私道建設、4次は個人住宅建設に伴う調査である。確認した遺構は竪穴建物跡3基、土坑跡2基である。

竪穴建物跡SI1の平面形は隅丸方形で、SI2・3も検出部分よりSI1と同形状と考えられる。SI1は本古墳西側に位置し、削平と攪乱の影響を受けて、残存は良好ではない。建物内の施設は土坑跡を確認したもの、柱穴跡は見当たらなかった。出土遺物が限られるが、古墳時代中期初頭頃に位置付けられよう。SI2・3は本古墳東側に位置し、遺構の残存状況は良い。建物内の施設は、平面形が「四」に巡るものと考えられるベット状遺構を確認した。SI2・3から遺物の出土は確認できなかつたが、田川地域でベット状遺構を備える竪穴建物跡は、本遺跡より南に位置する倉ヶ原遺跡でも確認でき、同時期もしくはそれ以前と考えられる。

土坑跡SK3は検出部分より遺構角部と考えられ、遺構の形状などから竪穴建物跡の可能性が高い。

以上から、本古墳周囲に集落跡の展開が確認することできた。本古墳は5世紀初め頃に位置付けられ、SI1が同時期頃にあたるが詳細は不明である。一方、SI2・3は本古墳と同時期もしくは時期が上がり、北側に位置する桐ヶ丘遺跡の一部と捉えることができよう。

大黒町遺跡の調査

新中学校建設に伴う調査で、開発計画に基づいて試掘調査を実施し、新に遺跡地図に登載した遺跡である。立地は、中元寺川右岸の低丘陵上である。対象地は明治期に形成された後藤寺町の西部周縁にあたる。これまで当該地の土地利用の変遷は、1902（明治35）年に避病院の建設、その後、後藤寺中学校として利用されていた。今回の調査で確認した遺構は柱跡4基、溝跡2基、水田跡と考えられる堆積層4個所である。

柱跡SB1は整地層に、隅丸方形の掘方にレンガで構築される。構築技法より創設時の後藤寺中学校校舎基礎と捉えられ、1963（昭和38）年撮影の米軍空中写真より、3棟ある校舎の真ん中東側の柱跡と考えられる。

溝跡SDは2条確認できた。SD8は逆「L」字状と、SD8の両側にSNを検出した。SD8はSN3・4・6より新しい。SD8の出土遺物は小片であるが、著しい摩滅の状況は認められない。輸入磁器より

13世紀前半頃まで遡れる資料が主体であるが、擂鉢が主体となる時期より新しい時期と捉えられる。

水田跡 SN 3・4・6 は SD 8 によって削平の影響を受けており、その両側に検出された。堆積状況より水田跡として調査を進めた。堆積は粒子状のマンガンに鉄分が沈着し、水平に堆積する状況より、乾田型の水田跡と考えられる。このうち、検出状況と出土遺物より、SD 8 より時期が上がるものと考えられる。

弓削田条里跡 1～4 次の調査

住宅建設に伴う調査である。調査個所は、中元寺川と猪位金川合流個所から北方向へ引き込む水路の北側に位置する。調査は建設部分のみの面積であったため、条里を面で捉えられなかつたが、有機物層を検出、木製品を確認したことは、大きな調査成果であろう。

調査区の埋土は粘質土で、粘質土より下層は礫層を確認した。堆積は水平に近く、土質よりグライ低地土と捉えられる。のことより、周年還元的な環境にあり、湿田型の土壤と考えられる。

1・2次は、調査区を「凹」字状に設定し調査を実施した。土層観察により粘質土の堆積を確認したが厚さがなく、下層は砂質土や拳大～人頭大の礫の堆積が認められた。このうち、トレーナーを掘削した個所で、「U」字状の砂質土を確認、畦と捉えられる。3次東は、造成土や現水田下層は青灰色砂質土である。2次調査9層と同層と捉えられる。3次西は、南から北へ落ち込む白色砂礫土の地山より、調査区は窪地の形状が想定される。窪地に堆積した土砂は、水路によって運ばれたと考えられ、水分を多く含み、土壤化が進み、有機物の堆積が残存できた環境が整ったと考えられる。埋土は灰色粘質土であるが、有機物層を確認した。この層より板材の構築物が認められた。板材は底板と側板、側板を支える角材が認められた。構築物は東西方向を向き、断面の形状は開き気味の「L」字形となる。底板の下層に整地等は認められない。4次の埋土は3次西と同質で、水分を多く含む軟質であつたため詳細な調査は困難であった。そのなかで、東西方向に延びる木製品を確認した。確認した木材の半分程で土色の違いが認められた。

上の原遺跡群 6 次の調査

私道建設に伴う調査で、確認した遺構は竪穴建物跡2基、柱穴跡5基である。竪穴建物跡2基のうち、SI150 は5次調査の東側に位置する。建物内の施設は、南側に屋内土坑跡1基と壁溝が巡ることを確認した。なお、SI150 は5次 SD90 方形区画溝内の施設と捉えているが、今後の調査を重ねて明らかにしたい。SI210 は調査区東側に位置し、検出部分の平面形より円形と考えられる。建物内の施設は、柱穴跡1基を確認した。5次調査で確認した円形の竪穴建物跡の時期は、弥生時代中期初頭頃に位置付けられており、SI210 も同時期頃と考えられる。

土坑跡 SK205 は平面形が円形で、断面の形状が袋状となる貯蔵穴跡である。内面は北側の壁面に凹み、南側は帯状に炭化した個所が認められる。堆積状況から廃棄土坑と捉えられ、中～下層を中心に遺物が出土し、弥生時代中期初頭頃に位置付けられる。

弓削田条里跡 5 次の調査

個人住宅建設に伴う調査で湧水等の影響を受けて、土層観察に重きをおいた調査を進めた。その結果、隆起する個所等を確認でき、水田跡と畦が想定された。

本条里跡は、中元寺川左岸の面積約 1.2 km²が周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡地図に搭載されている。平成 25(2013)年度より 26 個所の確認調査や十数回にわたる工事立会を重ねてきた。その結果、条里跡の一部分は、石炭産業による開発や鉱害復旧等の影響を受けていることが分かりつつある。今回の 1～5 次の発掘調査を含めて、本条里跡の西側で石炭産業による影響を受けていない区域が絞られつつある。今後も確認調査・発掘調査を重ねて、本条里跡の解明に努めたい。

第VI章 附 編

第1節 上の原遺跡群

1次出土遺物

上の原遺跡群1次の報告にて、掲載できなかった出土資料を報告する。

弥生土器（図1、表8）

1は甕で、口縁部が広く、頸部から胴部にかけて広がる。2は壺で、頸部内面と肩部外面に断面が三角形の突帯を一条巡らす。3・4は甕である。3は底部から口縁部は広がりながら立ち上がり、頸部から口縁部が短く外反する。4は底部外底が低い上げ底で、頸部下半に一条の沈線を巡らす。口縁部は外方向へ開く。体部下半から底部にかけて、円形の未穿孔が認められる。

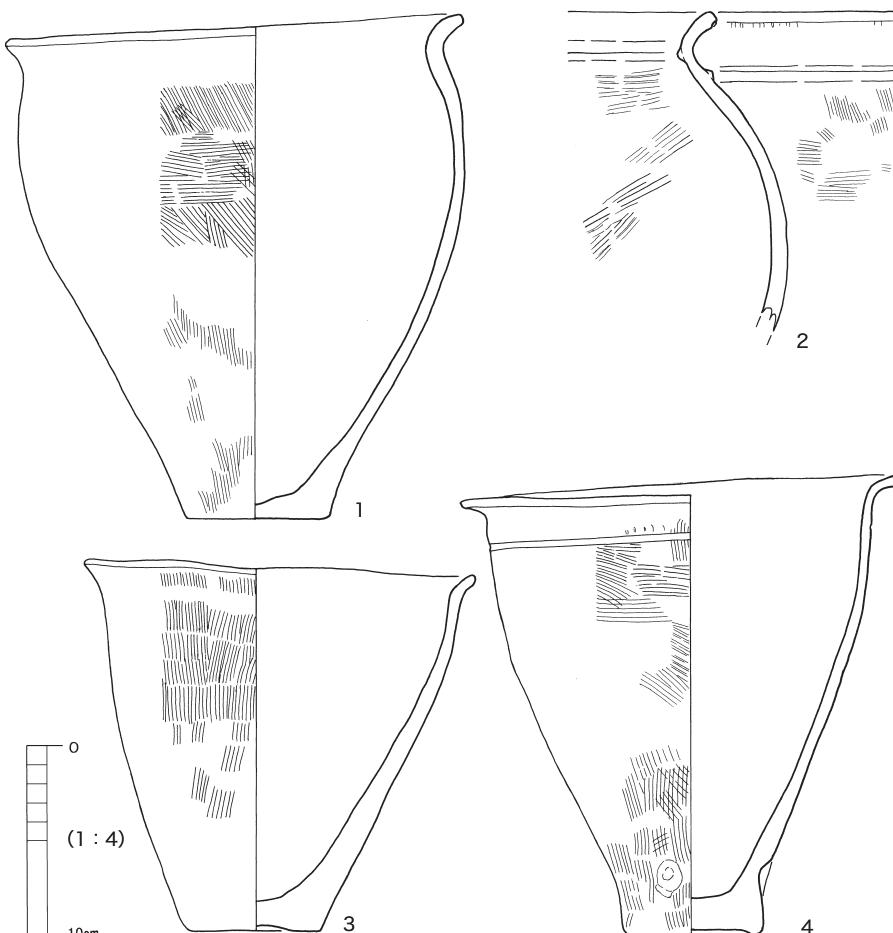


図1 出土遺物実測図

第2節 蛍ヶ丘横穴群出土人骨について

田渕朱莉¹⁾・米元史織²⁾³⁾・舟橋京子³⁾⁴⁾

1) 九州大学地球社会統合科学府

2) 九州大学総合研究博物館

3) 九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

4) 九州大学比較社会文化研究院

はじめに

螢ヶ丘横穴群は福岡県田川市に所在する古墳時代後期の遺跡である。詳細な調査記録は不明であり、塚本（1954）による浦野古墳群視察の報告が実質的に当遺跡の報告であると考えられる。報告では6基の横穴墓が確認され、そのうちの2基より人骨が出土している。人骨の発掘経緯および出土状況などの詳細は不明であるが、螢ヶ丘横穴群出土と記録された人骨4体分が現在九州大学総合研究博物館に保管されており、本稿はこれらの人骨について分析・報告を行う。

分析にあたって、人骨の年齢推定は、柄原の歯牙の咬耗度（柄原 1957）、頭蓋骨の縫合（Buikstra and Ubelaker, 1994）を用いた。性別判定については、頭蓋は Buikstra and Ubelaker (1994) を基準に、眼窩上隆起・乳様突起・外後頭隆起で性判定を行った。計測は Martin-Saller (1957) に従った。

年齢の表記に関しては、九州大学医学部解剖学第二講座編集の『日本民族・文化の生成 2』（九州大学医学部解剖学第二講座編 1988）記載の区分に従い、乳児 0-1 歳、幼児 1-6 歳、小児 6-12 歳、若年 12-20 歳、成年 20-40 歳、熟年 40-60 歳、老年 60 歳以上、成人 20 歳以上（詳細は不明）とする。また齶歯の進行度に関しては石川ほか（1986）に従った。

1. 保存状態

【1号人骨】

〔人骨所見〕

頭蓋骨のみ遺存し、ほぼ完存している。残存歯牙の歯式は以下の通りである。

○歯槽開放 ×歯槽閉鎖 /欠損 △歯根のみ ●遊離歯 ○未萌出 c齶歯 以下同様

〔性別と年齢〕

性別は眼窩上隆起・乳様突起の発達から男性と判定される。年齢は冠状縫合、矢状縫合、ラムダ縫合がそれぞれ内板は癒合するものの、外板はやや開いていること、また歯牙の咬耗が柄原（1957）の 2° a- 2° bであることから熟年であると推定される。

〔特記事項〕

上顎右側第一・第二大臼歯は齲歎である。進行度は第一大臼歯が C₃、第二大臼歯が C₄を示す。また、それぞれ歯槽に齲歎由来の膿胞の痕跡がみられる。

〔形質的特徵〕

頭蓋骨は、脳頭蓋では頭蓋最大長 194mm、頭蓋基底長 97mm、頭蓋最大幅 136 mmで、頭長幅示数は 70.1 を示し、長頭を示す。最小前頭幅 90mm、バジオン・ブレグマ高 139mm で頭長高示数は 71.6 で中頭、頭幅高示数は 102.2 で狭頭を示す。頭蓋水平周 538mm、横弧長 323mm、正中矢状弧長 407mm、正中矢状前頭弧長 140mm、正中矢状頭頂弧長 138mm、正中矢状後頭弧長 129mm、正中矢状前頭弦長 119mm、正中矢状頭頂弦長 123mm、正中矢状後頭弦長 100mm であった。顔面部では顔長 98mm、頬骨弓幅 138mm、中顎幅 106 mm、上顎高 72 mmで、コルマン上顎示数は 52.2 で中上顎、ウィルヒョウ上顎示数は 67.9 で低上顎を示す。眼窩幅 42 mm、眼窩高 33mm で眼窩示数は 78.6 で中眼窩を示す。鼻幅 25mm、鼻高 47mm で鼻示数は 53.2 で広鼻を示す。

【2号人骨】

〔人骨所見〕

$$\begin{array}{ccccccccccccccccccccccccc} / & / \\ \hline / & M_2 & M_1 & P_2 & P_1 & C & I_2 & I_1 & & I_1 & I_2 & C & P_1 & P_2 & M_1 & O & O \end{array}$$

遺存状態は良好ではない。頭蓋骨は後頭骨および左右頭頂骨の一部、左側頭骨の一部が遺存する。下顎骨はほぼ完存する。残存歯牙の歯式は以下の通りである。

〔性別と年齢〕

性別は、外後頭隆起が発達しているものの、乳様突起があまり発達していないことから女性の可能

性がある。年齢は歯牙の咬耗度が柄原(1957)の 1° b- 2° aであることから成年であると推定される。

[形質的特徴]

下顎骨は下顎頭間隔 118 mm、オトガイ高 34 mm、下顎枝角 94 mmである。

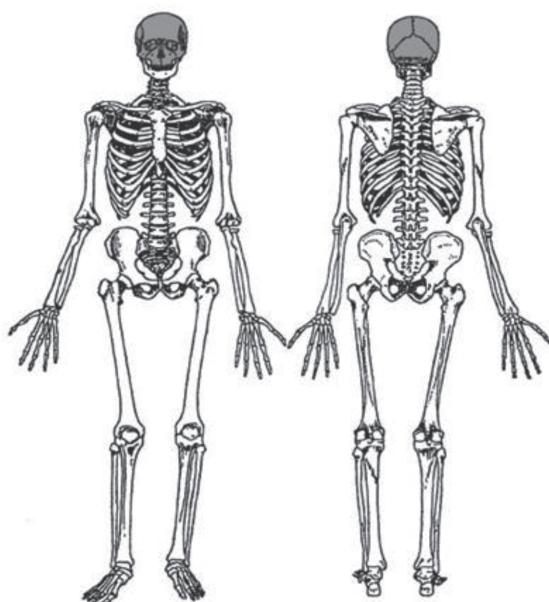


図2 1号人骨遺存状態

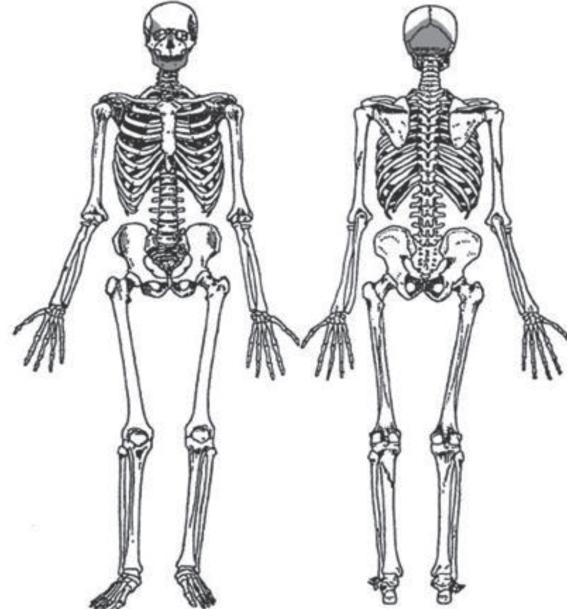


図3 2号人骨遺存状態

【3号人骨】

[人骨所見]

遺存状態は良好ではない。頭蓋骨は後頭骨および左右頭頂骨の一部、左右側頭骨の一部、蝶形骨の一部が遺存する。下肢骨は大転子を除く左大腿骨と内側・外側頸および内果を除く右脛骨、外側頸および遠位端の一部を除く左脛骨、左腓骨の遠位端から骨体部が遺存する。

[性別と年齢]

性別は乳様突起と外後頭隆起が発達していないことから女性と判定される。年齢は不明である。

[形質的特徴]

大腿骨は、最大長 427 mm、自然位長 419 mm、骨体中央部矢状径 23 mm、骨体中央部横径 27 mmで骨体中央断面示数は 85.19 である。骨体中央周は 79 mm で長厚示数は 188.54 である。骨体上横径 31 mm、骨体上矢状径 19 mm で上骨体断面示数は 61.29 である。

左大腿骨最大長に Pearson の身長推定式を適用して身長を算出したところ、推定身長は 155.9 cm であった。

脛骨は全長 320 mm、最大長 324 mm である。中央最大径は 21 mm、栄養孔位最大径は 31 mm、中央横径は 19 mm で、中央断面示数は 90.48 である。栄養孔位横径は 22 mm で、栄養孔位断面示数は 70.97 である。骨体周は 70 mm、栄養孔位周は 81 mm、最小周は 65 mm であることから長厚示数は 20.31 である。

【4号人骨】

[人骨所見]

遺存状態は良好ではない。頭蓋骨は後頭骨の一部および左頭頂骨の一部が遺存している。

[性別と年齢]

外後頭隆起が発達していないことから女性と判定される。年齢は不明である。

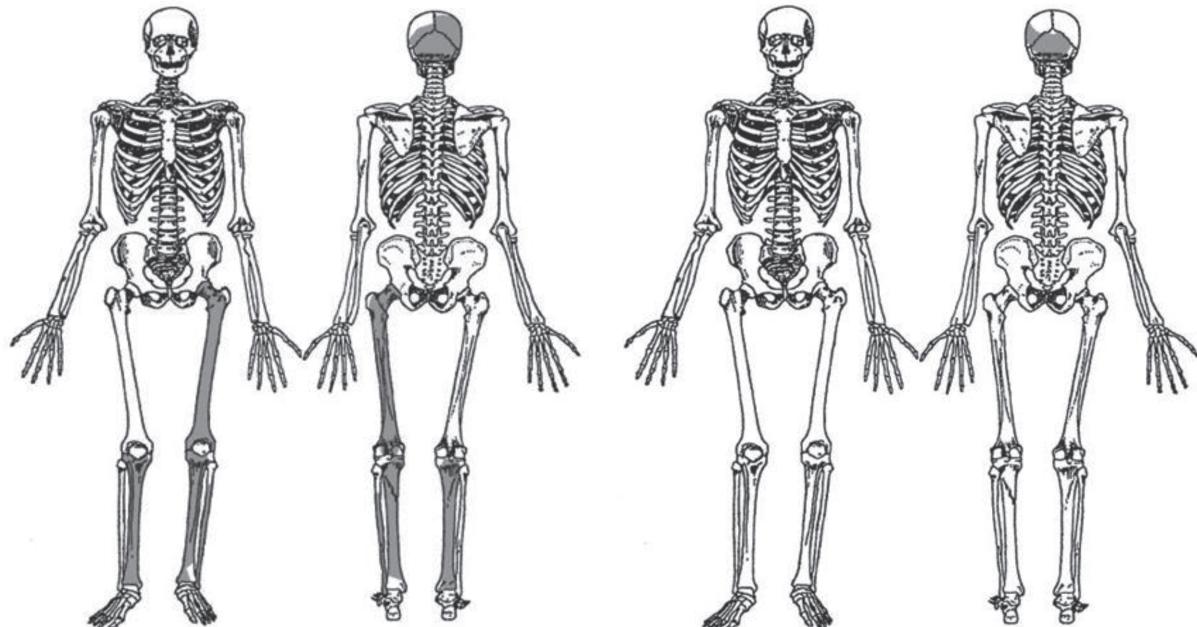


図4 3号人骨遺存状態

図5 4号人骨遺存状態

【所属不明人骨】

性別・年齢不明の右大腿骨・脛骨が、どちらも近位から骨体中位まで残存する。また、性別不明の腰椎が遺存し、リッピングが確認される。

2. 形質的特徴の検討

笛ヶ丘横穴群から出土した人骨のうち計測が可能であったのは1号人骨（頭蓋骨）、2号人骨（下顎骨）、3号人骨（下肢骨）であった。本来形質的特徴の比較分析は、集団を代表させうるに足る個体数を用いた平均値によって行うべきである。しかし、当該地域の資料は少なく、その形質的特徴を明らかにするために、この個体を現時点でどのように位置づけることができるかを検討する意味はあると考える。したがって、以下本横穴群出土人骨と比較群の平均値（表1）との比較を行っていく。

まず頭蓋最大長は比較群中最大の値を示す。頭蓋最大幅は肥前古墳時代人や西南日本現代人に近似するが、比較群中最も小さく、したがって頭長幅示数も最小で、比較群中唯一長頭に属す。Ba-Br高は西南日本現代人に次いで大きく、頭長高示数は比較群中最小で中頭、頭幅高示数は最大で狭頭である。

顔面部では頬骨弓幅で南豊前古墳時代人に最も近く、中顎幅では経塚古墳出土人骨や筑前古墳時代人に近く、比較群中では大きな値をとっていることから、幅が広いことが指摘される。一方上顎高は中間的な値をとっており、示数による比較を行うと、まずコルマン上顎示数では中上顎を示し、筑前・肥前古墳時代人や土井ヶ浜弥生時代人に近い。ウィルヒョウ上顎示数は低上顎で、経塚古墳出土人骨や豊後古墳時代人に近い。

眼窩幅は比較群中最小で、眼窩高も豊後古墳時代人、西北九州弥生時代人、津雲・吉胡縄文時代人に近く、比較群中ではやや小さい値を示すことから、眼窓のサイズがやや小さいことが指摘される。眼窓示数では中眼窓に属し、比較群中では中間的な位置の値である。

鼻部の形についてはまず鼻幅、鼻高共に比較群中最も値が小さく、鼻のサイズが小さいことが示される。鼻示数は広鼻で南豊前古墳時代人に近い。

続いて頭蓋7項目（頬骨弓幅、中顎幅、上顎高、眼窩幅、眼窩高、鼻幅、鼻高）を用いて主成分分析を行った（表2、図6）。結果、第一主成分（X軸：固有値3.188、寄与率45.538%）は全ての項目で正の相関を示すことから、顔面部のサイズを示すと考えられる。したがって図の右側に位置

するほど顔面部のサイズが大きいことが示される。第二主成分(Y軸:固有値1.740、累積寄与率70.402%)は上顎高、眼窓高、鼻高といった顔面部の高径を示す項目で正の相関を示し、頬骨弓幅、中顎幅、眼窓幅、鼻幅といった幅径を示す項目で負の相関を示すことから、図の上方に位置するほど高顎性を示す。

蛍ヶ丘横穴群1号人骨は第一主成分において津雲・吉胡縄文時代人、西北九州・大友弥生時代人、豊後・肥後古墳時代人に似てやや顔面部のサイズが小さいと言えるが、第二主成分においては筑前・筑後・南豊前・筑後古墳時代人に近く、概して北部九州古墳時代人の範疇に入ることが示される。永

表1 頭蓋骨計測値

Martin No.	蛍ヶ丘横穴 経塚古墳 ¹⁾ 1号人骨	筑前 ²⁾ (古墳)		筑後 ²⁾ (古墳)		肥前 ²⁾ (古墳)		肥後 ¹⁾ (古墳)		北豊前 ²⁾ (古墳)		南豊前 ²⁾ (古墳)		豊後 ²⁾ (古墳)				
		N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M			
		194	178	16	186.2	14	184.4	4	184.3	6	179.83	18	180.2	9	182	13	180.4	
8頭蓋最大幅		136	(142)	18	142	14	142.5	5	139.8	6	143.17	21	141.4	9	140.3	16	140.4	
17 Ba-Br高		139	131	13	136.8	11	136.4	6	132.3	7	135.29	13	135.2	6	136	12	132.6	
8/1頭長幅示数		70.1	(79.8)	14	76.3	13	77.4	3	75.7	4	78.793	18	78	9	77.2	13	78	
17/1頭長高示数		71.6	73.6	10	73.6	10	73.9	4	72.3	5	76.645	11	74.5	6	74.8	11	73.4	
17/8頭幅高示数		102.2	(92.2)	12	95.3	11	95.7	5	94.6	5	94.669	13	96	6	95.4	12	95	
45頬骨弓幅		138	(147)	17	139.4	6	140.3	7	139.4	5	141.4	11	136.9	5	137.8	10	138.5	
46中顎幅		106	107	21	105.2	9	104.1	9	104.4	8	103.63	18	104.6	6	104.7	16	101.8	
47顎高				117	12	121.3	5	120.6	5	118.6	7	113.86	7	124.7	3	122.3	11	118.3
48上顎高		72	73	19	72.9	9	72.1	7	72.4	6	66.5	16	72.9	6	71.7	17	69.4	
47/45顎示数(K)				(79.6)	11	85.9	4	84.4	4	84.1	4	82.064	5	90.9	3	89.9	7	83.5
47/46顎示数(V)				(109.3)	12	113.7	5	116.3	5	113.8	6	111.17	7	115.8	3	118.3	9	114.6
48/45上顎示数(K)		52.2	49.7	16	52.1	6	50.7	6	52	4	47.472	10	54	5	51.8	10	49.7	
48/46上顎示数(V)		67.9	68.2	19	68.9	9	69.4	7	69.3	6	64.325	16	69.5	6	68.5	16	68.2	
51眼窓幅		42	46r	16	43.9	8	43.6	6	45.3	7	43.571	17	42.6	5	42.4	13	42.8	
52眼窓高		33	35r	17	34.9	8	33.5	6	33.8	6	32.167	17	34.2	6	33.8	13	33	
52/51眼窓示数		78.6	76.1r	15	79.9	8	76.9	6	74.7	6	73.099	17	80.4	5	80.1	13	77.1	
54鼻幅		25	30	19	26.5	11	26.7	8	26.8	6	26.333	16	25.9	6	27	16	26.8	
55鼻高		47	54	19	52.5	10	52.1	9	51	8	49.75	16	50.5	6	51	18	49.7	
54/55鼻示数		53.2	55.6	19	50.8	10	51.4	8	53.8	6	52.6	15	51.5	6	52.9	16	54.2	

1)九州大学医学部解剖学第二講座(1988) 2)Doi and Tanaka (1987) 3)4)中橋・永井(1989) 5)松下(1981) 6)内藤(1971) 7)清野・宮本(1926),金高(1928) 8)原田(1954)

	土井ヶ浜 ³⁾ (弥生)		北部九州 ⁴⁾ (弥生)		大友 ⁵⁾ (弥生)		西北九州 ⁶⁾ (弥生)		津雲・吉胡 ⁷⁾ (縄文)		西南日本 ⁸⁾ (現代)	
	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
	52	182.8	118	183.7	24	183.7	21	182.8	60	184.2	108	181.4
8頭蓋最大幅	54	142.6	117	142.4	24	143.3	20	144.9	62	144.9	108	139.3
17 Ba-Br高	43	134.7	101	137.7	20	135.6	15	134.6	26	135.5	108	139.3
8/1頭長幅示数	48	78.1	104	77.7	21	77.9	20	79.1	55	78.7	108	76.9
17/1頭長高示数	42	73.7	91	75.3	18	94.4	15	74.1	25	73.3	108	76.9
17/8頭幅高示数	43	94.3	91	97	7	83.85	14	93.1	26	93.6	108	100.1
45頬骨弓幅	27	139.4	103	140	9	140.7	12	138.4	16	141	106	134.5
46中顎幅	37	103.4	114	104.7	24	101.8	17	105	31	103.8	107	99.9
47顎高	36	123.4	80	123.8	18	118.7	14	117.1	25	115	66	122.2
48上顎高	35	72.4	114	74.8	16	66.63	17	68.1	28	66.3	92	71.8
47/45顎示数(K)	24	88.5	71	88.4	7	83.85	12	84.6	10	80.4	64	91.4
47/46顎示数(V)	34	119.3	74	118.4	17	116.6	14	111.78	18	110.4	65	122.2
48/45上顎示数(K)	21	51.9	95	53.3	7	47.55	12	49.3	10	47	90	53.5
48/46上顎示数(V)	31	70	105	71.5	15	64.46	17	64.8	22	63	91	71.8
51眼窓幅	38	42.7	89	43.2	23	43.96	15	43.1	40	43.2	108	43
52眼窓高	40	34.2	93	34.5	24	33.54	15	32.8	38	33.2	108	34.4
52/51眼窓示数	38	80.1	86	79.9	22	76.48	15	76.2	32	77.5	108	80.2
54鼻幅	38	27.1	117	27.1	25	27.36	16	27.7	36	26.5	108	25.9
55鼻高	39	53.1	116	52.8	23	50.74	16	51	30	48.1	108	52.2
54/55鼻示数	36	51	113	51.4	22	54.49	16	54.4	27	54.7	108	49.8

井(1981・1985) や Doi and Tanaka(1987) では、九州の古墳時代人骨について、筑前地域を中心として、距離が離れるごとに低顔性が強くなることが確認され、各地域における渡来人との混血による遺伝的影響の差であると考えられている。螢ヶ丘横穴群1号人骨は第二主成分において正の値を示しているものの、渡来人との混血が進んでいたと考えられる北部九州弥生時代人や筑前古墳時代人に比べやや低い。したがって渡来人による遺伝的影響を受けつつも、その中心地域ほど混血が進んでいなかった可能性が考えられる。

また、同じく遠賀川上流域に位置する経塚古墳出土人骨と比較すると、経塚古墳出土人骨は螢ヶ丘横穴群1号人骨を含む九州古墳時代人骨の集団から離れ、唯一第4象限にプロットされる。経塚古墳出土人骨は全体的に数値が大きいが、上顎高や眼窓高といった顔面部の高径に対し、頬骨弓幅、中顎幅、眼窓幅、鼻幅といった幅径が特に大きいことが起因すると考えられる。経塚古墳の築造年代は出土遺物から古墳時代中期末と考えられており(児島 渡辺 1961)、螢ヶ丘横穴群に先行するものの、近接した地域内において異なる形質をもった人々が存在していたことが考えられる。

以上の二つの可能性については、サンプル数が少ないこともあり、今後の人骨資料の増加を待って再度検討する必要がある。ここでは、田川地域における渡来人との関わりや、同地域内に異なる形質をもった人々が存在する背景について、考古学的情報をもとに考察を行いたい。

古墳時代、特に中期は日本列島各地で大陸の進んだ文化・技術を積極的に受容した時代であるが、田川地域においても、朝鮮半島との交流を伺わせる考古資料が確認されている。まず田川市伊田所在の猫迫1号墳・セスドノ古墳は共に5世紀代の古墳であるが、その石室構造について、韓国大邱市達西古墳群と類似することが指摘されている(森下 1987; 福本 2004)。また、セスドノ古墳では金冠の装飾と考えられる破片や金銅製垂飾付耳飾も出土しており(田川市 1984)、伽耶・新羅との結びつきが考えられる。

古墳時代後期になると、田川地域では横穴墓が数多く築造され、螢ヶ丘横穴群もそのうちの一つと考えられる(小方 長谷川 1982)。螢ヶ丘横穴群から出土した遺物としては須恵器、刀、刀子、馬具、鏡、玉類などがあげられるが、出土状況などは不明である(花村 1974)。また先述の塚本によると、「相当腐蝕した耳飾腕輪類」(塚本 1954)も確認されているが、詳細は不明である。一方、香春町に位置する長畠古墳からは金製垂飾付耳飾が出土し(香春町 1998)、高田寛太氏はこれを洛東江以東地域を中心に分布する型式であるとしている(高田 2014)。そのほか遠賀川上流域と朝鮮半島との繋がりを示唆する遺跡としては櫛山古墳、小西正古墳などがあげられ、いずれも特に新羅との結びつきが示唆されている(嶋田 1991; 亀田 2004; 高田 2014)。これらの考古学的情報に加え、『豊

表2 頭蓋骨計測値7項目の固有ベクトルと各成分の固有値及び寄与率

	主成分負荷量	
	第一主成分	第二主成分
頬骨弓幅	0.745	-0.652
中顎幅	0.647	-0.085
上顎高	0.555	0.813
眼窓幅	0.689	-0.348
眼窓高	0.634	0.534
鼻幅	0.746	-0.378
鼻高	0.688	0.314
固有値	3.188	1.740
累積寄与率 (%)	45.538	70.402

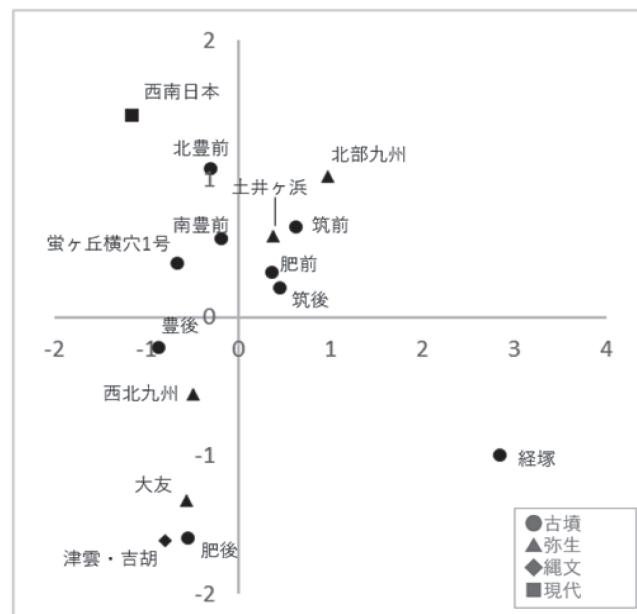


図6 主成分分析結果

『前国風土記』の逸文には現在の香春町にあたる鹿春郷に「新羅國神」が渡來したとの記載もあり（中野 2001）、文献史学からも遠賀川上流域と新羅との関係性が示唆されている。

以上、少なくとも古墳時代中期以降、田川地域を含む遠賀川流域が朝鮮半島、特に新羅との関わりを有していたことは十分に考えられる。螢ヶ丘横穴群における具体的な被葬者像や、渡来人との直接的な関係については現状明らかにすることは出来ない。しかし、古墳時代後期に至り、螢ヶ丘横穴群1号人骨のような高顎傾向を示す人々が存在し得た背景として、上記のような遠賀川上流域と朝鮮半島との交流を考えることもできる。しかしこのような交流が果たして横穴墓を造営した階層の人々にまで影響を与えていたか、といった具体的な混血の過程については今後の史料の増加を待って再度検討していく必要がある。

おわりに

以上、螢ヶ丘横穴群出土人骨について報告を行ってきた。同遺跡からは少なくとも4体分の人骨が出土しているが、遺存状態は良好ではないため、計測に耐えうる人骨は少ない。

人骨の形質的特徴としては、1号人骨の頭蓋骨について比較を行った。結果、計測値による比較では長頭であること、また顔面部に関しては眼窩や鼻が比較的小さいことが示された。顔面部の計測項目を用いた主成分分析によると、やや顔が小さく、高顎性を示し、北部九州古墳時代の集団に類似することが示された。同じく遠賀川上流域に位置する経塚古墳出土人骨と比較した場合、経塚古墳出土人骨は顔が大きく低顎性を示すことから、形質的類似性は低いという結果が得られた。

【謝辞】

最後になりましたが、本研究と発表の機会を与えていただき、貴重なご教示、ご助力を賜った江上正高氏をはじめとする田川市教育委員会各位の皆様に深謝いたします。

《文献》

- 石川梧朗 小椋秀亮 塩田重利 砂田今男 1986『新歯学大事典』永末書店
小方泰宏 長谷川清之 1982『田川歴史資料集(1)－古墳時代編一』田川歴史懇話会
香春町教育委員会 1998『長畑遺跡 宮原遺跡小倉古墳 才立横穴墓』香春町文化財調査報告書第10集
香春町教育委員会
九州大学医学部解剖学第二講座 1988『日本民族・文化の生成2』六興出版
金高勘次 1928「吉胡貝塚人骨の人類学的研究」『人類学雑誌』43
亀田修一 2004「豊前西部の渡来人－田川地域を中心にして」『福岡大学考古学論集 一小田富士雄先生退職記念一』小田富士雄退職記念事業会
児島隆人 渡辺正気 1961『福岡県文化財調査報告書 第二十一輯 嘉穂郡頬田町きょう塚古墳発掘調査報告』福岡県教育委員会
清野謙次 宮本博人 1926「津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第2部 頭蓋骨の研究」『人類学雑誌』41
佐野一 1961「きょう塚古墳の人骨について」『福岡県文化財調査報告書 第二十一輯 嘉穂郡頬田町きょう塚古墳発掘調査報告』福岡県教育委員会
嶋田光一 1991「福岡県櫛山古墳の再検討」『古文化談叢 児島隆人先生喜寿記念論集』児島隆人先生喜寿記念事業会
高田寛太 2014『古墳時代の日朝関係－新羅・百濟・大伽耶と倭の交渉史－』吉川弘文館
田川市教育委員会 1984『セスドノ古墳』田川市文化財調査報告書第11集 田川市教育委員会
塚本勇二 1954「附録五 浦野古墳群視察記」『田川の実態』田川教育研究所
柄原博 1957「日本人歯牙の咬耗に関する研究」『熊本医学会雑誌』31
永井昌文 1981「III. 古墳時代人骨（シンポジウム 骨からみた日本人の起源）」『季刊人類学』12-1

- 永井昌文 1985 「北部九州・山口地方（シンポジウム 国家成立前後の日本人—古墳時代人骨を中心
に—）」『季刊人類学』16-3
- 中野幡能 2001 「第1節 律令時代以前—記紀と風土記の世界」『香春町史』上 香春町
- 中橋孝博 永井昌文 1989 「弥生人の形質」『弥生文化の研究』1 雄山閣出版
- 内藤芳篤 1971 「西北九州出土の弥生人骨」『人類学雑誌』79
- 花村利彦 1974 「第三章 古墳文化時代の田川」『田川市史』上巻 田川市役所
- 原田忠昭 1954 「現代西南日本人頭骨の人類学的研究」『人類学雑誌』1
- 福本寛 2004 「第3節 田川地域における古墳時代中期の様相—猫迫1号墳の位置づけ—」『猫迫1号
墳』田川市教育委員会
- 松下孝幸 1981 「佐賀県大友遺跡出土の弥生人骨」『大友遺跡』呼子町郷土史研究会
- 森下浩之行 1987 「九州型初期横穴式石室考」『古代学研究』第115号
- Buikstra J. H. and Ubelaker D. H. 1994. Standards for Data Collection From Human Skeletal
Remains. Fayetteville, Arkansas: Arkansas Archaeological Survey Report Number 44.
- Doi Naomi and Tanaka Yoshiyuki. 1987. A Geographical Cline in Metrical Characteristics of
Kofun Skulls Western Japan. 人類学雑誌 19-3
- Martin-Saller. 1957 Lehrbuch der Anthropologie. Bd. 1. Gustav Fisher Verlag. Stuttgart.

表8 遺物観察

試掘・確認調査

調査地/出土遺跡	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
上本町遺跡隣接地	73-1	12-④	弥生土器	甕	5.4	5.2	5.4	5YR7/6橙色 7.5YR8/3浅黄橙色	φ1~2mmの長石、雲母を含む/良	マメツ	市道上本町3号線工事立会
川宮遺跡	73-2	12-④	土師器	塊	3.3			5YR5/8明赤褐色 5YR5/8明赤褐色	φ1mmの長石、石英を含む/良	ナデ	
弓削田原D遺跡T4 3層下層	73-3	12-④	土師器	耳皿	2.0			7.5YR7/4にぶい橙色 7.5YR7/4にぶい橙色	φ1mmの白色粒子を含む/良	ナデ	
T3 4層	73-4	12-④	土師器	皿	1.1			7.5YR8/2灰白色 7.5YR8/2灰白色	φ1~2mmの長石を含む/良	ナデ	
T3 4層	73-5	12-④	須恵器	鉢か	2.2			5B6/1青灰色 5B6/1青灰色	φ1mmの白色粒子を含む/良	ナデ	
T3 4層	73-6	12-④	須恵器	高杯か	2.8			N8/ 灰白色 N8/ 灰白色	φ1mmの白色粒子を含む/良	ナデ	
T2 1層	73-7	12-④	須恵器	ハソウ	2.2			N4/ 灰白色 N4/ 灰白色			
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					残存長	残存幅	残存厚				
T3 4層	73-8	12-⑤	木器	不明	11.4	4.2	3.0		残存1/4、容器か		
T7 5層	73-9	12-⑤	木器	蓋	(17.0)		1.0		残存約1/2、穿孔5ヵ所		
調査地/出土遺跡	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
舗21-1	73-10	12-④	磁器	碗	11.4	5.8	3.2		良	施釉	外底に「1230」銘
舗21-1	73-11	12-④	磁器	皿	13.7	3.6	7.0		良	施釉	
舗21-1	73-12	12-④	磁器	湯呑	(5.6)	5.1			良	施釉	創立五週年記念○川炭礦労働○ TTR
舗21-1	73-13	12-④	ガラス	瓶	1.4	10.9					「九州栄養保険研究所」エンボス加工
調査地/ 出土遺跡	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
上の原遺跡群	73-14	12-④	弥生土器	壺	4.2			7.5YR6/3にぶい褐色 7.5YR8/6浅黄橙色	φ2~4mmの長石、石英を含む/良	ナデ、口縁部沈線	舗495-2 淨化槽工事立会
上の原遺跡群	73-15	12-④	弥生土器	壺	3.4			7.5YR6/3にぶい褐色 7.5YR6/3にぶい褐色	φ2~4mmの長石、石英を含む/良	ナデ	舗495-2 淨化槽工事立会
上の原遺跡群	73-16	12-④	弥生土器	壺	5.8			7.5YR7/8黄橙色 7.5YR1.7/1黒色	φ2~4mmの長石、石英、雲母を含む/良	ハケ、ナデ、二条突帶	舗495-2 淨化槽工事立会
上の原遺跡群	73-17	12-④	弥生土器	壺	4.7	(7.8)		5YR7/8橙色 7.5YR8/8黄橙色	φ2~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ	舗495-2 淨化槽工事立会
上の原遺跡群	73-18	12-④	弥生土器	壺	3.1	1.3		2.5YR6/6橙色 5YR8/2灰白色	φ2~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ	舗495-2 淨化槽工事立会
上の原遺跡群	73-19	12-④	白磁	碗	2.9				良	施釉	舗487 確認調査T4
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					残存長	残存幅	残存厚				
上の原遺跡群	73-20	12-④	石製品	石劍	3.0	2.8	0.7		14.6	舗487 T2 (SD90)	
鎮西遺跡											
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					残存長	残存幅	残存厚				
SD3 上層	76-1	13-④	瓦	熨斗瓦	8.7	8.1	2.2	7.5YR6/8橙色 7.5YR6/8橙色	φ1~2mmの長石、石英を含む/良	外:格子目タタキ、内:布目痕	
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
SK6	76-2		弥生土器	壺	5.7	(7.0)		5YR7/4にぶい褐色 5YR7/4にぶい褐色	φ1~6mmの長石、石英、雲母を含む/良	底部断面に、混和材(粘板岩?)	
下層	76-3		弥生土器	壺	6.0	(8.0)		5YR6/6橙色 5YR6/2灰褐色	φ1~5mmの長石、石英、角閃石を含む/良	ナデ、マメツ	
下層	76-4		弥生土器	甕	(31.0)	12.7		10YR7/8黄橙色 10YR7/8黄橙色	φ1~6mmの長石、石英、角閃石を含む/良		
下層	76-5		弥生土器	甕	6.5	(8.0)		7.5YR6/6橙色 7.5YR6/2灰褐色	φ1~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ、マメツ	
下層	76-6		弥生土器	甕	5.0	6.4		2.5YR5/6明赤褐色 5YR3/1黑褐色	φ1~5mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ、マメツ	
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (残存)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					最大長	最大幅	最大厚				
SK6	76-7		石製品	砥石	8.7	4.4	(4.5)		257	砂岩	

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
SK7	76-8		弥生土器	甕	10.1			2.5YR6/2灰赤色 2.5YR3/1暗赤灰色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ、タテ工具ミガキ、ハケ 後ミガキ	
SK7	76-9		弥生土器	甕	4.5	6.5		7.5YR6/6橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ、マメツ、タテミガキ	
SK8	76-10		弥生土器	壺	6.1			10YR7/8黄橙色 5YR6/8橙色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ、ハクリ、ナデ後矢羽根	
SK8 中層	76-11		弥生土器	壺	7.1	10.4		10YR7/8黄橙色 5YR6/6橙色	φ1~5mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ、マメツ、ミガキ	
SK8 中層	76-12		弥生土器	甕	5.4	4.2		10YR6/4にぶい橙色 10YR6/4にぶい橙色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ	
SK10	77-13		弥生土器	壺	(25.0)	14.3		10YR6/6橙色 10YR6/6橙色	φ1~6mmの長石、石英、雲母、片岩を含む/良		
上層	77-14		弥生土器	壺	3.7			10YR6/6明黄褐色 10YR6/6明黄褐色	φ1~5mmの長石、石英、角閃石を含む/良	マメツ	
上層	77-15	14-①	弥生土器	壺	13.7			7.5YR7/6橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ、マメツ	
上層	77-16		弥生土器	壺	7.0	7.1		7.5YR6/6橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	φ1~6mmの長石・石英、角閃石を含む/良	マメツ	
中層	77-17		弥生土器	壺	19.8	9.0		7.5YR7/4にぶい橙色 7.5YR6/2灰褐色	φ1~8mmの長石、石英を含む/良	ナデ、ハクリ	
上層	77-18		弥生土器	壺	9.0	(10.6)		2.5YR6/6橙色 2.5YR6/6橙色	φ1~3mmの長石、石英、角閃石を含む/良	マメツ、工具ナデ、ナデ	
中層	77-19		弥生土器	壺	6.4	8.0		2.5YR6/6橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~6mmの長石、石英を含む/良	マメツ、ナデ	
上層	77-20		弥生土器	壺	7.2	(11.4)		7.5YR6/4にぶい橙色 7.5YR6/4にぶい橙色	φ1~5mmの長石、石英を含む/良	ナデ、ハケ、ユビオサエ	外底2.5YR6/6橙色 貼付によるものか
上層	77-21		弥生土器	壺	4.8	(6.6)		2.5YR5/8明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	マメツ	
上層	77-22		弥生土器	壺	5.1	8.4		10YR7/4にぶい黄橙色 10YR6/2灰黄褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	マメツ	
上層	77-23		弥生土器	甕	(26.8)	10.5		2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	φ1~6mmの長石、石英を含む/良	マメツ	粒子を多く含む
下層	77-24		弥生土器	甕	5.6			7.5YR7/6橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	マメツ	
上層	77-25		弥生土器	甕	7.7	7.4		2.5YR6/4にぶい橙色 2.5YR6/4にぶい橙色	φ1~2mmの長石、石英を含む/良	マメツ	
上層	77-26		弥生土器	甕	7.6	6.5		5YR6/6橙色 7.5YR7/4にぶい橙色	φ1~2mmの長石、石英を含む/良	マメツ	
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (残存)			色調	胎土/焼成	備考	
					最大長	最大幅	最大厚	外: 内:			
SK10	77-27	14-②	弥生土器	人形土製品	(6.1)	3.6	2.3	7.5YR6/8橙色 7.5YR6/8橙色	φ1~2mmの長石、石英を含む/良		
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径	外: 内:			
S1 上層	77-28		弥生土器	甕	(10.5)			10YR6/4にぶい黄橙色 10YR6/4にぶい黄橙色	φ1~5mmの長石、石英、角閃石を含む/良	マメツ、ハケ、ナデ、ハクリ	
S1 ベルト	77-29		弥生土器	壺	9.0	(9.0)		7.5YR7/4にぶい橙色 2.5YR6/6橙色	φ1~5mmの長石、石英を含む/良	ナデ、マメツ、工具ナデ	
上層	77-30		弥生土器	甕	6.7	(8.0)		7.5YR7/6橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~5mmの長石、石英、角閃石を含む/良	ナデ、マメツ	
上層	77-31		弥生土器	甕	4.6	(8.0)		5YR6/8橙色 5YR4/4褐色	φ1~3mmの長石、石英、角閃石を含む/良	ナデ、マメツ、ハクリ	

猫追1号墳3次

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	残存高				
表土	79-1	15-⑥	埴輪	円筒埴輪			5.3	2.5YR5/8明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良	ナデ、斜ハケ	
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					最大長	最大幅	最大厚				
表土	79-2	15-⑥	埴輪	形象埴輪	5.7	4.1	1.8	7.5YR7/6橙色 7.5YR6/2灰褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/良		市指定文化財武人埴輪の頃か
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	最大径				
SI 1	79-3	15-⑥	土師器	甕	20.2	21.8	(25.8)	2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	φ1~5mmの長石、石英を含む/良	ナデ、マメツ、工具 ナデ、ハケ	

大黒町遺跡

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
SN6	83-1	16-④	白磁	碗	3.8			5GY灰白色 5GY灰白色	良		VIII-2類か
S7	83-2	16-④	土師器	皿	1.8	(8.4)		10YR6/1褐色 10YR6/1褐色	φ1mmの粒子を含む/良	ナデ、回転ナデ、マメツ	
SD8 8層	83-3	16-④	瓦器	塊	3.3			10YR5/1褐色 10YR7/2にぶい黄橙色	φ1mmの粒子を含む/良	オサエ、ナデ	
8層	83-4	16-④	青磁	碗	1.8			2.5GY5/1オリーブ灰色 2.5GY5/1オリーブ灰色	良	施釉	龍泉窯系碗II類
8層	83-5	16-④	青磁	碗	1.2	(9.8)		2.5GY5/1オリーブ灰色 2.5GY5/1オリーブ灰色	良	施釉	龍泉窯系碗II類
8層	83-6	16-④	白磁	碗	2			5GY灰白色 5GY灰白色	良	施釉	IV類
8層	83-7	16-④	陶器	擂鉢	4.5			2.5YR4/4にぶい赤褐色 2.5YR3/1暗赤褐色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	施釉	
8層	83-8	16-④	須恵器	甕	2.5			2.5Y7/1灰白色 5B4/1暗青灰色	φ1~2mmの長石・石英を含む/良	回転ナデ、灰被り	

弓削田条里跡

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
4次 8層	86-1	18-①	弥生土器	壺	6.3	8.4		7.5YR6/2灰褐色 7.5YR7/2明褐色	φ1~3mmの長石・石英、角閃石を含む/良	ナデ	

上の原遺跡群6次

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
S1150 床面	89-1	20-②	土師器	甕	2.8			2.5VR5/8明褐色 2.5YR5/8明褐色	φ1~2mmの長石・石英を含む/良	ナデ、ハケ	
法量 cm (復元値)											
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)	備考		
SI210 1層	89-2	20-②	石製品	石庖丁	7.4	4.7	0.6	36.5	砂岩		
1層	89-3	20-②	石製品	石庖丁	6	6.4	0.5	29.3	赤色泥岩(輝緑)		
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
SK205 3・4層	89-4		弥生土器	壺	12.5			5YR5/3にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	φ1~5mmの長石・石英を含む/良	ハクリ、工具ナデ	最大径(23.2cm)
3・4層	89-5	19-⑦	弥生土器	壺	23.3			7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい橙色	φ1~5mmの長石・石英・雲母を含む/良	ナデ	
3・4層	89-6		弥生土器	壺	11.3			7.5YR6/8橙色 7.5YR7/8黄橙色	φ1~6mmの長石・石英を含む/良	ナデ、ユビナデ	
3・4層	89-7		弥生土器	壺	9.5	7.2		7.5YR6/2灰褐色 7.5YR7/4にぶい橙色	φ1~3mmの長石・石英・雲母を含む/良	ハクリ、タテミガキ、ナデ	
3・4層	89-8		弥生土器	壺	9.0	(10.0)		5YR5/8明赤褐色 5YR6/4にぶい橙色	φ1~5mmの長石・石英・角閃石を含む/良	ナデ、ハケ、マメツ	
3・4層	89-9		弥生土器	壺	7.8	9.1		7.5YR7/8黄橙色 7.5YR7/8黄橙色	φ1~5mmの長石・石英・雲母を含む/良	ナデ、マメツ	
3・4層	89-10		弥生土器	甕	12.0			10YR6/2灰黒褐色 7.5YR6/8橙色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	ナデ、ハケ	
3・4層	89-11		弥生土器	甕	5.2	6.6		5YR5/8明赤褐色 5YR3/1黒褐色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	ナデ	
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	頂部径				
3・4層	89-12	20-①	弥生土器	蓋	22.8	14.9	8.2	10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	ナデ、ミガキ	黒斑
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			外: 色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
SK205 9層	89-13	20-①	弥生土器	壺	(7.0)	9.3	3.0	10YR7/6明黄褐色 10YR7/6明黄褐色	φ1~3mmの長石・石英・角閃石を含む/良	ナデ	
SK215	89-14		弥生土器	壺		3.2		7.5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	φ1~3mmの長石・石英・角閃石を含む/良	ナデ	
SK215	89-15		弥生土器	甕		6.9		10YR6/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	マメツ	
SK215	89-16		弥生土器	甕		7.4		10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石・石英・雲母を含む/良	ナデ、ハケ、マメツ	
SK215	89-17		弥生土器	甕		4.8	7.6	7.5YR6/2灰褐色 7.5YR6/2灰褐色	φ1~3mmの長石・石英を含む/良	ナデ、ハケ	

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	頂部径				
SK215	89-18		弥生土器	蓋	5.9	6.4	7.5YR7/4にぶい橙色 7.5YR7/6橙色	φ1~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ		
<hr/>											
出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		備考	
SK215	89-19	20-②	石製品	石劍	4.7	3.5	1.5	37.6	安山岩		

上の原遺跡群1次

出土遺構	挿図番号	図版番号	種類	器種	法量 cm (復元値)			色調 外: 内:	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底経				
P3	図1-1		弥生土器	壺	24.0	26.1	7.5	7.5YR6/6橙色 7.5YR4/4褐色	φ1~5mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/良	ハケ、ナデ	外面肩部～体部に黒斑
P2	図1-2		弥生土器	壺	(37.0)	16.9		7.5YR6/6橙色 7.5YR7/3にぶい橙色	φ1~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ハケ、ナデ、工具ナデ	
P4	図1-3		弥生土器	甕	20.4	19.7	7.0	5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	φ1~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ハケ、ナデ、工具ナデ	外面肩部～体部は黒斑、体部～底部は赤斑
P9	図1-4		弥生土器	甕	22.8	23.9	7.3	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、雲母を含む/良	ナデ、ハケ、沈線	未穿孔

表9 遺構台帳

番号	調査原因	トレンチ	土質・土色	出土遺物
上本町遺跡隣接地	工事立会			弥生土器片
川宮遺跡	工事立会	3層		弥生土器片、土師器、現代陶器
弓削田原D遺跡	試掘調査	T1	3層 黒色粘質土	近世磁器片、土器片
		T2	1層 表土	須恵器片
		T3	4層 青灰色粘質土	須恵器片、土師器片(耳皿)、木製品
		T4	3層 黒色粘質土	土師器(板状压痕)皿片
		T5	3層 黒色粘質土	土師器片
		T7	4層 青灰色粘質土	土師器片、木製品(木蓋)
襦21-1外	試掘調査	T2	造成土(褐色粘質土)	磁器片、ガラス片、土管破片
上の原遺跡群 (襦495-2)	工事立会	1 造成土, 2 5YR3/1黒褐色粘質土, 3 5YR3/2暗赤褐色粘質土 柱穴跡検出層, 4 5YR3/6暗赤褐色粘質土		1より土師器片, 3より弥生土器片
上の原遺跡群 (襦487)	確認調査	T1 T2 T4		弥生土器片 石剣片 弥生土器片、白磁碗IV類、現代磁器片
鎮西遺跡				
番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S1		黒褐色粘質土 単層 耕作土か		弥生土器片、腰ob
S2	攪乱	現代柱穴跡		
S3	SD3	褐色粘質土 $\phi 1mm$ のマンガン沈着 粘質高い 単層		熨斗瓦(上層)
S4	SK4	浅茶色土 単層 (旧)S4→S3→S1(新)		弥生土器片
S5	SK5	長方形土坑 (旧)S5→S10(新) 茶褐色粘質土 単層		弥生土器片 S5取上げ遺物は、S10として扱う
S6	SK6	長方形土坑 (旧)S6→S1(新)		弥生土器片、砾石
S7	SK7	長方形土坑 (旧)S7→S1(新) 3層		弥生土器片
S8	SK8	長方形土坑 (旧)S8→S1(新) 2層		弥生土器片
S9	SK9	長方形土坑 (旧)S9→S1(新)		弥生土器片
S10	SK10	長方形土坑 (旧)S5→S10(新) 3層		弥生土器片
S11		調査区南壁 浅い凹み 堆積層か		
猫迫1号墳3次				
番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S1	SI1	隅丸方形 柱跡無		土師器片
S2	SK2	土坑跡 灰白色粘質土 粘性弱い 単層		
S3	SK3	土坑跡 壓穴建物跡か 3層		
P1	SP1	柱穴跡		土器片
P2	SP2	柱穴跡		土器片
P3	SP3	柱穴跡		土器片
表採				10銭硬貨
猫迫1号墳4次				
番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S4	SI2			
S5	SI3			

大黒町遺跡

番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S1		包含層		弥生土器片
S2		攪乱		
S3	SN3		7.5YR4/2灰褐色粘質土 粘性が高い	
S4	SN4		7.5YR5/2灰褐色粘質土 粘性が高い	弥生土器片
S5	SD5		南北に検出、西側へ曲がるか	
S6	SN6		7.5YR5/1褐色粘質土 粘性が高い 鉄分が斑状に沈着する	輸入陶磁器(白磁)
S7			7.5YR3/2黒褐色粘質土 褐色粒子を斑状に含む、攪乱	土器
S8	SD8		7.5YR5/1褐色粘質土 S3・S6と同一土質	須恵器、瓦器、輸入陶磁器、陶器
S9			レンガ構築物4基	

弓削田条里跡1~4次

番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S1		1・2次9・10層	水田層か	9層磁器片
S2		3次8層	有機物層	弥生土器壺底部片、木製品
S3		3次9・10層	有機物層、4次7層	木製品

上の原遺跡群6次

番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S150	SI150	5次調査区東隣		土師器片
S205	SK205	楕円形土坑跡、灰褐色粘質土		弥生土器片
S210	SI210	P1 7.5YR2/1黒褐色粘質土 しまり弱い		弥生土器片、石製品
S215	SK215	調査区北側壁面、平面台形か		弥生土器片、石製品
P687	SP687	柱穴跡		土器片
P688	SP688	柱穴跡		土器片
P689	SP689	柱穴跡		土器片
P690	SP690	柱穴跡		土器片
P691	SP691	柱穴跡		土器片
表土				土器片

弓削田条里跡5次

番号	遺構番号	グリット	土質・土色	出土遺物
S1	SN1		白色砂礫層	